

部 内 秘

婦人関係資料シリーズ
調査資料 No. 15

保存資料
②

婦人の職業生活に関する世論調査

1954年2月調査

總理府国立世論調査所実施

労働省婦人少年局

は し が き

昭和24年以来、婦人の地位向上をはかることを目的として、毎年婦人週間が行われてきたが、第六回婦人週間はとくに経済生活における婦人の力を涵養することを目的として実施された。

婦人の経済面における実力を養い、経済活動を活潑にすることは、婦人の地位を高める上には重要な要件であると思われるが、この調査は、特に婦人の職業生活について、婦人自身どのように考え、また男子はどのようにみているかを把握するために、総理府国立世論調査所に依頼して行つたものである。

印刷するにあたり、世論調査所の御協力に深く感謝する次第である。

1954年12月

労働省 婦人少年局

目 次

は し が き	1
I 序	3
II 調 査 方 法	4
III 結 果 の 概 要	5
IV 結 果 の 細 説	8
1. 満14才以上の女子の仕事の形態	8
2. 妻の仕事の実態	25
3. 働く婦人の状況と意見	31
(1) 勤務、自営、日雇、内職の場合	31
(2) 特に内職の場合について	45
(3) 家族従業の場合	48
4. 働く婦人の家事仕事	52
5. 無職の女子(妻)の就業についての意見	63
6. 職業に対する意識	71
7. 就職難に対する意見	93
V 附 録	104
1. 対象者構成	104
2. サンプル・デザイン	112
3. 調査質問書	119
4. 統計表目次	128

I 序

終戦後、いわゆる民主化政策により、制度的な意味においては、男女同権が確立した。しかしその実現については必ずしも満足すべき状態に至っていないことは、世人の認めるところである。

家庭においては、未だ家族制度的な考え方が強く、依然として婦人の立場は認められず、また社会においても、伝統的な觀念に支えられた諸制約の中に、婦人の活動が制限されている状態で、法的に婦人は解放されたとはいえ、現実にはなお程遠い感がある。

婦人の地位を実質的に向上させるには、婦人の成長をおさえようとする伝統的な考え方を打ち壊すことが必要であり、同時に、婦人自身、その実力を高め、その自主性の確立に努力することが肝要といえよう。

さて婦人の実力を高めるには、種々の面があるが、その中でも、経済生活における力を養うことは、婦人の地位を高める上の必須要件と考えられる。

婦人の経済活動において、消費者として国家の消費経済面に果たす役割は見逃すことはできないが、何らかの形で就業し、社会的労働力となることは、婦人の経済活動のより積極的な面であり、婦人の地位を高める重要な要素といえよう。しかし婦人の多くは農家や商家の家族従業者として働いており、現金収入を伴わない仕事に従事しているのであるが、この場合も、婦人自身、自分の労働の価値を自覚し、また男子もそれを正當に認めるということではなければならない。農家の多くに見られるように、婦人の働きが、「家」の中に埋没してしまう状態では、婦人の働きが、婦人の地位を高めるということになりえないであろう。

こうした観点から、この調査は、婦人の職業生活を中心にして、実施されたものである。即ち、日本婦人は現在どのような形態で就業しているかを、勤務、自営、日雇、内職などに分けて実態をつかみ、その中でも、女子就業者の特色である家族従業、内職の問題、また職業と家事の関連などについてみた。

更に女子が職業をもつことについて、婦人自身どう考え、又男子はどのようにみているかを明らかにしようとした。

女子の職業については、現在職業についている婦人の意見調査は従来度々行われてきたが、職についていない家庭婦人、家族従業者を含めての調査は、他にあまり例がないので、参考となるう。

早くから職業生活を送ってきた男子にくらべ、婦人の職業生活は非常に短く、また環境よりくる諸制約もあり、婦人の職業に対する意識の低いことは当然といえようが、今後これがどのように変化してゆくかは興味ある問題であろう。

Ⅱ 調査方法

1. 調査対象者

東京都区ほか全国67市町村に居住する満20才以上60才未満の日本人男女2500名、その内訳は六大都市（但し近 都市を含める。以下同じ）406、その他の都市989、郡部1105であるが、六大都市と郡部とは調査実施の都合上、サンプル数を1/2としたので集計に当つては総サンプル数が4,011となる（巻末附録2参照）。

2. 抽出方法

六大都市、郡部においては層化割次無作為抽出法。その他の都市においては層化多段無作為抽出法（巻末附録2参照）

3. 調査質問 自由回答式、選択式質問（巻末附録3参照）

4. 調査方法 現地調査員による面接調査

5. 調査期間 昭和29年2月1日～19日

6. 回収枚数 事故枚数を差し引いた有効枚数は六大都市332、その他の都市885、郡部1,096計2,253、（回収率90.1%）但し六大都市と郡部は、予めサンプル数を 1/2 としたので、集計にあつては有効枚数を二倍にし、集計上の実数は3621となる。その内、男子1740、女子1,881である。

なお対象者構成、事故枚数の詳細については巻末附録1を参照されたい。

Ⅲ 結果の概要

1. 満14才以上の女子の仕事の形態

婦人の働いている姿を勤務（事務、労務）、自営、日雇、内職、家族従業という五種類の形態に分け、それらに無職を加え六区分すると、無職の44.1%はともかくとして、家族従業者が一番多く97.8%を占め、以下勤務（11.1%）、内職（3.4%）、自営（2.2%）、日雇（1.2%）の順となつている（第4表）。これを地域別にみると、総じて大都市になる程勤務と内職が増え、家族従業が減少する。未婚者では先づ未婚者では勤務が多く、既婚のものでは有配偶のものは内職と家族従業が、死別別のもは勤務と自営が、それぞれ目立っている。さらに詳しくみれば、六大都市の未婚婦人の45.5%は勤務についているが、有配偶者ではそれが3.4%に激減し、内職をするものが12.2%と増えてくる。その他の都市では未婚者を問わず、自営、日雇、家族従業がやや増え、郡部では婦人は家族従業者として重要な労働源となつており、その率は有配偶者で62%を示している（第6表）。

勤務・・・工場労務者、教師、看護婦、会社員、公務員の如く長期契約のもとに

一定期間継続的に働き、それにより一定の収入を得ているもの。

自 営・・・農業、商工業経営主であつて、実質上経営主であれば名義の如何に拘わらない。

日 雇・・・農、漁村における貸取仕事、都市における失業対策事業による労務提供者の如く、不定期筋肉労働に従事し、それによつて収入を得ているもの

内 職・・・それによつて得られた収入の家計に占める役割が補助的な場合で、場所は家の内外を問わない。原則として農漁村における副業は内職に含まない。

家族従業・・・農、商工業におけるが如く世帯内の他の成員が営む事業に家族員が従事、共働している場合。

以上は一般原則であり、どの職業形態に含まればよいかわからない場合には対象者の表明した分類に従つた。

2. 特に妻の仕事の実態

同じく妻であるといつても、家事を担当している妻と、家事手伝程度のことをすればよい妻とは、職業活動に相当の開きがある。一般的に家事担当者である妻には無職（44.6%）と内職

(6.6%)が多いのに対し、家事手伝い程度の妻では家族従業(69.7%)が多くなっている。市部と郡部とでは相当の差がみられ、六大都市では家事手伝いの妻に勤務(5.5%)日傭(5.5%)等外で働くものが多く内職が少くなっているが、郡部では家事担当者の方に外で働いているものが多くなっている。また郡部では、家事担当者で家族従業に従事しているものが5.9%なのに対し、家事手伝いでは、それが82.6%に達しているのも特徴的である(第14表)。妻に子供があるかないかによっても、その職業活動の形態に差が出ており、市部では子供のない妻に勤務するものが多く、また子供数が増えるにつれて内職従事者が増加する(第16表)。

3. 働く婦人の状況と意見

働いている婦人の収入を勤務、自営、日傭、内職のものについてしらべると、前三者については月平均8,500円未満のものが67.8%をしめ、17,500円以上のものは僅か5.2%である(第19表)。内職のものでは、月平均1,750円未満のものが64.6%の多きを占めている(第20表)。その婦人の収入が内職のみのもの(109名)のうち内職仕事で金切れたり利益が少かつたりして同等かの意味で困っているものは51.3%に達し、そのうち利益が少なくて困るもの、単に困るもの計33名のうち、26名までは毎日あるいは時に夜おそくまで仕事をする必要に迫られている。一般に内職に費される時間としては、1日6時間以上というものが55.8%にのぼっている(第45、46、47表)。

※

今の仕事を続け(さ・せ)て行きたいかどうか、ということについては、勤務にせよ、自営、日傭にせよ、内職にせよ、かゝる低収入で、しかも相当の過労が予想されるにもかかわらず、一般に今やっている仕事を続け(させ)て行きたいと思うものが多く73.6%に達する。ただ、これが未婚婦人になると、市部、郡部を通じて、今の仕事をやめたいというものがかなり増え、その割合は各1/3にのぼっている(第33、34表)。

家族従業の場合では、家族従業を続け(させ)たいというものは、勤務、自営などの場合よりも多くと多く、90.8%にも達しているが、どこでも未婚婦人は「やめたい」というものが多く、その率は39.2%を示している(第50、51表)。

※ 働いている婦人については、その婦人に「今の仕事を続けたいか」ときき、また妻が働いている場合には、その夫に「今の仕事を続けさせたいか」ときき、両方の回答を合算した。

4. 働く婦人の家事と仕事

働いていて、しかも家事をやっている婦人のうち、家事と仕事の両方をうまく平行させてやってくれるとしているものは33%である。家事と仕事のどちらか一方、あるいはそのどちらもあ

そかになると云っている婦人は、合計すると実に64.7%をしめ、そのうち家事のために仕事があるそかになるというものは20.4%に達する(第64表)。

家事よりも仕事に重点をおきたいと言う婦人は45.9%で、特に未婚婦人(市部79.6%、郡部58.9%)に多くなっている。一般に夫の側には、婦人は仕事よりも家事に重点をおいた方がよいという考え方が強く出ている(第69表)。

5. 無職の女子の経済活動への意欲

現在無職の婦人が何か職業をもつ気になるかどうか、というようなことは、一家の経済状態に強く左右されるものと考えられる。則ち、市部、郡部を通じて生活程度が低くなるにつれて、職業につきたい(つかせたい)という意見が多くなり、生活程度の下なものでは61%に達する(第82表)。男女別では、女子の方に仕事をする気のあるものが多く(52.2%)、一般に夫は妻に仕事をもたせる気がなく(52.8%)また仕事をもこせる気のある夫でも、その72.6%は妻が外へ出て働くのは困ると言っている(第76、第84表)。

6. 職業意識

生活に余裕がある場合には婦人は家庭にいた方がよいと言うものが67.6%に達し、特に中小都市では74.9%の高率を示している(第93表)。生活に余裕があつても職についた方がよいと言うものは、六大都市の未婚の女子ですら29%にすぎない(第94表)。

また婦人は一生働く必要はない、腰かけでもよいと言うものが49.6%で、六大都市の有配偶の男子に一番多く63.4%もあり、郡部の無配偶の既婚婦人に一番少なくなっている(36.7%)(第104表)。「余裕があれば家にいた方がよいかどうか」と「腰かけでもよいかどうか」との関連をみると「婦人は家庭にいた方がよいし、同時にまた腰かけでもよい」と思っているものが多く(58.1%)、「職業をもつた方がよいし、また腰かけではよくない」というものは僅か6.7%にしかすぎない(第112表)。

「婦人は家にいた方がよいし、また腰かけでもよい」というものは、生活程度のよいものに、「職についた方がよいし、また腰かけではよくない」というものは、逆に生活程度の低いものにそれぞれ多くなっている(第121表)。

7. 就職難についての意見

婦人が現在職業についているのは、家計の補助のためが大部分である、と思つているものが89.2%もあるが(第90表)、しかし全体の36.5%は「今後一生働こうという職業婦人がだんだん増えてきている」とことを認めている(第100表)。そして77.5%の多数が今後年々就職を希望する婦人が増加してくるであろうと考え、(第122表)、全体のうち過半数のもの(55.2%)は、婦人の就職難は樂觀を許さないとしている(第141表)。

IV 結果の細説

1. 満14才以上の女子の仕事の形態

日本の満14才以上の女子のうち、どれだけの割合のものが働いているのであろうか。調査対象者の世帯内の満14才以上の女子によつてそれを見ると、会社や工場で働いているもの11.1%、農業や商業を自分で経営しているもの2.2%、日傭1.2%、封筒貼や郵便などの手内職をしているもの3.4%、農、商業などの家族従業として働いているもの37.8%となつてゐる。約44%は無職である。(これで見ると、働いているものが、約56%で、かなりの数にのぼつてゐるとも云えるが、このうち現金収入を自己のものとして確保し得る形態は通常、勤務、自営、日傭、内職のものと考えられる。かつまた日傭、内職、家族従業は半失業状態であるとも見得ることを考慮する必要がある。)

六大都市では賃労働形態が、郡部では家族従業形態が目立ち、その他の都市では自営が他地域に比べて若干多くなつてゐる(第4表)。未既婚別では、一般に未婚婦人は勤務しているものが多い。既婚婦人は配偶者のあるもの(以下有配偶という)では、六大都市で家族従業の15.0%、内職の12.2%、その他の都市で家族従業24.7%、自営4.1%、郡部で家族従業62%であり、配偶者のもの(以下離死別という)では、市部で勤務、郡部で家族従業、自営をしているものが多少増えている(第6表)。六大都市においては、家事担当者(実質的に炊事、洗濯、掃除などに主として従事するもの)の68.2%は無職であり、12.7%が内職に従事し、勤務、日傭などは家事担当者以外のものの職業となつてゐるが、郡部では家事担当の有無にかかわらず家族従業をしている率が高い(第8表)。(郡部ではその3.1%が女中、女工、女給その他で、現在家から外へ出てゐる)。母と娘(或は姑と妻)のどちらも働いているものは、39.6%であるが、郡部では50.8%に達する。これに対し六大都市では8.4%で、どちらも働いてゐないものは42.3%である(第10表)。そのうちでも若い世代の方がより多く働いており母(姑)は働かず子(妻)の働いてゐる率が全国的にいつて34.8%にのぼり、しかも家事については母(姑)が家事手伝いで、子(妻)の家事担当者である率が34.0%(郡部では37.2%)となつてゐる(第11表)。この問題については、さらに嫁と姑との関係の分析が必要とされるのであるが、当面の問題ではないので省略した。

(質問) お宅に女で満14才以上の方はいませんか

第1表

世帯内の満14才以上の女子数	六大都市	その他の都市	郡部	全国
1 人	50.3%	44.4%	34.6%	39.9%
2	30.1	30.5	36.3	33.8
3	9.9	15.1	19.0	16.2
4	3.6	4.5	6.4	5.4
5	0.9	1.0	2.0	1.5
6	—	0.2	0.3	0.2
7	—	0.1	—	0.02
いない	5.7	4.1	1.0	2.6
計	100%(664)	100%(885)	100%(2,072)	100%(3,621)

- (註) 1. この「結果の細説」の項の構成は各項目のはじめに説明文を出し、後に一括して表を掲げてある。
2. 質問全文は巻末附録5に記載されてある故参照されたい。本文中には勘弁に便なるよう適宜省略、変形してある。
3. %は小数点2位以下すべて切捨てのため統計100%に満たない場合があるが100%とした。実数の小さいところは括弧に包んで実数のみで示してある。%の右側の()の数字は実数 (—) は実数の0を意味し0%は0.1%未満を示す。
4. 質問文中(O. A.)とあるは自由回答式質問であり、(M. A.)とあるは回答が2以上にわたつてもよいというしるしである。従つてM. A. の場合、原則として%は100を超える。
5. (註)の必要な場合はその都度明示してある。以上4つの註は以下の各表に適要される。
6. 満14才以上の女子はすべてとつてある。満14才以上としたのは生産年齢人口を示す。結婚、養女等で他家に籍がうつしたものの以外は、現在他出せるものも含まれてゐる。
7. 満14才以上の女子一人々々について職業形態、未既婚別、家事担当の有無等を記録した。
8. 都市郡部別有意差計算

世帯における満14才以上の女の有無に六大都市その他の都市、郡部の間に有意差があるかどうかを検定する。

	六 大 都 市	その他の都市	郡 部	計
0 人	98 (18)	97 (24)	22 (55)	97
1 人	294 (265)	993 (953)	718 (827)	1,445
2 人	200 (225)	270 (299)	754 (700)	1,224
3 人	62 (108)	194 (144)	994 (338)	590
4 人	24 (36)	99 (48)	134 (113)	197
5 人 ～7人	6 (17)	12 (17)	50 (39)	58
計	664	885	2,072	3,621

()内の数字は都市郡部において女子の満14才以上の分布に差がないと仮定した場合の予測(期待)度数で六大都市における女0人の場合の予測(期待)度数は、

$$\frac{97}{3,621} \times 664 = 18 \text{ となる以下同様。}$$

	六 大 都 市	その他の都市	郡 部	計
0 人	$\frac{(18-98)^2}{18} = 22.22$	$\frac{(24-97)^2}{24} = 7.04$	$\frac{(55-22)^2}{55} = 19.80$	49.06
1 人	$\frac{(265-294)^2}{265} = 17.97$	$\frac{(953-993)^2}{953} = 4.55$	$\frac{(827-718)^2}{827} = 14.97$	96.87
2 人	$\frac{(225-200)^2}{225} = 2.78$	$\frac{(299-270)^2}{299} = 2.81$	$\frac{(700-754)^2}{700} = 4.17$	9.76
3 人	$\frac{(108-62)^2}{108} = 17.95$	$\frac{(144-194)^2}{144} = 0.69$	$\frac{(338-994)^2}{338} = 9.28$	27.90
4 人	$\frac{(36-24)^2}{36} = 4.00$	$\frac{(48-99)^2}{48} = 1.69$	$\frac{(113-134)^2}{113} = 5.90$	9.59
5 人～ 7 人	$\frac{(17-6)^2}{12} = 9.00$	$\frac{(17-12)^2}{17} = 1.47$	$\frac{(39-50)^2}{39} = 3.10$	7.57
計	67.90	18.23	54.62	140.75

$$\text{自由度} = f = (6-1)(3-1) = 10$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{140.75}{10} = 14.075 > F_{0.05}^{10} = 2.9209$$

故に明らかに女の数の分布に差が認められる。特に0人、1人、3人の世帯数に差の甚しいことが

判る。即ち女が1人あるいは1人もいない世帯は六大都市に多く、女が2人以上いる世帯は郡部に多くなっている。

第2表 世帯内の満14才以上の女子就業者数

	六 大 都 市	その他の都市	郡 部	全 国
働いている女子の数	1 人 93.7%	37.6%	96.1%	96.0%
	2 人 8.7	11.1	25.5	18.9
	3 人 3.3	3.9	11.1	7.9
	4 人 0.9	0.2	2.2	1.5
	5 人 —	0.1	0.4	0.5
働いていない女子なし	53.9	46.8	24.4	35.3
世帯内に女子なし	5.7	4.1	1.0	2.6
計	100%(664)	100%(885)	100%(2072)	100%(3621)

第3表 世帯内の満14才以上の女子数と女子就業者数との割合

	働いている女子が1人いる世帯	2人	3人	4人	5人	いない世帯	計
六 大 都 市	91.7%	—%	—%	—%	—%	68.2%	100%(334)
	440	190	—	—	—	370	100 (200)
	354	290	161	—	—	193	100 (62)
	333	83	249	83	—	249	100 (24)
	—	—	(6)	—	—	—	100 (6)
その他の都市	98.6%	—%	—%	—%	—%	61.5%	100%(393)
	444%	181	—	—	—	374	100 (270)
	373%	253	141	—	—	231	100 (134)
	256%	358	256	25	—	102	100 (39)
	(1)	(1)	(6)	—	—	(1)	100 (9)
	—	—	—	(1)	(1)	—	100 (2)
	—	(1)	—	—	—	—	(1)
郡 部	—	—	—	—	—	100%	100 (37)

郡	働いている女子が 1人いる世帯	働いている女子が 2人 3人 4人 5人 いない世帯					計
		2人	3人	4人	5人	いない世帯	
女が1人いる世帯	598%	—	—	—	—	401%	100 (718)
2人	320	480	—	—	—	198	100 (754)
3人	177	324	395	—	—	101	100 (994)
4人	59	285	373	238	—	44	100 (194)
5人	—	47	523	190	238	—	100 (42)
6人	—	—	(2)	(6)	—	—	100 (8)
いない	—	—	—	—	—	1000	100 (22)

全 国	働いている女子が 1人いる世帯	働いている女子が 2人 3人 4人 5人 いない世帯					計
		2人	3人	4人	5人	いない世帯	
女が1人いる世帯	47.6%	—	—	—	—	52.3	100 (1445)
2人	36.7	36.6	—	—	—	26.5	100 (1,224)
3人	24.0	30.5	31.3	—	—	14.0	100 (590)
4人	13.1	27.4	33.5	17.7	—	3.0	100 (197)
5人	1.7	3.2	5.6	14.0	17.5	1.7	100 (57)
6人	—	—	(2)	(7)	(1)	—	100 (10)
7人	—	(1)	—	—	—	—	100 (1)
いない	—	—	—	—	—	100.0	100 (97)

〔註〕 9. 働いている女の人数の割合が六大都市、その他の都市、郡部の間に有意差があるかどうか検定してみると

	六大都市	その他の都市	郡 部	計
働いている女の人数	414	649	2,757	3,797
(期待度数)	584	868	2,347	
働いていない女の人数	632	906	1,468	3,006
(期待度数)	462	687	1,855	
	1,046	1,555	4,225	6,809

$$\chi^2 = \frac{(414-584)^2}{584} + \frac{(649-868)^2}{868} + \frac{(2,757-2,347)^2}{2,347} + \frac{(632-462)^2}{462} + \frac{(906-687)^2}{687} + \frac{(1,468-1,855)^2}{1,855} = 49.3 + 55.25 + 63.81 + 62.55 + 69.81 + 80.74 = 381.56$$

—12—

$$f = \text{自由度} = (3-1)(2-1) = 2$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{381.56}{2} = 190.78 > F_{\infty}^2(0.05) = 2.9957$$

故に六大都市、その他の都市、郡部の間に5%の水準で有意差がある。

次に六大都市とその他の都市だけを取り上げてみると、

	六大都市	その他の都市	計
働いている女の人数	416	649	1,065
(期待度数)	428	637	
働いていない女の人数	630	906	1,536
(期待度数)	618	918	
	1,046	1,555	2,601

$$\chi^2 = \frac{(416-428)^2}{428} + \frac{(649-637)^2}{637} + \frac{(630-618)^2}{618} + \frac{(906-918)^2}{918} = 0.34 + 0.23 + 0.23 + 0.16 = 0.96$$

$$f = \text{自由度} = (2-1)(2-1) = 1$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{0.96}{1} = 0.96 < F_{\infty}^2(0.05) = 3.8415$$

故にこの場合には5%の水準で有意差がない。結局郡部が市部(六大都市+その他の都市)と異なっているということが判る、即ち、郡部の方が働いている女子が多い。

〔註〕 10. 次に世帯内に女が1人いる場合、2人いる場合、3人いる場合、4人いる場合(5人以上は例数が少ないので省略)その中で働いている女の人数が、六大都市、その他の都市、郡部と分けて有意差があるかどうかを検定してみると

世帯内に女が 1人いる場合	六大都市	その他の都市	郡 部	計
働いている女の人数	106	152	430	688
(期待度数)	159	187	345	
働いていない女の人数	228	241	288	757
(期待度数)	173	206	376	
	334	393	718	1,445

$$\chi^2 = \frac{(106-159)^2}{159} + \frac{(152-187)^2}{187} + \frac{(430-345)^2}{345} + \frac{(228-173)^2}{173} + \frac{(241-206)^2}{206} + \frac{(288-376)^2}{376} = 17.67 + 6.55 + 22.64 + 16.05 + 5.95 + 20.60 = 89.46$$

—13—

$$f = \text{自由度} = (3-1)(2-1) = 2$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{8.946}{2} = 4.473 > F_{\infty}^2(0.05) = 2.9957$$

故に世帯内に女が1人いる場合、その中で働いている女の人数の割合は六大都市、その他の都市、郡部の間で5%の水準で有意差がある。

大都市では女1人いる世帯の場合、働いていないものの方が多いが、郡部ではそれが逆で、働いているものの方が多い。

世帯内に女が 2人いる場合	六大都市	その他の都市	郡部	計
働いている女の人数 (期待度数)	164 220	218 297	266 891	1,948 1,100
働いていない女の人数 (期待度数)	236 180	322 243	542 677	1,100 2,448
	400	540	1,508	2,448

$$\chi^2 = \frac{(164-220)^2}{220} + \frac{(218-297)^2}{297} + \frac{(266-891)^2}{891} + \frac{(236-180)^2}{180} + \frac{(322-243)^2}{243} + \frac{(542-677)^2}{677}$$

$$= 1.425 + 2.101 + 2.199 + 1.742 + 25.68 + 26.92 = 127.21$$

$$f = \text{自由度} = (3-1)(2-1) = 2$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{127.21}{2} = 63.60 > F_{\infty}^2(0.05) = 2.9957$$

故に世帯内に女が2人いる場合も5%の水準で有意差があり、女が1人いる場合と同じ傾向を示す。

世帯内に女が 3人いる場合	六大都市	その他の都市	郡部	計
働いている女の人数 (期待度数)	88 111	175 240	794 706	1,057 1,057
働いていない女の人数 (期待度数)	98 75	227 162	988 476	713 1,190
	186	402	1,182	1,770

$$\chi^2 = \frac{(88-111)^2}{111} + \frac{(175-240)^2}{240} + \frac{(794-706)^2}{706} + \frac{(98-75)^2}{75}$$

$$+ \frac{(227-162)^2}{162} + \frac{(388-476)^2}{476}$$

$$= 4.77 + 17.60 + 10.97 + 7.05 + 26.08 + 16.27 = 82.74$$

$$f = \text{自由度} = (3-1)(2-1) = 2$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{82.74}{2} = 41.37 > F_{\infty}^2(0.05) = 2.9957$$

故に世帯内に女が3人いる場合も5%の水準で有意差あり

世帯内に女が 4人いる場合	六大都市	その他の都市	郡部	計
働いている女の人数 (期待度数)	98 58	72 93	362 321	472 716
働いていない女の人数 (期待度数)	58 58	84 63	174 215	316 788
	96	156	596	788

$$\chi^2 = \frac{(98-58)^2}{58} + \frac{(72-93)^2}{93} + \frac{(362-321)^2}{321} + \frac{(58-58)^2}{58} + \frac{(84-63)^2}{63} + \frac{(174-215)^2}{215}$$

$$= 6.90 + 4.79 + 5.24 + 0.53 + 7.00 + 7.82 = 12.29$$

$$f = \text{自由度} = (3-1)(2-1) = 2$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{12.29}{2} = 6.145 > F_{\infty}^2(0.05) = 2.9957$$

故に世帯内に女が4人いる場合も5%の水準で有意差あり、上の四例の検定を通じて、いずれも

郡部における働いている女の割合が市部と著しく異なるために有意差が出た。

註1. 次に六大都市、郡部と分けて、その各々の中で女が1人いる世帯、女が2人いる世帯、女が3人いる世帯、女が4人いる世帯の間で、働いている女の割合に有意差が見られるかどうかを検定して見ると、

六大都市	女が1人 いる世帯	女が2人 いる世帯	女が3人 いる世帯	女が4人 いる世帯	計
働いている女の人数 (期待度数)	106 130	164 156	88 75	98 97	396 396
働いていない女の人数 (期待度数)	228 204	236 244	98 119	58 59	620 620
	334	400	186	96	1,016

$$\chi^2 = \frac{(106-130)^2}{130} + \frac{(164-156)^2}{156} + \frac{(88-73)^2}{73} + \frac{(38-37)^2}{37} + \frac{(228-204)^2}{204} \\ + \frac{(236-244)^2}{244} + \frac{(98-113)^2}{113} + \frac{(58-59)^2}{59} \\ = 4.43 + 0.41 + 3.08 + 0.03 + 2.82 + 0.26 + 1.99 + 0.02 = 13.04$$

$$\text{自由度} = f = (4-1)(2-1) = 3$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{13.04}{3} = 4.34 > F_{\infty}^3(0.05) = 2.6049$$

故に5%の水準で有意差あり、特に女が1人いる世帯で働いている女の人の割合が他の世帯に比べて少いために有意差が出た。

その他の都市	女が1人 いる世帯	女が2人 いる世帯	女が3人 いる世帯	女が4人 いる世帯	計
働いている女の人数 (期待度数)	152 163	218 223	175 166	72 65	617
働いていない女の人数 (期待度数)	241 230	322 317	227 236	84 91	874
	393	540	402	156	1,491

$$\chi^2 = \frac{(152-163)^2}{163} + \frac{(218-223)^2}{223} + \frac{(175-166)^2}{166} + \frac{(72-65)^2}{65} \\ + \frac{(241-230)^2}{230} + \frac{(322-317)^2}{317} + \frac{(227-236)^2}{236} + \frac{(84-91)^2}{91}$$

$$= 0.73 + 0.11 + 0.49 + 0.75 + 0.53 + 0.08 + 0.34 + 0.54 = 3.58$$

$$\text{自由度} = f = (4-1)(2-1) = 3$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{3.58}{3} = 1.19 < F_{\infty}^3(0.05) = 2.6049$$

故に5%の水準で有意差がない。

郡 部	女が1人 いる世帯	女が2人 いる世帯	女が3人 いる世帯	女が4人 いる世帯	計
働いている人数 (期待度数)	430 465	966 976	794 765	362 347	2,552
働いていない人数 (期待度数)	288 253	542 532	388 417	174 189	1,592
	718	1,508	1,182	536	3,944

$$\chi^2 = \frac{(430-465)^2}{465} + \frac{(966-976)^2}{976} + \frac{(794-765)^2}{765} + \frac{(362-347)^2}{347} \\ + \frac{(288-253)^2}{253} + \frac{(542-532)^2}{532} + \frac{(388-417)^2}{417} + \frac{(174-189)^2}{189} \\ = 2.63 + 0.10 + 1.10 + 0.65 + 4.84 + 0.19 + 2.02 + 1.19 = 12.72$$

$$\text{自由度} = f = (4-1)(2-1) = 3$$

$$\frac{\chi^2}{f} = \frac{12.72}{3} = 4.24 > F_{\infty}^3(0.05) = 2.6049$$

故に5%の水準で有意差がある。特に女が1人いる世帯、2人いる世帯のグループと、女が3人いる世帯、4人いる世帯のグループとの間に差が見られる。前者の方に働いている率が多い。

第4表(M.A) 世帯内女子の職業形態

(第1表、第2表から満14才以上の女子を計算すると実数にして6,803名を得る、これら女子の職業形態)

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国	実数(M.A)
勤務 務	17.2%	14.0%	8.5%	11.1%	(757)
自 営	1.5	3.7	1.9	2.2	(156)
日 傭	1.1	2.0	0.9	1.2	(86)
内 職	8.2	4.3	1.9	3.4	(236)
家族従業	11.4	17.6	51.8	37.	(2,373)
無 職	60.4	58.2	34.9	44.1	(3,006)
計	100%(1,046)	100%(1,555)	100%(4,202)	100.0%(6,803)	(6,814)

〔註〕12. 勤務、自営、日傭、内職、家族従業等の意味については、2.の結果の概要1)を参照されたい。

13. 本報告において 職業形態という場合は、勤務、自営、日傭、内職、家族従業のことである。家事労働は含まない。

14. M. A のため職業形態の実計と、地域の実計とが合わない。

15. 満20才以上満50才未満の男女を対象とし、抽出された2,500世帯内の成りかけで満14才以上の女子の生活を調べているのであるが、その場合問題となることは、満20才未満又は満60才以上の男女のみで構成されている様な世帯は対象外となつてしまう。そのような世帯は全体から見ると少数であり、無視しても差支えないと思われる(満14才未満の男女は考慮外とする)。何故ならば、満14才以上20才未満と満60才以上のみで構成されている世帯人員の満14才以上の男女総計に対する比率は次のようになる。

(昭和25年10月国調の資料による)

$$\frac{\text{満14才以上20才未満の男女計}}{\text{満14才以上の男女計}} = \frac{1,036,800}{5,553,000} = 0.1868$$

$$\frac{\text{満60才以上の男女計}}{\text{満14才以上の男女計}} = \frac{641,000}{5,553,000} = 0.1155$$

又満14才以上の男女世帯当り平均人員は

$$\frac{\text{満14才以上の男女計}}{\text{全世帯数}} = \frac{5,553,000}{1,642,200} = 3.3$$

となるから満14才以上の男女は一世帯平均3人いると見てよいから全体の中で満14才から満17才までの男女と、満60才未満の男女のみで構成されている世帯が占める。

$$\begin{aligned} & \frac{3!}{3!} (0.1867)^3 + \frac{3!}{2!0!1!} (0.1867)^2 (0.1155) \\ & + \frac{3!}{1!0!2!} (0.1867)(0.1155)^2 + \frac{3!}{3!} (0.1155)^3 \\ & = 0.27 \end{aligned}$$

即ち、略2.7%に過ぎないから、調査対象として満14才から19才まで、満60才以上の男女のみで構成される世帯は対象から除外しても、全体の結果には余り影響はないと思われる。

16. 満14才以上の女の職業形態(有意差計算)

	六大都市	中小都市	郡部	全国
勤務	180(116)	219(173)	558(468)	757
自営	16(24)	58(36)	82(36)	156
日傭	12(13)	32(20)	42(53)	86
内職	86(36)	68(54)	82(146)	236
家族従業	120(395)	275(588)	2,178(1,590)	2,573
無職	632(462)	906(687)	1,468(1,857)	3,006
	1,046	1,558	4,210	6,814

勤務	$\frac{(180-116)^2}{116} = 95.31$	$\frac{(219-173)^2}{173} = 12.23$	$\frac{(558-468)^2}{468} = 25.85$	739.9
自営	$\frac{(16-24)^2}{24} = 2.66$	$\frac{(58-36)^2}{36} = 13.44$	$\frac{(82-36)^2}{36} = 20.4$	18.14
日傭	$\frac{(12-13)^2}{13} = 0.08$	$\frac{(32-20)^2}{20} = 7.20$	$\frac{(42-53)^2}{53} = 2.28$	9.56
内職	$\frac{(86-36)^2}{36} = 69.50$	$\frac{(68-54)^2}{54} = 9.62$	$\frac{(82-146)^2}{146} = 280.5$	101.17
家族従業	$\frac{(120-395)^2}{395} = 191.5$	$\frac{(275-588)^2}{588} = 166.1$	$\frac{(2,178-1,590)^2}{1,590} = 217.44$	575.50
無職	$\frac{(632-462)^2}{462} = 62.55$	$\frac{(906-687)^2}{687} = 69.81$	$\frac{(1,468-1,857)^2}{1,857} = 81.48$	219.84
	361.55	272.91	557.14	991.60

$$\text{自由度 } n = (6-1)(3-1) = 10$$

$$\chi^2_0 = 991.60 > \chi^2_0(0.05) = 18.37$$

職業形態は六大都市、中小都市、郡部において明らかに差異が認められる。特に家族従業の差が甚だしいが、これは郡部の農業家族従業者が圧倒的に多いためである。

無職、内職、勤務の差異が次に目立っているが、無職は都市に多く、内職勤務の者は六大都市が最も多い。これらのことは都市生活者の生業を明らかに表している。

第5表 世帯内4才以上の女子の未婚既婚別

	未婚	既婚(有配偶)	既婚(無配偶)	計
六大都市	26.0%	60.7%	13.2%	100.0%(1,046)
その他の都市	29.1	56.9	14.4	100.0(1,555)
郡部	26.9	58.5	15.1	100.0(4,202)
全国	26.9	58.3	14.6	100.0(6,809)

第6表(M, A) 世帯内4才以上の女子の未婚既婚別、職業別

	勤務	自営	日雇	内職	家事従業	無職	計
六大都市							
未婚	45.5%	—%	—%	1.4%	6.6%	46.3%	100.0%(272)
既婚(有配偶)	3.4	1.8	0.9	12.2	15.0	66.3	100.0(696)
既婚(無配偶)	24.6	2.8	4.3	2.8	4.3	60.8	100.0(198)
その他の都市							
未婚	35.3	0.8	1.5	1.7	8.8	51.9	100.0(459)
既婚(有配偶)	4.3	4.1	2.1	5.5	24.7	59.1	100.0(878)
既婚(無配偶)	9.3	8.0	2.6	4.9	8.0	67.4	100.0(224)
郡部							
未婚	24.7	0.5	0.9	0.7	9.5	57.7	100.0(1,108)
既婚(有配偶)	2.4	0.9	1.1	2.4	62.0	30.9	100.0(2,458)
既婚(無配偶)	9.6	8.1	0.6	2.1	40.1	45.2	100.0(696)
全国							
未婚	30.4	0.5	0.9	1.0	24.6	42.5	100.0(1,893)
既婚(有配偶)	9.0	1.8	1.3	4.7	46.2	42.8	100.0(3,972)
既婚(無配偶)	7.9	7.4	1.6	2.9	28.2	52.4	100.0(998)

第7表 世帯内4才以上の女子の家事担当別

	家事担当者	家事手伝い	家事をやらぬ	家から出ているもの	計
六大都市	57.0%	29.1%	13.9%	0.3%	100.0%(1,046)
その他の都市	53.7	28.5	16.7	1.0	100.0(1,555)
郡部	47.4	34.9	14.3	3.1	100.0(4,202)
全国	50.2	32.4	14.8	2.2	100.0(6,809)

第8表(M, A) 4才以上の女子の家事担当別、職業別

	家事担当者	勤務	自営	日雇	内職	家族従業	無職	計
六大都市								
家事担当者	5.6%	1.6%	0.6	12.7%	11.0%	68.2%	100.0%	(598)
家事手伝い	30.2	0.6	1.9	3.2	17.1	47.3	100.0	(304)
家事をやらぬ	37.1	2.8	2.8		1.4	55.7	100.0	(140)
家から出ている者	(2)	—	—	—	—	(2)	100.0	(844)
その他の都市								
家事担当者	5.3	5.9	2.5	6.9	19.9	59.2	100.0	(894)
家事手伝い	20.9	0.4	1.8	1.8	21.1	54.5	100.5	(444)
家事をやらぬ	25.8	2.3	1.1	0.7	5.4	64.4	100.0	(260)
家から出ている者	(14)	—	—	—	(1)	(2)		(17)
郡部								
家事担当者	2.8	3.5	1.4	0.3	58.9	30.7	100.0	(1,998)
家事手伝い	7.9	0.4	0.6	1.2	61.2	29.0	100.0	(1,466)
家事をやらぬ	14.2	0.9	0.6	0.6	15.5	67.8	100.0	(604)
家から出ている者	80.5	—	—	—	5.9	13.4	100.0	(194)
全国								
家事担当者	9.9	3.7	1.5	5.6	41.1	44.1	100.0	(9,490)
家事手伝い	13.2	0.4	0.9	1.6	47.2	36.6	100.0	(2,215)
家事をやらぬ	20.4	1.5	1.0	0.5	10.9	65.4	100.0	(1,009)
家から出ている者	7.9	—	—	—	5.8	14.1	100.0	(155)
計(実数)	(757)	(156)	(86)	(296)	(2,579)	(3,006)		(6,809)
								(6,814)

	母(姑)がいる	母(姑)がいない	計
六大都市	20.6%	79.3%	100.0%(572)
その他の都市	25.5	74.4	100.0 (782)
郡 部	37.7	62.2	100.0 (1,896)
全 国	31.8 (1,094)	68.1 (2,216)	100.0 (3,250)

註) 17 女子対象者に母(姑)がいるかどうか。

男子対象者で妻であるものに母(義母)がいるかどうかをしらべ母(姑、義母)のいるものだけを採用した。

	母姑が働いていて自分(妻)は働いていない。	どちらも働いている	母姑は働かず自分(妻)は働いている	どちらも働いていない	計
六大都市	0.4%	8.4%	40.6%	42.8%	100.0%(118)
その他の都市	2.5	18.0	40.0	39.5	100.0 (200)
郡 部	1.9	50.8	32.4	14.8	100.0 (716)
全 国	2.8 (29)	39.6 (410)	34.8 (360)	22.7 (235)	100.0 (1,034)

註) 18. 対象者が女子の場合には、対象者とその母(姑)、対象者が男子の場合には有配偶のみに限り妻と姑(男子対象者が養子のときは妻の母)についてきいたのであるが、母集団をそのようなものとして選定したのであるが一母集団内の各グループ間に有意差は認められなかつた対象者が男女何れの場合においても姑(母)が働いて女の対象者(又は男の対象者の妻)が働かない場合よりも、姑(母)が働かないで女の対象者(又は男の対象者の妻)が働いている場合の方が圧倒的に多い。

対象者が有配偶の男子の場合と、有配偶の母子の場合とでは姑(母)と嫁(娘)のどちらが働き出ている比率が多いかということは無作為抽出の理論からみて、ほぼ同様の比率を示すであろうと予想されるが、実際に計算してみると、このことが証明される。(姑(母)が働

て嫁(娘)は働いていない場合は、Caceが少なすぎるので、計算から除外した。)

労働者	労働者	母(姑)が働かない 娘(嫁)が働いている	ともに働かない	計
男有配偶	157(171)	160(150)	110(106)	427
女有配偶	161(147)	119(129)	86(90)	366
	318	279	196	793
	$\frac{157}{171} = 0.92$	$\frac{160}{150} = 1.07$	$\frac{110}{106} = 1.04$	1.96
	$\frac{161}{147} = 1.09$	$\frac{119}{129} = 0.92$	$\frac{86}{90} = 0.96$	2.29
	2.474	1.45	0.99	4.25

$$\text{自由度 } N=2 \quad X_0^2=4.25 < X^2(0.05)=5.99$$

故に有意差がない。

	母(姑)が働いて 娘(嫁)が働かない	ともに働く	母(姑)が働かない 娘(嫁)が働いている	ともに働かない	計
未婚の 女子	$\Delta 7.7\%$ 14(9)	$\Delta 40.5\%$ 73(75)	$\Delta 33.8\%$ 61(58)	$\Delta 17.7\%$ 32(38)	180
有配偶 の女子	$\Delta 3.4\%$ 13(18)	$\Delta 42.4\%$ 161(159)	$\Delta 31.3\%$ 119(122)	$\Delta 22.6\%$ 86(80)	379
計	27	234	120	118	559
未婚の 女子	$\frac{(14-9)^2}{9} = 2.78$	$\frac{(73-75)^2}{75} = 0.05$	$\frac{(61-58)^2}{58} = 0.16$	$\frac{(32-38)^2}{38} = 0.95$	3.95
有配偶 の女子	$\frac{(13-18)^2}{18} = 1.99$	$\frac{(161-159)^2}{159} = 0.03$	$\frac{(119-122)^2}{122} = 0.07$	$\frac{(86-80)^2}{80} = 0.45$	1.94
計	4.77	0.08	0.23	1.404	5.88

$$N=3 \quad X_0^2=5.88 < X^2(0.05)=7.81$$

故に有意差は認められない。

第1/表 姑(母)と嫁(娘)の家事における関係

	母(姑)が家事担当者 で自分(妻)は家事 手伝い(家事をやら ない)担当者である	母(姑)が家事手伝 いで自分(妻)は家事 をやらない(家事を やらない)担当者である	母(姑)は家事をやら ないで自分(妻)は 家事担当者	その他	計
六大都市	47.2%	27.0%	25.4%	—%	100.0%(118)
その他の都市	48.5	26.5	22.5	2.5	100.0(200)
郡 部	34.6	37.2	22.4	5.7	100.0(716)
全 国	38.7	34.0	22.7	4.3	100.0(1,034)
	(401)	(351)	(235)	(47)	

[註] 19. 男女に拘りなく対象者が有配偶の場合は姑(母)と嫁(娘)との家事における関係は次の如くなつて、予想の如く差は認められない。

	姑(母)が家事担当者 で自分(妻)は家事 手伝い(家事をやら ない)担当者である	姑(母)が家事手伝 いで自分(妻)は家事 をやらない(家事を やらない)担当者である	姑(母)は家事をやら ないで自分(妻)は 家事担当者	その他	計
対象者が男 で有配偶	121(129)	176(169)	113(114)	19(17)	429
対象者が女 で有配偶	122(114)	142(149)	102(101)	15(15)	379
計	243(129)	318	215	32	808
	$\frac{64}{129}=0.50$	$\frac{49}{166}=0.29$	$\frac{1}{114}=0.01$	$\frac{4}{17}=0.23$	1.03
	$\frac{64}{114}=0.56$	$\frac{49}{149}=0.33$	$\frac{1}{101}=0.01$	$\frac{4}{15}=0.27$	1.17
	1.06	0.62	0.02	0.50	2.20

自由度 $N=2$ $\chi^2=2.20 < \chi^2(0.05)=5.99$

たゞ対象者が未婚の女子の場合は有配偶の女子とは異なる。

	母(姑)が家事担当者 で自分(妻)は家事 手伝い(家事をやら ない)担当者である	母(姑)が家事手伝 いで自分(妻)は家事 をやらない(家事を やらない)担当者である	母(姑)は家事をやら ないで自分(妻)は 家事担当者	その他	計
対象者が 未婚の女子	79.9% 144(86)	7.7% 14(50)	4.9% 9(38)	7.1% 13(8)	180
対象者が有 配偶の女子	32.1% 122(180)	37.4% 142(106)	26.9% 102(75)	3.9% 15(18)	379
	266	156	111	26	559
未婚の女子	$\frac{(144-86)^2}{86}=39.09$	$\frac{(14-50)^2}{50}=25.92$	$\frac{(9-38)^2}{38}=20.24$	$\frac{(13-8)^2}{8}=3.13$	88.38
有配偶の 女子	$\frac{(122-180)^2}{180}=18.69$	$\frac{(142-106)^2}{106}=12.23$	$\frac{(102-75)^2}{75}=9.75$	$\frac{(15-18)^2}{18}=1.59$	42.09
	57.78	38.15	29.96	4.52	130.41

$$N=3 \quad \chi_0^2=130.41 > \chi^2(0.05)=7.81$$

故に有意差がある。即ち未婚の女子と有配偶の女子とでは、母(姑)との家事関係において著しく異なっているといえる。

2. 妻の仕様の実態

(1)で叙述したようなことを重ねて妻についてみると……

大都市になるほど内職と無職が増え、家族従業が少なくなることはすでに指摘した(第69表)しかし同じく妻とはいうものの、家事を担当しているものと、そうでないものとでは、かなりの差がある。即ち、家事担当者の方が担当者でないものよりも内職、無職の率は高率であり、逆に勤務家族従業の率は低率となつてゐる。(第14表)。また子供があるかないかによつて、市部では明らかな差がみられ、子供のないものは六大都市で勤務、家族従業、その他の都市で勤務に従事するものが多く、一様内職が少なくなつてゐる(市部では大抵子供数が増えるにつれ、内職が増えてくることに注意)。郡部になると子供のありなし、多い少いは関係なく、家族従業が各60%以上の率で従事している(第16表)。ついでに妻の年齢別職業形態別を調べた場合、六大都市では妻の年齢が漸く高くなるにつれて(但し40才代まで)無職が減り、内職が増え、25~29才の層では勤務30~34才では比較的家族従業、自営が多く、40~49才では勤務、自営、50~59才では家族従業がふえている。その多の都市では、24才までのものでは無職が少く(48.8%)、勤務、家族従業に従事する率が大都市よりも高く25~29才の無職、35~39才の自営、内職、40

才代の日傭、家族従業、50才代の家族従業が特徴的である。郡部では30～34才の約1/3は無職であるが、24才までのいわゆる「若い嫁」の74.9%は家族従業、35～39才の44%はそれぞれ自営と日傭に従事している(第18表)。

第12表 (M, A) (妻)の職業形態

	勤務	自営	日傭	内職	家事従業	無職	計
六大都市	4.6%	1.6	1.2	14.7	12.6	64.3	100.0%(474)
その他の都市	4.7	4.8	2.5	7.0	22.8	57.8	100.0 (656)
郡 部	2.5	1.5	1.3	3.1	62.1	29.4	100.0 (1658)
全 国	3.4	2.3	1.6	6.0	44.4	42.1	100.0 (2788)

〔註〕20 前項で述べた満14才以上の女子のうちから、対象者が女子である場合には、本人が妻であるもの(夫の世帯内の地位はこの場合関係ない)、対象者が男子である場合には、その妻について採録したところ、総実数2788名を得た。

〔註〕21 妻の職業形態(有意差計算)(M, A)

	勤 務	自 営	日 傭
六 大 都 市	22(16)	8(11)	6 (8)
中 小 都 市	31(22)	32(16)	17(10)
郡 計 部	42(57)	26(39)	22 (27)
計	95	66	45
	$\frac{(22-16)^2}{22} = 2.25$	$\frac{(11-8)^2}{11} = 0.82$	$\frac{(8-6)^2}{8} = 0.50$
	$\frac{(31-22)^2}{22} = 3.68$	$\frac{(32-16)^2}{16} = 16.00$	$\frac{(17-10)^2}{10} = 4.90$
	$\frac{(42-57)^2}{57} = 1.42$	$\frac{(26-39)^2}{39} = 4.34$	$\frac{(22-27)^2}{27} = 0.93$
	7.35	21.16	6.33

	内 職	家事従業	無 職	計
六大都市	70(28)	60(211)	308(200)	474
中小都市	46(40)	150(292)	380(276)	656
郡 部	52(100)	1090(797)	488(700)	1660
計	168	1247	1176	2788(M, A)
	$\frac{(70-28)^2}{28} = 6900$	$\frac{(60-211)^2}{211} = 10806$	$\frac{(308-200)^2}{200} = 58.92$	23295
	$\frac{(46-40)^2}{40} = 0.90$	$\frac{(150-292)^2}{292} = 6905$	$\frac{(380-276)^2}{276} = 39.18$	13971
	$\frac{(52-100)^2}{100} = 2904$	$\frac{(1090-797)^2}{797} = 11648$	$\frac{(488-700)^2}{700} = 421$	21042
	86.94	2995.9	1617.1	57708

$$N=10 \quad X^2=577.08 > X^2(0.05)=18.97$$

妻の職業形態の分布は、六大都市、その他の都市、郡部において大きな差が見られる。特に家族従業、無職、内職の差が見られるが、14才以上の女子全部の場合に比べてみると、勤務の差が自立たなくなつて来ている。

第13表 妻と家事担当の程度

	家事担当者	家事を手伝う	家事をやらない	家から出ている	計
六 大 都 市	90.2	7.5	1.6	0.4	100.0(474)
その他の都市	89.1	8.3	2.2	0.1	100.0(656)
郡 部	84.5	14.4	0.7	0.2	100.0(1658)
全 国	86.6	11.8	1.2	0.2	100.0(2788)

第14表 (M.A) 家事を担当している妻と担当していない妻の職業別

		勤務	自営	日傭	内職	家族従業	無職	計
六 大 都 市	家事担当者	4.5%	1.8%	0.4%	15.4%	10.7%	66.8	100.0%(428)
	家事手伝い	5.5	—	5.5	11.1	33.9	44.4	100.0 (56)
	家事をやらぬ	—	—	(2)	—	(2)	(4)	(8)
	家の外へでてやる	—	—	—	—	—	(2)	(2)
そ の 他 の 都 市	家事担当者	4.1%	4.7%	2.7%	7.5%	21.9%	59.4	100.0%(585)
	家事手伝い	9.0	1.8	1.8	3.6	38.1	45.4	100.0 (55)
	家事をやらぬ	6.6	19.9	—	—	26.6	46.4	100.0 (15)
	家の外へでている	(1)	—	—	—	—	—	(1)
郡	家事担当者	2.5%	1.7%	1.5%	3.5%	59.0%	31.6	100.4%(1402)
	家事手伝い	1.6	0.8	—	0.8	82.6	14.0	100.0 (240)
	家事をやらぬ	(2)	—	—	—	(2)	(8)	(12)
	家の外へでてやる	—	—	—	—	(2)	(2)	(4)
								(1,658)
全 国	家事担当者	3.3%	2.4%	1.6%	6.6%	41.3%	44.6	100.0%(2,415)
	家事手伝い	3.3	0.9	0.9	2.4	69.7	22.6	100.0 (391)
	家事をやらぬ	4.5	8.5	5.7	—	22.8	54.2	100.0 (35)
	家の外へでてやる	(1)	—	—	—	(2)	(4)	(7)

第15表 妻と中学生以下の子供があるか

		ある(1人	2人	3人	4人	5人	6人以上)	ない	6人以上	計
六 大 都 市		24.0%	23.2%	16.0%	7.5%	4.6%	1.2%	23.2%	100.0%	(474)
そ の 他 の 都 市		20.1	25.1	19.4	9.5	2.8	0.7	21.9	100.0	(656)
郡 部		16.7	24.0	19.7	12.4	4.5	1.8	20.6	100.0	(1,638)
全 国		18.7	24.1	19.0	10.9	4.1	1.4	21.3	100.0	(2,788)

第16表 (M.A) 「妻」の子供の有無と職業別との関係

		子供なし		子供あり(1人		2人	3人	4人以上)	
六 大 都 市	勤務	9.0%	3.5%	—	7.8%	3.1%	(22)		
	自営	—	3.5	1.8	2.6	—	(8)		
	日傭	1.8	—	1.8	2.6	—	(6)		
	内職	7.2	17.5	14.5	18.4	18.7	(70)		
	家族従業	18.1	12.2	5.4	19.1	15.6	(60)		
	無職	63.6	63.1	76.4	6.7	55.2	(308)		
	計	100.0%(110)	100.0(114)	100.0%(110)	100.0%(76)	100.0%(64)	(474)		
そ の 他 の 都 市	勤務	9.7%	3.7%	2.4%	5.4%	1.1%	(31)		
	自営	4.8	8.3	4.2	2.3	4.6	(32)		
	日傭	3.4	2.2	3.6	1.5	1.1	(17)		
	内職	3.4	5.3	6.0	11.7	10.9	(46)		
	家族従業	25.6	27.2	20.0	17.1	23.1	(130)		
	無職	52.7	53.0	63.5	61.7	57.4	(380)		
	計	100.0%(144)	100.0%(132)	100.0%(165)	100.0%(128)	100.0%(87)	(656)		
郡 部	勤務	2.3	3.5%	4.5%	—	1.9%	(40)		
	自営	2.9	1.4	0.5	1.8	1.3	(26)		
	日傭	1.7	—	2.5	1.2	0.6	(22)		
	内職	3.5	3.7	2.5	1.8	2.5	(52)		
	家族従業	60.7	63.3	60.0	62.1	64.7	(1,030)		
	無職	28.6	25.8	30.0	32.8	28.8	(488)		
	計	100.0%(342)	100.0%(278)	100.0%(398)	100.0%(328)	100.0%(312)	(1,658)		
全 国	勤務	5.3%	3.6%	3.2%	2.4%	1.9%	(93)		
	自営	2.8	3.6	1.6	2.0	2.1	(66)		
	日傭	2.1	0.5	2.6	1.5	0.2	(45)		
	内職	4.1	8.2	5.3	6.5	6.2	(168)		
	家族従業	44.4	43.1	41.4	44.3	50.5	(1,240)		
	無職	40.9	40.8	45.9	43.0	38.8	(1,176)		
	計	100.0%(296)	100.0%(524)	100.0%(673)	100.0%(532)	100.0%(463)	(2,788)		

第17表 妻の年齢別構成(端年令)

	～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～49才	50～59才	60才以上	計
六大都市	8.0%	24.0%	12.6%	20.6%	21.5%	13.0%	—%	100.0% (474)
その他の都市	6.5	18.5	19.6	17.0	23.6	14.1	0.9	100.0 (656)
郡部	6.2	17.4	20.5	13.6	26.2	14.9	0.8	100.0 (1,658)
全国	6.6	18.8	18.9	15.6	24.8	14.4	0.5	100.0 (2,788)

第18表 妻の年齢別、職業形態(M. A.)

	勤務	自営	日傭	内職	家族従業	無職	計
六大都市	—%	—%	—%	3.2%	10.5%	84.2%	100.0% (98)
～24才	—	—	—	—	—	—	—
25～29才	5.2	1.7	—	1.4	8.7	70.1	100.0 (114)
30～34才	3.3	3.3	—	1.3	13.3	66.6	100.0 (60)
35～39才	4.0	—	2.0	1.8	8.1	67.3	100.0 (98)
40～49才	7.8	3.9	1.9	1.6	13.7	52.9	100.0 (102)
50～59才	3.2	—	3.2	9.6	25.8	58.0	100.0 (62)
60才以上	—	—	—	—	—	—	—
その他の都市	9.9%	2.3%	4.6%	9.9%	25.5%	48.8%	100.0% (43)
～24才	6.5	1.6	—	3.6	19.6	66.3	100.0 (122)
25～29才	1.5	3.8	1.5	8.5	23.2	61.3	100.0 (129)
30～34才	3.3	3.8	3.5	10.7	16.1	54.1	100.0 (112)
35～39才	5.8	4.5	5.1	7.0	26.4	50.9	100.0 (155)
40～49才	2.1	6.4	1.0	1.0	36.8	62.3	100.0 (99)
50～59才	—	—	—	—	(1)	(1)	100.0 (2)
60才以上	—	—	—	—	—	—	—
郡部	—%	1.9%	—%	1.9%	74.9%	21.1%	100.0% (104)
～24才	4.1	0.6	2.0	4.1	57.9	31.0	100.0 (293)
25～29才	2.9	0.5	2.5	1.7	57.6	34.7	100.0 (340)
30～34才	2.6	4.4	1.7	4.4	61.9	27.8	100.0 (226)
35～39才	3.2	0.9	0.9	3.6	63.7	27.5	100.0 (436)
40～49才	—	2.4	—	2.4	66.1	29.0	100.0 (248)
50～59才	—	—	—	—	(6)	(8)	100.0 (14)
60才以上	—	—	—	—	—	—	—
全国	2.1%	1.6%	1.0%	4.3%	50.2%	40.8%	100.0% (185)
～24才	4.9	1.1	1.1	6.6	38.4	47.7	100.0 (526)
25～29才	2.5	1.7	1.8	4.7	44.2	44.7	100.0 (529)
30～34才	3.6	4.8	2.2	9.1	38.0	42.4	100.0 (436)
35～39才	4.4	2.1	2.0	6.7	48.0	36.5	100.0 (699)
40～49才	0.9	2.9	0.7	3.2	50.8	41.1	100.0 (403)
50～59才	—	—	—	—	(7)	(9)	100.0 (16)
60才以上	—	—	—	—	—	—	—
計							(2,788)

3. 働く婦人の状況と意見

一日に働いている婦人の状況と意見といつても、その職業形態によつてとり上げ方が異なってくる。本項では先ず(1)勤務、自営、日傭、内職を一グループとし、さらにそのうち(2)内職だけを又詳説する。次に(3)家族従業を単独でとり上げたい。*

(1)勤務、自営、日傭、内職の場合

収入を男女別にみると婦人が男子に比べてかなり低い段階にとどめられていることがわかる。すなわち、勤務、自営、日傭を本職としている婦人の収入は、月6,000円未満のものが六大都市35.5%、その他の都市50.9%、郡部54.5%の多きを数える。12,500円以上のものは各々9.4%、15.4%、6.8%にすぎなくなる(中小都市の場合は比較的自営が多いから高率となるのであろう)。(第19表)。

これを内職についてみると、月1,250円未満が六大都市47.3%、その他の都市36%、郡部51.3%、月1,750円未満ではおのおの70.9%、58.9%、62.7%となる。郡部においては、内職収入の占める比重が大きく、月3,500円以上のものでは六大都市7.8%、その他の都市8.1%に対し、郡部では14.2%を示している(第20表)。

(このことは最近兼業農家が増加傾向にあることを考慮されたい)。

内職収入は、下層生活者にとっては重要な収入源であつて、全国的に生活程度下のものに1,750円以上のものが多く45.4%をしめ、それが中下では22%、中上では30.8%になつている(第23表)。

全夫婦のうち実に半数以上(59.6%)は、何らかの意味で共に働いているが、その夫婦の職業形態、ならびに職業内容をしらべると、形態においては、夫婦のいずれか一方が自営で他方が家族従業、というものが56.9%で、一番多い。次ぎが家族従業と内職の8.7%、勤務と内職の6.9%、勤務の4.6%、その諸形態の22.6%となつている現金収入が(夫婦双方にある形態の少ないことが注意)される(第24表)。職業内容からみれば、農林漁業と農林漁業の59.3%、商工業と商工業の15.1%、農林漁業とその他の5.9%、労務と労務の4.9%、事務と事務の1.3%、その他の13.2%である。

職業内容の方で、とも働きでないものが47.8%になつているが、これは内職を職業に含めていないから多くなつてゐるわけである(第25表)。

これを夫の側と妻の側とに分けてとつてみると、まず夫が勤務している場合、妻に「家事のみ」が多い(68.6%)のはともかく、妻で内職(9.9%)をしているものが目立ち、妻

も勤務しているものは5.2%にすぎない。

夫が自営している場合には妻の家族従業(70.1%)が多く、又夫が日傭をしている場合には妻も全くと日傭が16.9%、家族従業が15.3%で、それぞれ多くなっている。

夫が家族従業の場合では、やはり妻も家族従業をしている率が高く82.1%に達する(第26表)。

次に妻の側からみれば、妻が勤務している場合には、夫も勤務している比率が高く77.2%であり、又妻が自営している場合には夫の勤務は36.1%で、家族従業は19.1%にすぎない。(この場合でも必ずしもすべての夫が妻の事業に家族従業しているとは言えないであろう)。

妻が日傭の場合には、夫も日傭が35%、勤務が35%であり、妻が内職をしている場合には、夫が勤務している家庭が多く71.5%にのぼっている。また妻が家族従業の場合、夫の自営は実に78.6%にも達している(第27表)。

以上の群をみても明らかな通り、妻は職業上も夫の職業によつてある程度制約されている。

次に夫の職業形態の違いにより、妻の収入がどの程度違うかということは、実数の少いことと、さらに妻の職業形態の違いにより異なってくるための、今回はとくにとり上げて問題とし得なかつたので、実数表のみにかけておく(第30、31、32表)。

さて、総体的に婦人の収入が固く低いことは初めにみた通りであるが、それにもかかわらず、今従事している勤務、自営、日傭、内職を続けたい(続けさせたい)というものが圧倒的に多い(73.6%)(第33表)。

男女別では、全国的に有配偶の男子(夫)に仕事を続けさせたいというものが多く(78.1%)のに対し、未婚の女子には仕事をやめたいという率が比較的高く、特に郡部では40.9%という数字が出ている(第34表)。

大体家事相当者の方が、それ以外の婦人よりも(35表)、又年令の高い層ほど(第36表)今の仕事を続け(させ)たいと考えるものが多い。

学歴別では、市部では学歴の高くなるほど、又郡部では中卒程度のものに、仕事をやめ(させ)たいというものが多く(第37表)。

生活程度別では、当然のことながら、生活程度が低くなるにしたがつて仕事を続け(させ)たいが多くなり、仕事を続ける続けないということが、生活状態に左右されることをよく示している(第38表)。

仕事をやる理由に、婦人の社会的経済的進出、あるいはそれに類似のことを口にしたものは、有配偶の男9.6%、女子一般27%で、特に郡部の未婚婦人(58.3%)に多くなっている(第40表)。

反対に仕事をやめたい理由としては、総じて家事と両立しないからというものが多くのは当然としても、転職したいから(21.1%)、収入が少いから(14%)というものもかなり見うけられ、それぞれ郡部の婦人に多くなっている(転職したいから28.5%、収入が少いから19%)(第41、42表)。実数が少ないため断言できないが、家事と両立しないからという考え方は、六大都市では女子に、郡部では男子の方に強いようである。

仕事を続け(させ)たいというものでは男子(夫)よりは女子の方に多く、生活に余裕があつても婦人は積極的に職についた方がよいと言うものが多いが、仕事をやめ(させ)たいというものでは、逆に女子よりも男子(夫)の方に職をもてというものが多くなっている(第43表)。

仕事をやめたいと言う女子は、婦人の職業は腰かけでもよいかどうかについては一概に言えないとする率がたかいが(25.9%)さすがに仕事を続けたいと言う女子では、(一時的)ではよくないとするものが31.7%に達する。夫の方は仕事を続けさせたいと言うにせよあるいは、やめさせたいと思うにせよ、その過半数が腰かけでもよいと答えている。

(第44表)

★ 勤務、自営、日傭、内職を一グループとしたのはそれらについては、個人的な収入額を把握し得るからである。

註22

此の(3)ならびに後出の(4)の調査は、勤務、自営、日傭、内職、家族従業に従事している女子と「妻がこれらの仕事に従事している家族の夫」の両者より見た固く女性に妻である。対象者は全く無作為に抽出されているから、得られた結果を単純に集計すれば目的のデータが得られる。

〔質問〕〔女子対象者で勤務、自営、日傭、内職に従事しているもの、男子対象者でその妻が勤務、自営、日傭、内職に従事しているものに〕
それで、月どの位の収入になりますか。

才19表 本 職 収 入

	2000円未満 以下同じ	4500円	6000円	8500円	12500円	17500円	25000円	32500円	32500円以上	不明計
六大都市	2.3%	14.2%	19.0%	26.1%	18.6%	2.3%	7.1%	%	%	11.8%1000%(84)
その他の市	2.7	20.4	27.8	20.4	8.1	8.8	1.3	4.0	1.3	4.7 1000 (147)
郡 部	6.8	19.3	28.4	13.6	13.6	3.4	—	3.4	—	11.3 1000 (176)
全 国	4.4	18.6	26.2	18.6	12.2	5.1	1.9	2.9	0.4	9.9 1000 (407)

才20表 内 職 収 入

	750円未満 以下同じ	1250円	1750円	2500円	3500円	5000円	7500円	9500円	9500円以上	不明計
六大都市	18.4%	28.9%	23.6%	5.1%	13.1%	—%	5.2%	—%	2.6%	2.6%1000%(78)
その他の市	21.3	14.7	22.9	9.8	18.0	6.5	1.6	—	—	4.0 1000 (61)
郡 部	14.2	37.1	11.4	11.4	37.1	11.4	1—	—	—	5.7 1000 (70)
全 国	17.8	27.5	19.3	9.6	11.1	8.7	2.4	—	0.9	4.3 1000 (207)

才21表 本職内職収入合合計

	2000円未満 以下同じ	4500	6000	8500	12500	17500	25000	32500	32500以上	不明計
六大都市	27.8%	22.7%	13%	13%	8.8%	12%	50%	—%	12%	7.5%1000%(158)
その他の市	16.3	21.7	22.7	14.3	7.4	8.4	0.9	2.9	0.9	3.9 1000 (202)
郡 部	21.5	19.8	25.8	10.3	10.3	2.5	—	2.5	—	6.8 1000 (232)
全 国	21.4	21.2	20.9	12.8	8.9	4.2	1.6	2.0	0.6	6.0 1000 (592)

〔註〕23. 第19表は勤務、自営、日傭のものについての月収である。

第21表は1人で本職、内職両方従事しているため表数が第19表と第20表の合計より少くなる。

才22表 地域別生活程度別本職収入

本職収入		2000円未満 以下同じ	4500	6000	8500	12500	17500	25000	32500	32500円以上	不明	計
市 部	上	— %	— %	(1%)	(5%)	(1%)	(1%)	(2%)	1 %	1 %	—	1000%(12)
	中上	—	15.9	24.4	17.0	15.9	10.6	4.2	2.1	—	9.5	1000 (94)
	中下	3.2	17.5	19.7	31.8	10.9	3.2	2.1	3.2	1.0	6.5	1000 (91)
	下	8.8	32.3	44.1	5.8	—	2.9	—	—	—	5.8	1000 (34)
郡 部	上	—	(2)	(2)	—	(6)	—	—	—	—	—	1000 (10)
	中上	—	—	27.5	17.2	24.1	10.3	—	6.8	—	13.7	1000 (58)
	中下	9.3	28.1	28.1	12.5	6.2	—	—	3.1	—	12.5	1000 (64)
	下	13.6	31.8	31.8	13.6	—	—	—	—	—	9.0	1000 (44)
全 国	上	—	9.0	13.6	22.7	31.8	4.5	9.0	4.5	4.5	—	1000 (22)
	中上	—	9.8	25.6	17.1	19.0	10.5	2.8	3.9	—	11.1	1000 (152)
	中下	5.8	21.9	23.2	23.8	9.0	1.9	1.2	3.2	0.8	9.0	1000 (155)
	下	11.5	32.0	37.1	10.2	—	1.2	—	—	—	7.6	1000 (78)

才23表 生活程度別内職収入

		750円未満 以下同じ	1250円	1750円	2500円	3500円	5000円	7500円	9500円	9500円以上	不明計
全 国	上	—%	—%	—%	—%	(1)%	—%	—%	—%	(2)%	— 1000%(3)
	中上	12.0	37.9	15.5	10.3	13.7	6.8	—	—	—	3.4 1000 (58)
	中下	23.0	29.0	21.0	8.0	6.0	5.2	3.0	—	—	5.0 1000 (100)
	下	15.2	13.0	21.7	13.0	17.3	10.8	4.3	—	—	4.3 1000 (46)

才24表 夫婦の職業形態(全国)

自営と家族従業	34.1%	56.9%
自営と家事	12.5	
勤務と勤務	2.7	4.6
勤務と内職	4.1	8.9
勤務と家事	23.4	
家族従業と内職	6.2	8.7
その他の形態	13.5	22.6
ともかせぎではない	3.9	
双方無職のもの	0.1	
計	1000%(2788)	1000%(1872)

とも働きのもの

才 2 5 表 夫婦の職業内容 (全国)

農林と農林	30.8%	50.3%
商工と商工	7.9	15.1
事務と事務	0.6	1.3
労務と労務	2.5	4.9
農林とその他	3.1	5.9
その他の共稼ぎ形態	6.8	13.2
共稼ぎではない	46.0	
双方無職のもの	81.8	
	計1000%(2,788)	計1000%(1,434)

とも働きのもの

才 2 6 表 とも働きの職業形態 (夫の側) (全国)

妻の職業形態	勤務	自営	日傭	内職	家族従業	家事のみ	無し	計
勤 務	5.2%	2.4%	1.6%	9.9%	10.1%	63.6%	1.8%	1000%(491)
自 営	0.2	1.8	0.5	2.0	70.1	23.2	1.7	1000 (691)
日 傭	1.5	—	16.9	9.2	15.3	53.8	3.0	1000 (65)
家族従業	1.9	1.9	1.9	—	82.1	11.8	—	1000 (101)
無 し	23.8	9.5	4.7	14.2	—	47.6	—	1000 (21)

〔註〕24 本表は対象者構成の(15)と(20)との相関により得られる。

才 2 7 表 とも働きの職業形態 (妻の側) (全国)

夫の職業形態	勤務	自営	日傭	内職	家族従業	家事のみ	無し	計
勤 務	77.2%	4.5%	7.5%	—%	—%	—%	10.5%	1000%(66)
自 営	30.1	18.1	4.2	4.2	19.1	—	16.9	1000 (47)
日 傭	36.0	15.0	35.0	5.0	—	—	10.0	1000 (20)
内 職	71.5	22.1	3.1	—	—	—	3.1	1000 (96)
家族従業	7.0	78.6	3.1	—	11.0	—	0.1	1000 (580)
家事のみ	52.3	31.4	8.4	—	15	—	8.1	1000 (594)
無 し	58.8	29.4	—	—	—	—	11.7	1000 (17)

〔註〕25 本表は対象者構成の(15)と(20)との相関により得られる。

才 2 8 表 とも働きの職業内容 (夫の側) (全国)

妻の職業	農林漁業	商工業	事務	労務	自由業(重役役員高級社員)	その他	なし	計
農 林 漁 業	86.5%	0.3%	—%	1.1%	0.3%	—%	11.5%	1000%(513)
商 工 業	4.2	43.7	—	4.2	0.3	0.3	46.8	1000 (258)
事 務	15.4	1.3	4.0	3.6	—	1.3	740	1000 (220)
労 務	6.6	2.0	0.9	12.5	0.6	1.3	748	1000 (302)
自由業(重役役員高級社員)	—	2.3	4.7	—	—	—	928	1000 (42)
そ の 他	—	—	—	—	—	(1)	(10)	(11)
な し	—	8.6	8.6	39.1	—	—	43.4	1000 (23)
								(1369)

〔註〕26 本表は対象者構成の(5)(13)(19)の相関により得られる。

才 2 9 表 (妻の側) (全国)

夫の職業	農林漁業	商工業	事務	労務	自由業(重役役員高級社員)	その他	なし	計
農 林 漁 業	83.6%	2.3%	8.1%	6.3%	—%	0.3%	0.9%	1000%(501)
商 工 業	2.9	79.8	2.9	9.6	—	—	4.4	1000 (155)
事 務	—	—	37.0	37.0	14.8	7.4	3.7	1000 (27)
労 務	7.0	5.2	7.0	59.6	—	7.0	14.0	1000 (57)
自由業(重役役員高級社員)	—	(2)	(1)	—	—	—	—	(3)
そ の 他	—	16.0	26.0	32.0	—	16.0	8.0	1000 (25)
な し	10.1	18.4	25.0	36.6	2.0	1.9	5.8	1000 (671)
								(1419)

〔註〕27 本表は対象者構成の(5)(13)(19)の相関により得られる。

才30表 夫の職業形態と妻の本職収入（実数）（全国）

夫の職業	妻の職業	妻の本職収入										不明	計
		2000円未満 以下同じ	4500	6000	8500	12500	17500	22500	32500	32500	円以上		
全 国	勤 務	2	17	32	23	13	7	7	2	—	—	9	(112)
	自 営	1	4	6	4	6	—	—	5	1	—	13	(40)
	日 傭	5	5	10	2	2	—	—	—	—	—	—	(224)
	家族従業	1	1	2	—	1	1	—	2	—	—	—	(8)
	ナ シ	—	6	6	4	1	2	—	—	—	—	1	(20)
													(204)

夫の職業形態と妻の本職の収入

〔註〕28 第30表は全国の妻の収入と夫の職業形態との関連であるが、郡部の統計資料がないので一応市部のみをとりあげてみると以下の通りである。そのうち本表の基礎となつた調査票に当つて計算すれば、六大都市、その他の都市での妻の本職による収入は（99名）平均9,045円である。本調査と略、同時期に行われた総理府統計局調査による昭和29年2月の家計調査報告によれば、全都市での勤労世帯の女世帯の本業による収入（臨時のものは除く）は平均19,198円であるから、妻の本職による収入の2倍に達する。勿論、本調査による妻の本職の中には、自営その他給料生活以外のものも含まれてはいるが、この数は少ないので、大雑把な比較は可能であろう。また本調査による妻の経歴年数、生活程度等が家計調査による女世帯主のそれとどの程度類似しているかが不明なので、条件を同じくした場合の男女の給料がこれほど喰ひ違ふものであるかどうかは判らない。

才31表 夫の職業形態と妻の内職収入（実数）（全国）

夫の職業	妻の職業	妻の内職収入										不明	計
		750円未満 以下同じ	1250	1750	2500	3500	5000	7500	9500	9500	円以上		
全 国	勤 務	20	33	26	10	20	4	4	—	—	—	(2)	(121)
	自 営	6	13	7	76	3	4	—	—	—	—	(3)	(42)
	日 傭	2	5	—	—	—	2	—	—	—	—	—	(2)(11)
	内 職	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(1)
	ナ シ	2	—	1	1	—	2	—	—	—	—	—	(6)
													(181)

才32表 夫の職業形態と妻の本職・内職収入の合計（実数）（全国）

夫の職業	妻の職業	妻の本職・内職収入の合計										不明	計
		2000円未満 以下同じ	4500	6000	8500	12500	17500	22500	32500	32500	円以上		
全 国	勤 務	69	53	38	23	15	9	9	2	2	10	—	(230)
	自 営	25	14	10	4	7	—	—	5	1	11	—	(77)
	日 傭	12	5	11	2	2	1	—	—	—	—	—	(33)
	内 職	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(1)
	家 徒	1	1	2	—	1	1	—	2	—	—	—	(8)
	ナ シ	3	7	8	4	1	2	—	—	—	—	1	(26)
													(375)

〔註〕29 第30表は第19表と対象者構成の(15)、(20)との相関により
第31表は第20表と “ ” 作製された
第32表は第21表と “ ”

〔質問〕今後もその仕事を（M、Aの場合は本職を）ずっと続けて行きたい（続けさせたい）
と思ひますか。 それとも適当なときにやめたい（やめさせたい）と思ひますか。

才33表 仕事の継続について

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国
続けたい（させたい）	74.6%	72.2%	74.1%	73.6%
やめたい（させたい）	24.0	24.7	23.2	23.9
そ の 他	—	1.4	—	0.5
不 明	1.2	1.4	2.5	1.8
計	1000%(158)	1000%(202)	1000%(232)	1000%(592)

〔註〕30 この質問は、勤務、自営、日傭、内職のものについてきいた。対象者が女子の場合と、有配偶の男子の場合とではききかたが相違する。（有配偶の男子には（ ）内の言葉を使用）以下44表まで同じ。

才34表 仕事の継続について(男女別、未婚婚別)

	続けたい	続けさせたい	やめたい	やめさせたい	その他	不明	計
六 大 都 市							
男(有配偶)	80.7%	—%	19.2%	—%	—%	—%	1000%(52)
女(全 体)	71.6%	—	25.2	—	—	1.8	1000 (106)
〃(未 婚)	61.1	—	33.3	—	—	5.5	1000 (36)
〃(死別別)	87.5	—	12.5	—	—	—	1000 (16)
〃(有配偶)	74.0	—	25.9	—	—	—	1000 (54)
そ の 他 の 都 市							
男(有配偶)	—%	71.7%	—%	28.0%	2.1%	—%	1000%(46)
女(全 体)	72.4%	—	24.3	—	1.2	1.9	1000 (165)
〃(未 婚)	60.4	—	32.5	—	2.3	4.6	1000 (43)
〃(死別別)	81.8	—	18.1	—	—	—	1000 (33)
〃(有配偶)	75.6	—	21.7	—	1.2	1.2	1000 (80)
郡							
男(有配偶)	—%	80.6%	—%	19.3	—%	—%	1000%(62)
女(全 体)	71.7%	—	24.7	—	—	3.5	1000 (170)
〃(未 婚)	54.5	—	40.9	—	—	4.5	1000 (44)
〃(死別別)	95.4	—	4.5	—	—	—	1000 (44)
〃(有配偶)	68.2	—	26.8	—	—	4.8	1000 (82)
全 国							
男(有配偶)	—%	78.1%	—%	21.2%	0.6%	—%	1000%(160)
女(全 体)	71.9%	—	25.0	—	0.4	2.5	1000 (432)
〃(未婚婚)	58.0	—	36.2	—	0.8	4.8	1000 (123)
〃(死別別)	89.2	—	10.7	—	—	—	1000 (93)
〃(有配偶)	72.5	—	24.6	—	0.4	2.3	1000 (216)

才35表 仕事の継続について(家事担当別)

	続けたい	やめたい	その他	不明	計
六 大 都 市					
家事担当者	70.9%	25.8%	—	3.2%	1000%(62)
家事手伝い	59.9	39.9	—	—	1000 (30)
家事をやらぬ	100.0	—	—	—	1000 (14)
そ の 他 の 都 市					
家事担当者	70.1%	22.1%	0.8%	0.8%	1000%(113)
家事手伝い	57.1	32.1	3.5	7.1	1000 (28)
家事をやらぬ	73.3	26.6	—	—	1000 (15)
郡					
家事担当者	70.9%	18.4%	—%	1.5%	1000%(130)
家事手伝い	56.2	31.2	—	12.5	1000 (32)
家事をやらぬ	—	100.0	—	—	1000 (8)
全 国					
家事担当者	70.7%	21.3%	0.3%	1.6%	1000%(305)
家事手伝い	57.7	34.4	1.1	6.6	1000 (60)
家事をやらぬ	67.5	32.4	—	—	1000 (37)

才36表 仕事の継続について(年齢別)

	続けたい(続けさせたい)	やめたい(やめさせたい)	その他	不明	計
20~24才	58.4%	36.7%	0.9%	3.7%	1000%(106)
~29才	57.1	37.1	—	5.7	1000 (70)
~34才	78.6	20.3	0.8	—	1000 (103)
~39才	77.4	20.4	—	2.1	1000 (93)
~49才	80.1	18.5	0.6	0.6	1000 (151)
~59才	86.9	13.0	—	—	1000 (69)

才37表 仕事の継続について(学歴87)

		続けたい(続けさせたい)	やめたい(やめさせたい)	その他	不明	計
市	小卒	73.7%	13.5%	—%	2.7%	1000%(74)
	高小卒	84.7	13.7	—	1.4	1000(138)
	中卒	59.0	39.3	0.8	0.8	1000(122)
	専大卒	40.9	42.3	7.6	—	1000(26)
		(360)				
郡	小卒	72.4	24.1	—	3.4	1000(58)
	高小卒	79.9	16.3	—	3.6	1000(110)
	中卒	59.2	40.7	—	—	1000(54)
	専大卒	(10)	(—)	(—)	(—)	1000(10)
		(232)				
全国	小卒卒	78.7	18.1	—	3.0	1000(132)
	高小卒	82.6	14.9	—	2.4	1000(248)
	中卒	59.0	39.7	0.5	0.5	1000(176)
	専大卒	63.8	30.6	5.5	—	1000(36)

才38表 仕事の継続について(生活程度別)(全国)

	続けたい(続けさせたい)	やめたい(やめさせたい)	その他	不明	計
上	68.0%	32.0%	—%	—%	1000%(25)
中上	72.7	23.7	1.4	1.9	1000(202)
中下	74.2	24.4	—	1.2	1000(245)
下	74.9	21.6	—	3.3	1000(120)

〔質問〕 〔続けたい(続けさせたい)(やむを得ない)と言うものに〕

なぜ続けたい(続けさせたい)のですか。(なぜやむを得ないのですか) (O.A.)

才39表 仕事を続けたい(続けさせたい)理由

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
生活のため	69.4%	80.1%	73.2%	74.5%
個人にとつても社会にとつても プラスとなるような社会的進出 を口に出していつたもの	20.3	17.8	26.3	22.0
その他	8.4	1.8	—	2.7
不明	1.8	0.6	—	0.6
計	1000%(118)	1000%(146)	1000%(172)	1000%(436)

才40表 仕事を続けたい(続けさせたい)理由(男女別)

		生活のため	社会的進出	その他	不明	計
六大都市	男(有配偶)	66.6%	19.0%	14.2%	—%	1000%(42)
	女(全体)	71.0	21.0	5.2	2.6	1000(76)
その他の都市	男(有配偶)	87.8%	6.0%	3.0%	3.0%	1000%(33)
	女(全体)	77.8	21.2	0.8	—	1000(113)
郡部	男(有配偶)	95.0%	4.0%	—%	—%	1000%(50)
	女(全体)	63.9	36.0	—	—	1000(122)
全国	女(未婚)	41.6	58.3	—	—	1000(24)
	男(有配偶)	84.0%	9.6%	5.6%	0.8%	1000%(125)
全国	女(全体)	70.6	27.0	1.6	0.6	1000(311)
	(未婚)	51.3	43.0	2.7	2.7	1000(72)
全国	(離死別)	79.5	18.0	2.4	—	1000(83)
	(有配偶)	74.8	24.5	0.6	—	1000(156)

〔質問〕 〔やめたい(やめさせたい)(転業(職)を含む)と言う者に〕

なぜやめたい(やめさせたい)のですか(なぜ転業したい(させたい)のですか)
(O.A.)

才 4 1 表 仕事をやめたい（やめさせたい）理由

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国
転業（職）したい	10.5%	24.4%	25.9%	21.1%
収入が少いとのみ言つたもの	15.7	8.0	18.5	14.00
家事と両立しない（体が弱い體かない） （育児、結婚のため）	68.4	58.0	40.7	54.2
そ の 他	5.2	8.0	14.8	9.8
不 明	—	2.0	—	0.7
計	1000%(38)	1000%(50)	1000%(54)	1000%(142)

表 4.2 仕事をやめたい（やめさせたい）理由（男女別）

	男	職業(職)として収入が少いから	家事と両立しない	その他	不明	計
六大都市	男(有配偶)	20.0%	—%	60.0%	20.0%	—% 1000% (10)
	女(全体)	7.1	21.4	71.4	—	— 1000 (28)
その他の都市	男(有配偶)	24.9	8.3	58.3	—	8.3 1000 (12)
	女(全体)	23.6	7.8	57.9	10.5	— 1000 (38)
市郡部	男(有配偶)	16.6	18.6	49.9	16.6	— 1000 (12)
	女(全体)	28.5	19.0	38.0	14.2	— 1000 (42)
全国	男(有配偶)	20.5	8.8	55.8	11.7	2.9 1000 (34)
	女(全体)	21.2	15.7	53.6	9.2	— 1000 (108)
	(有配偶)	19.2	19.2	57.6	3.8	— 1000 (52)

才 4 3 表 仕事の継続について（質問組合）

		家庭に以上	一概に言えない	職をもて	不 明	計
女	仕事を続けたい	86.5%	11.5%	18.9%	2.8%	1000% (311)
	やめたい	71.2	5.9	20.3	18.0	1000% (108)
	その他	(2)	—	—	—	(2)
	不 明	(9)	—	—	(2)	(11)
有配偶の男	仕事を続けさせたい	80.7	7.9	11.2	0	1000% (125)
	やめさせたい	67.5	5.8	26.4	0	1000 (34)
	その他	—	(1)	—	—	(1)
	不 明	—	—	—	—	(0)

表 4-4 仕事継続について（質問組合せ 2）

	一時的 でよい	一時的で よい (な)くなる のはや むをえぬ	一概に いえぬ	一時的で はよくない みぢかく なるのは やむをえぬ	一時的で はよくない い	不 明	計
女 { 仕事を続けたい	29.2%	14.4%	13.8%	8.0%	23.7%	10.6%	1000%(311)
女 { やめたい	29.6	12.0	25.9	6.4	12.0	13.8	1000 (108)
女 { その他	(1)	—	(1)	—	—	—	(2)
女 { 不 明	—	(2)	(2)	—	(1)	(6)	(11)
有配偶の男 { 仕事を続けさせたい	39.2	20.7	10.3	10.3	15.2	4.0	1000 (125)
有配偶の男 { やめさせたい	58.8	8.8	2.9	17.6	11.7	—	1000 (34)
有配偶の男 { その他	—	—	—	(1)	—	—	(1)
有配偶の男 { 不 明	—	—	—	—	—	—	(0)

(2)特に内戦の場合について

内職は一般に家にいながら自己の労働を賃金化しうる形態なので、内職希望者の絶えることはなく、このことが内職従事者間に連絡がないことと相まつて、不当に賃金を安くしているとみられるが、さらにどれだけの時間を内職のために使っているかといえは、一日6～9時間というものが六大都市では27.7%，その他の都市32.4%，郡部61.1%であり、10時間以上が六大都市33.3%，その他の都市2.7%，郡部11.1%となつてゐる。全国的に6時間以上のもものが過半数（55.8%）を占める（家事や育児に追われながらも、内職で6時間以上も時間をさかなければならぬ婦人が過半数を占めることに注意）（第47表）。

大切なことは、内職のようなわりに合わない仕事ですら、婦人にとっては、あつた方がましなのであつて、内職が不定期で（なくて）困るというものが六大都市に16.6%，その他の都市24.3%，郡部22.2%，利益が少くて困るというものは11.1%，24.3%，33.3%，内職は不定期であるし、利益が少いと上述の二つの理由をあげて困るというものは11.1%，10.8%（郡部にはなし）もあり（第45表），さらに利益が少くて困る，あるいは利益の少いことと，不定期の両者を含めて困るという婦人の78.6%（全国）は，時に或いは毎日夜おそくまで内職に従事せざるを得ない状態にあることである（第46表）。このような状態にあつても大多数の家庭内の内職者にあつては，彼女達が家庭外で働くということは種々の条件が

それを許さず、外で働きたいと思うものは全国24.9%にすぎないものとなつている(第48表)

因みにどのような内職に携つているか、満14才以上の婦人について集録したものが第49表

(頁)である。

〔質問〕〔対象者が女で内職のみして、ほかから収入がないものに〕

内職仕事とぎれたり、あるいはその利益が少なくて困ることが多いですか。

才45表 内職者の状態

	困らぬ(困ることは少い)	内職が不定期で(なくて)困る	利益が少なくて困る	困る	不明	計
六大都市	55.5%	16.6%	11.1%	11.1%	5.5%	1000%(36)
その他の都市	29.7	24.3	24.3	10.8	10.8	1000(37)
郡部	44.4	22.2	33.3	—	—	1000(38)
全国	43.1	21.1	22.9	7.3	5.5	1000(109)

〔質問〕〔利益が少なくて困る、困るというものに〕

そのため毎日夜おそくまで仕事をしているわけですか。

才46表 内職者の状態 その二

	毎日夜おそくまでする	ときにおそくまでする	そんなことはしない(できない)	不明	計
六大都市	(4)	(4)	—	—	(8)
その他の都市	(5)	(7)	(1)	—	(13)
郡部	(4)	(2)	(6)	—	(12)
全国	(13)	(13)	(7)	—	(33)
	78.6%		21.3%		

〔質問〕内職に使う時間は平均して一日何時間位ですか。

第47表 内職の時間

	1時間以内	2時間以内	3時間以内	4時間以内	5時間以内	6～9時間	10時間以上	その他	不明	計
六大都市	—	—	11.1	5.5	16.6	27.7	33.3	—	5.5	1000%(36)
その他の都市	2.7	2.7	4.1	5.4	18.9	32.4	2.7	2.7	24.3	1000(37)
郡部	—	—	5.5	5.5	16.6	61.6	11.1	—	—	1000(38)
全国	0.9	0.9	8.2	6.5	17.4	40.3	15.5	0.9	10.0	1000(109)

〔質問〕〔家の中で内職をやつているものみに〕

もつとわりのよい仕事があれば家庭外で働きたいと思いませんか。

第48表 内職者の希望

	家庭外で働きたい	外で働こうとは思はない	一概に云えない	不明	計
六大都市	25.6%	45.6	13.3	13.3	1000%(36)
その他の都市	27.7%	41.6	8.3	22.2	1000%(37)
郡部	19.9%	73.3	—	6.6	1000%(38)
全国	24.9%	53.1	7.2	14.5	1000%(109)

第49表 内職の形態

六大都市 和裁、綿糸の仕上加工、絹物、資の留守番、菓子小売、パチンコ屋手伝い、製本下請け、ボール箱貼り、洋裁、仲居、房づくり、主人の商業デザインの外交、金を丸く切り抜くこと、反物の毛抜き、玩具製造組立、爪草の上塗り、袋貼り、石綿の乾燥、手内職一般、洋服のボタン、カザリどめ、ズボンのまとも、ナイロンの糸縫い、人造真珠の玉つなぎ、子守り、鼻緒製造、手袋のかざり等、

その他の都市 作物の皮むき、和、洋裁、干草の手揚げ仕上げ、輸出向衣料品の刺繍、綿糸工、封筒貼り、糸引き、絹物、魚の料理、手袋縫い、マツチ箱(詰)、製本、書道、袋貼り、馬具卸品下縫、経木細、バンコック帽子あみ、真珠玉紐通し、真田縫い、女中一般、竹細工、笛製造、ミシン加工、養鶏、はぎれ屋、風船製造、筆耕、飯食店手伝い、カーテン加工、行商、マツチ箱等、

郡部 日傭、有松しほり、洋裁工、和裁、雑貨委託販売、絹物、駄菓子、雑役、染物、紡績女工、養鶏、簪作り、竹細工、木炭の炭製造、タドン製造、針仕事、簪仕事、農家手伝い、焼鳥屋手伝い等、

(3) 家族従業の場合

今まで(1)でみてきたような「仕事を続けたいかどうか」と云うことを、家族従業者についてみると、一般に賃労働形態の場合でもそうであつたが、それ以上に家族従業を続けたい(続けさせたい)と云うものが多くでている。即ち、続けたい(続けさせたい)と思つているものは全国で90%を少し上廻り、やめたい(やめさせたい)と云うものは僅か6.8%にすぎない(才50表)。全国的に有配偶の男(夫)の93.2%は家族従業を続けさせたいと考え、婦人が家族従業に従事することを好都合としているのは当然であるが、妻も92.6%もが家族従業を続けたいと云つてゐる。ここでも未婚女性には仕事(家族従業)をやめたいというものが多くその率は39.2%である(才51表)。年齢別では20~24才までの男女の18.1%がやめたい(やめさせたい)と云つてゐるのが多少めだつてゐるだけで、他の諸年齢層間には差がみられない(才52表)。農家(兼業農家を含む)とそれ以外とは農家の方に続けたいというものが多く92.2%を示し、それ以外の家族従業のものではやめたい(やめさせたい)というものが13.7%に達する(才53表)。家族従業を続ける理由としては家業だから、生活のためにというような考え方が男女に拘りなく大なる部分を占める。男女別では、夫では15.5%が人手不足だから、10.6%が遊んでいるのは勿体ないからなどと考えるのに対し、女子では他に仕事がない(できない)し転業しても困るから、と云うものが11.4%で男女の考え方の相違を示している(才55表)。

農家の場合は家が農家だからと云う考え方が支配的で41.9%、その他の理由では、生活のため25.5%人手不足だから10.3%、転業しても困る、9.1%であるが農家以外の場合では生活のため27.8%、家業だから23.6%、転業しても困る16.3%、人手不足だから15.2%、という比率で他に仕事がない(できない)というものが農家より若干多くなつてゐる(才56表)。

他方、家族従業をやめたい(やめさせたい)理由は、夫では家事と両立しないからというものが65.6%で大多数を占めるが、女子では「他にもつと生甲斐のある仕事をしたい」が30%「今の仕事はとにかく厭だ」が28.3%で家事との両立を認めがたいとする(即ち家事に専念したい)ものは26.6%である(才58表)。

農家の場合今の仕事に不満な者が26.5%もあり、家事と両立しないことをいうものは34.3%であるが、農家以外のものでは53.5%が家事と両立しないからと云つてゐる(才59表)。

家族従業を続けたいと云う女子には、家族従業をやめたいと云う女子よりは、生活に余裕があれば女は家庭にいた方がよいと云う意見が少く、逆に積極的に職業をもてというものが多くなつてゐる。家庭従業を続けさせたいと云う夫と、やめさせたいと云う夫との間にも同じような関係がみられる(才60表)。家族従業をやめたい(やめさせたい)というものに女の職業は腰かけでよい又一概に云えないと考えるものが多い(才61表)。

〔質問〕 〔家族従業(農、商)今後もその仕事をずっと続けて行きたい(続けさせたい)と思ひますか、それとも適当な時にやめたい(やめさせたい)と思ひますか。〕

第50表 仕事(家族従業)の継続について

	続ける(続けさせたい)	やめたい(やめさせたい)	不明	計
六大都市	93.3%	6.6%	—	1000%(69)
その他の都市	85.0%	12.4	2.4	1000%(161)
郡 部	91.5%	6.0	2.3	1000%(1130)
全 国	90.8%	6.8	2.2	1000%(1351)

第51表 仕事(家族従業)の継続について(男女別)

	男女別	続ける	続けさせたい	やめた	やめさせたい	不明	計
六大都市	男(有配偶)	—%	87.5%	—	12.5	—	1000%(32)
	女(全体)	100.0%	—	—	—	—	1000%(28)
その他の都市	男(有配偶)	—	88.2%	—	8.5	3.1	1000%(94)
	女(全体)	80.6%	—	17.9	—	1.4	1000(67)
郡 部	男(有配偶)	—	94.5%	—	3.9	1.5	1000%(510)
	女(全体)	89.3%	—	7.7	—	2.9	1000(620)
全 国	男(有配偶)	—	93.2%	—%	5.0%	1.7%	1000%(636)
	女(全体)	48.2%	—	39.2	—	12.4	1000(56)
	(未婚)	89.8	—	6.8	—	3.4	1000(58)
	(離死別)	92.5	—	5.6	—	1.6	1000(601)
	(有配偶)	88.8	—	8.3	—	2.6	1000(716)

第52表 仕事（家族従業）の継続について（年令別）

	20才～24才	25才～29才	30才～34才	35才～39才	40才～44才	45才～49才	50才～54才	55才～59才	60才～64才	65才～69才	70才～74才	75才～79才	80才～84才	85才～89才	90才～94才	95才～99才	計
全	77.2%	90.2%	92.9%	93.0%	93.6%	90.3%											1000%(110)
国	181%	61	7.0	4.8	3.9	7.3											1000%(195)
都	45%	30	—	2.1	2.4	2.3											1000%(227)
府																	1000%(186)
市																	1000%(333)
町																	1000%(300)

第53表 仕事（家族従業）の継続について（農家、非農家別）

	農家	非農家	計
継続したい（継続させたい）	92.2%	84.4	1000%(1126)
やめたい（やめさせたい）	5.4%	13.7	1000%(225)
不明	2.3%	1.7	

〔質問〕 〔継続したい（継続させたい）（やむを得ない）と云う者に〕継続したい（継続させたい）のはなぜですか。（やむを得ないのはなぜですか）（O、A）

第54表 仕事（家族従業）を継続したい理由

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
家業だから（他人は信用おけぬ）	28.5%	35.7%	40.1%	39.1%
生活のために	21.4	27.7	25.8	25.8
人手不足だから	21.4	15.3	10.0	11.1
他に仕事がない（できない）から	17.8	4.3	10.6	10.2
遊んでいるのはもつたないから	7.1	14.5	9.8	10.0
その他	—	0.7	0.9	0.8
不明	3.5	1.4	2.7	2.6
計	1000%(56)	1000%(137)	1000%(1036)	1000%(1229)

才55表 仕事（家族従業）を継続したい理由（男女別）

	家業	生活のために	人手不足だから	他に仕事がない（できない）から	遊んでいるのはもつたないから	その他	不明	計
市男（有配偶）	26.1%	29.7	21.6	6.3	15.3	—	0.9	1000%(111)
市女（全体）	43.8	20.7	10.9	10.9	8.5	1.2	3.6	1000%(82)
郡男（有配偶）	39.4	24.4	14.1	9.5	9.5	0.8	2.0	1000%(492)
郡女（全体）	40.7	27.0	6.4	11.8	9.7	1.0	3.2	1000%(554)
全男（有配偶）	36.9	25.4	15.5	8.9	10.5	0.5	1.8	1000%(593)
全女（全体）	41.1	26.2	7.0	11.4	9.5	1.1	3.3	1000%(636)

才56表 仕事（家族従業）を継続したい理由（農家、非農家別）

	農家	非農家	計
継続したい（継続させたい）	41.9%	23.6%	1000%(1039)
やめたい（やめさせたい）	25.5	27.8	1000%(190)
不明	10.3	15.2	

〔質問〕 〔やめたい（やめさせたい）と云う者に〕やめたい（やめさせたい）のはなぜですか（O、A）

才57表 仕事（家族従業）をやめたい（やめさせたい）理由

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
外に働きにでたいから（転業（取）したい）	—	1.0%	29.4%	23.9%
今の仕事は困る（厭だ）（自分が働く必要がない）	—	5	23.5	18.4
家事（育児等）と両立しないから（体が弱いから）	100.0%	4.5	35.2	40.2
その他	—	4.0	11.7	17.3
不明	—	—	—	—
計	1000%(4)	1000%(20)	1000%(68)	1000%(92)

才58表 仕事（家族従業）をやめたい（やめさせたい）理由（男女別）

	外に出て働きたい	今の仕事は困る	家事と両立しない	その他	不明	計
男（有配偶）	12.6%	—%	55.6%	21.8%	—	1000%(32)
女（全体）	30.0	28.3	28.6	25.6	—	1000%(60)

才59表 仕事(家族従業)をやめたい(やめさせたい)理由
(農家、非農家別)

農家	23.4%	28.5%	34.3%	15.8%	—%	100.0%(54)
非農家	24.9%	—	53.5	21.4	—	100.0%(28)

才60表 仕事(家族従業)の継続について(質問組合せ1)

		家庭にいい	一概に云えない	取をもて	不明	計
女	家従を続けたい	64.2%	12.8%	16.6%	6.1%	1000 (636)
	やめたい	74.0	6.6	13.3	4.9	1000 (60)
	不明	(9)	(4)	(0)	(6)	(19)
有配偶の男	家従を続けさせたい	66.0	10.6	19.8	3.3	100.0 (593)
	やめさせたい	81.2	3.1	15.6	—	100.0 (32)
	不明	(8)	(2)	(1)	—	(11)

才61表 仕事(家族従業)の継続について(質問組合せ2)

		一時的でいい	一時的でいい (ながくなるのはやむをえない)	一概にいい えない	一時的ではよくない (みじかくなるのはやむをえない)	一時的ではよくない	不明	計
女	家従を続けたい	35.2%	8.3%	12.5%	6.4%	11.7%	25.6%	1000%(636)
	やめたい	38.3	6.6	30.0	3.5	6.6	15.0	1000%(60)
	不明	(3)	(6)	(2)	—	(0)	(8)	(19)
有配偶の男	家従を続けさせたい	38.9	11.4	14.6	8.9	14.6	11.3	1000 (593)
	やめさせたい	50.0	6.2	18.7	6.2	18.7	—	1000 (32)
	不明	(4)	(2)	(3)	—	(2)	—	(11)

4 働く婦人の家事と仕事

今まで断片的にみてきたことから云つても家事労働がいかに働く女性にとって大きな負担になっているかは疑いの余地がないのであるが、本項に於いてはその点についてより詳細な分析をしたい。

通常家事からの解放が云われる場合二種類のことが考えられている。一つは共同炊事場、洗濯場、保育所等公共施設の設置整備によつて婦人が家事そのものから解放されること、もう一つは家事そのものから解放されるということはとてもできそうにもないから、せめて現在の家事を家庭内で合理化し(生活改善運動)さらにすすんでは家事も一つの立派な職業であるという意識をもち或いはもたせることである。前者の場合と後者の場合とでは家事に対する考え方が少からず異なる。即ち前者では家事は全く非生産的であり、むしろ婦人の解放によつて防害となると考えるのに対し、後者では家事も考え方によつては生産的なものとなり得るという解釋になつている。

ところで調査の結果家事はまだ仕事に対立するものとして考えられており、家事のために仕事がおろそかになると答えているものは有配偶の女子で23.3%で家事も仕事も両方おろそかになるの6.8%を加えると計30.1%にも達する(才64表)。これを学歴別でみると学歴の低い層に仕事がおろそかになるというものが多くなつている(才65表)

「両方ともうまくやれる」といつているものは有配偶の男子(夫)に多く、全国40.3%であり(才64表)、また学歴別では高小卒のものに40.8%、生活程度では中下のものに38.5%みうけられ、また年令の高くなるにつれて増えている(才65、66、67表)。もつともこの場合現在家事と仕事の両方うまくやつてゆけるのか、又は家事と仕事とは本来両方うまくやつて行けるものだと考えているのかは明瞭でない。

「家事がおろそかになる」というものは未婚(49.2%)ならびに離死別(43.4%)の婦人に多くみられるが、これは家事が有配偶婦人の場合とおなじく、仕事に対して重い負担になつていることを意味するの以外ならない(才64表)。

家事と仕事のどちらに重点をおいてやつてゆきたいかということについては、夫では家事に重点をおかせたいというものが多く39.6%で、仕事に重点をおかせたいというものは34.7%にとどまるが、女子ではそれが27.8%45.8%(特に未婚の場合は16.7%、67.8%と云うように男子とは逆に仕事に重点をおきたいというものが多くなつている。この男女間の意見の相違は、市部においてはより強いものとなつて表われている(才69表)。

年令別にみると全国的に年令の高くなるに従つて仕事に重点をおきたいと云うものが少くなり家事に重点をおきたいというものが増加する(市部の50才代では家事に重点37.4%、仕事に重点29.2%である)。又両方重点をおきたいと云つているのは市部では年令の高いものに、郡部では年令の低いものに多くなつている(才72表)。学歴別では市部、郡部を通じて高小卒以下のものに両方同じように重点をおきたいと考えるものが多く(市部25.5%、郡部26.9%)、市部の中卒以上の約半数は仕事に重点をおきたいと思つている(才73表)。生

生活程度別では生活程度上と下のものに仕事に重点をおきたいという割合が多く47～50%に達し、又市部では生活程度が低くなるに比例して両方全じように重点をおきたいというものが増加する(才74表)。

〔質問〕「勤務、自営、日傭、内職、家族従業のものに」あなたは(奥さんは)台所仕事や洗濯などの家事をやっておられるのですか。

才62表 家事従事の程度(就業している女子、並びに夫)

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
家事の責任者である	70.6%	71.3%	72.6%	72.1%
家事もやっている	22.9	21.4	24.4	23.7
家事をしない	6.5	7.1	2.0	3.4
不明	0.9	—	0.8	0.7
計	1000%(218)	1000%(363)	1000%(1358)	1000%(1939)

〔質問〕「家事の責任者である。家事もやっていると云うものに(男子対象者の場合は妻がそうである者に)」家事と仕事と両方うまくやつて行けますか、それとも、どちらかが多少ともオロソカになりますか。…どちらかがオロソカになりますか。

才63表 家事と仕事の関連

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
両方うまくやれる	33.3%	39.7%	35.5%	36.0%
仕事がおロソカになる	17.6	9.4	26.7	21.9
家事がおロソカ	42.1	43.9	31.4	34.8
両方オロソカ	2.9	6.2	5.9	5.6
その他	0.9	0.2	0.4	0.4
不明	2.9	0.2	0.9	1.0
計	1000%(294)	1000%(337)	1000%(1318)	1000%(1859)

才64表 家事と仕事の関連(男女別、未婚別)

	家事と仕事両方 うまくやれる	仕事がおろ そかになる	家事がおろ そかになる	両方ともおろ そかになる	その他	不明	計
六大都市							
男(有配偶)	33.3%	21.4%	40.4%	4.7%	—	—	1000%(84)
女(全体)	33.3	15.0	43.3	10.6	1.6	5.0	1000(120)
(未婚)	30.7	—	61.4	—	7.6	—	1000(28)
(離死別)	(3)	(1)	(4)	—	—	(1)	(18)
(有配偶)	34.1	21.0	36.8	2.6	—	5.2	1000(76)
その他の都市							
男(有配偶)	47.7%	11.1%	35.0%	5.9%	—	—	1000%(134)
女(全体)	34.4	8.3	49.7	6.3	0.4	0.4	1000(263)
(未婚)	44.1	2.9	47.0	2.9	2.9	—	1000(34)
(離死別)	28.5	12.8	59.9	8.5	—	—	1000(35)
(有配偶)	33.5	11.1	47.7	6.7	—	0.7	1000(134)
郡部							
男(有配偶)	39.5%	27.2%	27.6%	4.3%	0.7%	0.7%	1000(556)
女(全体)	32.5	24.6	34.1	7.0	0.2	1.3	1000(762)
(未婚)	33.3	12.8	46.0	5.1	—	2.5	1000(78)
(離死別)	30.4	23.9	36.9	6.5	—	2.1	1000(92)
(有配偶)	32.7	26.3	32.0	7.4	0.3	1.0	1000(592)
全国							
男(有配偶)	40.3%	23.9%	30.3%	4.6%	0.5%	0.2%	1000(774)
女(全体)	33.0	20.4	38.0	6.3	0.4	1.5	1000(1085)
(未婚)	36.2	7.2	49.2	3.6	2.1	1.4	1000(138)
(離死別)	30.3	17.2	43.4	6.2	—	2.7	1000(145)
(有配偶)	32.9	23.3	35.2	6.8	0.2	1.3	1000(802)

才65表 家事と仕事の関連(学歴別)

	両方うまくやれる	仕事がおろソカになる	家事がおろソカになる	両方おろソカになる	その他	不明	計
六大都市							
小卒	24.0%	16.0%	52.0%	—	—	8.0%	1000%(50)
高小卒	38.8	19.4	36.1	5.5	—	—	1000(72)
中卒	31.4	19.9	42.8	2.8	2.8	—	1000(70)
専大卒	(6)	—	(4)	—	—	(2)	(12)
その他の都市							
小卒	36.9%	6.8%	45.2%	8.2%	1.3%	1.3%	1000%(73)
高小卒	43.9	10.7	41.3	3.8	—	—	1000(157)
中卒	37.8	9.1	45.8	6.8	—	—	1000(87)
専大卒	25.0	10.0	50.0	15.0	—	—	1000(20)
都部							
小卒	30.0%	33.3%	29.1%	8.1%	0.5%	1.4%	1000%(426)
高小卒	40.3	22.6	30.2	5.3	0.5	0.8	1000(708)
中卒	29.2	19.5	42.7	7.3	1.2	—	1000(164)
専大卒	30.0	30.0	30.0	10.0	1	—	1000(20)
全国							
小卒	30.4%	28.2%	33.3%	5.8%	0.1%	2.0%	1000%(549)
高小卒	40.8	20.3	32.5	5.1	0.4	0.6	1000(537)
中卒	32.0	16.8	43.6	6.2	1.2	—	1000(321)
専大卒	32.8	15.3	38.4	9.6	—	3.8	1000(52)

才66表 生活程度別(全国)

	家事と仕事両方うまくやれる	仕事がおろソカになる	家事がおろソカになる	両方おろソカになる	その他	不明	計
生活程度上	37.0%	25.1%	32.2%	3.9%	—	1.5%	1000%(127)
中上	36.9	21.1	35.4	5.5	—	0.8	1000(826)
中下	38.5	22.6	31.6	4.9	1.0	1.1	1000(685)
下	24.4	20.8	42.8	9.6	0.9	0.9	1000(221)

才67表 家事と仕事の関連(年齢別)

	両方うまくやれる	仕事がおろソカ	家事がおろソカ	両方おろソカ	その他	不明	計
20~29才	33.7%	20.8%	36.2%	6.6%	1.1%	1.3%	1000%(436)
~39	35.2	17.7	40.6	6.0	0.3	—	1000(598)
~49	37.1	23.7	33.1	4.4	—	1.4	1000(476)
~59	38.6	28.0	25.5	5.4	0.5	1.7	1000(349)

〔質問〕〔家事の責任者である、家事もやっている、のものに〕家事と仕事とどちらに重点をおいてやつて行きたい(やらせたい)と思いますか……どちらかと言えばどちらですか。

才68表 家事と仕事のどちらに重点をおくか

	六大都市	その他の都市	都部	全国
家事に重点	29.4%	32.9%	33.2%	32.7%
仕事に重点	40.1	47.7	39.7	41.2
両方同じように	27.4	18.9	26.4	24.7
その他	0.9	0.2	—	0.7
不明	1.9	2.0	0.6	1.0

才69表 家事と仕事のどちらに重点をおくか(男女別、未婚婚別)

		家事に重点	仕事に重点	両方全に様	その他	不明	計
市	男(有配偶)	40.8%	32.5%	24.3%	1.3%	0.9%	1000%(218)
	女(全体)	25.3	53.2	18.5	—	2.7	1000 (323)
	(未婚)	11.8	79.6	8.4	—	—	1000 (59)
	(死離別)	9.2	66.6	18.5	—	5.5	1000 (54)
	(有配偶)	33.3	42.3	21.4	—	2.8	1000 (210)
郡	男(有配偶)	39.1%	35.6%	24.8%	—%	0.3%	1000%(556)
	女(全体)	28.8	42.7	27.5	—	0.7	1000 (762)
	(未婚)	20.4	58.9	20.4	—	—	1000 (78)
	(死離別)	15.2	54.3	28.2	—	2.1	1000 (92)
	(有配偶)	32.0	38.8	28.4	—	0.6	1000 (502)
全 国	男(有配偶)	38.6%	34.7%	24.6%	0.3%	0.5%	1000%(774)
	女(全体)	27.8	45.8	24.8	—	1.3	1000 (1085)
	(未婚)	16.7	67.8	15.3	—	—	1000 (137)
	(死離別)	13.0	58.9	24.6	—	3.4	1000 (146)
	(有配偶)	32.4	39.7	26.5	—	1.2	1000 (802)

才70表 家事と仕事のどちらに重点をおくか

		両方うま くやれる	仕事がおろ ソカになる	家事がおろ ソカになる	両方おろ ソカになる	その他	不明	計
市	家事に重点	40.3%	22.2%	32.7%	4.0%	0.5%	—	1000%(171)
	仕事に重点	28.3	4.1	61.3	5.3	0.8	—	1000 (243)
	両方全にように	52.2	17.6	23.0	5.3	—	1.7	1000 (113)
	その他	(1)	—	(2)	—	—	—	(3)
	不明	(4)	—	(1)	(1)	—	(5)	(11)
郡	家事に重点	30.4%	41.3%	21.8%	4.9%	0.9%	0.4%	1000%(438)
	仕事に重点	32.4	18.7	43.5	4.9	—	0.3	1000 (524)
	両方全にように	47.7	17.2	25.8	8.6	0.5	—	1000 (348)
	その他	—	—	—	—	—	—	(0)
	不明	—	—	—	—	—	(8)	(8)
全 国	家事に重点	33.2%	35.9%	24.9%	4.7%	0.8%	0.3%	1000%(609)
	仕事に重点	31.1	14.0	49.1	5.0	0.2	0.2	1000 (767)
	両方全にように	48.8	17.3	25.1	7.8	0.4	0.4	1000 (461)
	その他	(1)	—	(2)	—	—	—	(3)
	不明	(4)	—	(1)	(1)	—	(13)	(19)

才71表 家事と仕事のどちらに重点をおくか

		家事に重点	仕事に重点	両方全じように	その他	不 明	計
市 部	家事と仕事と両方うまくやれる	34.1%	34.1%	29.2%	0.4%	1.9%	100.0%(202)
	仕事がおろそか	55.8	14.7	29.4	—	—	100.0 (68)
	家事がおろそか	23.9	63.6	11.1	0.8	0.4	100.0 (234)
	両方おろそか	23.9	48.1	22.2	—	3.7	100.0 (27)
	その他	(1)	(2)	—	—	—	(3)
不 明		—	—	(2)	—	(5)	(7)
郡 部	両方うまくやれる	28.5%	36.1%	35.3%	—	—	100.0%(468)
	仕事がおろそか	53.5	28.8	17.6	—	—	100.0 (340)
	家事がおろそか	23.0	55.0	21.7	—	—	100.0 (414)
	両方おろそか	28.2	33.3	38.4	—	—	100.0 (78)
	その他	(4)	—	(2)	—	—	(6)
不 明		(2)	(2)	—	—	(8)	(12)
全 国	両方うまくやれる	30.2%	35.5%	33.4%	0.1%	0.5%	100.0%(570)
	仕事がおろそか	53.8	26.5	19.6	—	—	100.0 (408)
	家事がおろそか	23.4	58.1	17.9	0.3	0.1	100.0 (648)
	両方おろそか	27.6	37.1	34.2	—	0.9	100.0 (105)
	その他	(5)	(2)	(2)	—	—	(9)
不 明		(2)	(2)	(2)	—	(13)	(19)

才72表 家事と仕事のどちらに重点をおくか(年令別)

		家事に重点	仕事に重点	両 方	その他	不 明	計
市 部	20~29才	33.8%	52.3%	13.0%	—	0.7%	100.0%(130)
	~39	27.0	51.1	20.5	0.5	0.5	100.0 (170)
	~49	30.9	41.5	21.1	1.4	4.9	100.0 (142)
	~59	37.4	29.2	31.3	—	2.0	100.0 (99)
郡 部	20~29才	22.8%	47.7%	28.7%	—	0.8%	100.0%(308)
	~39	31.7	38.7	29.4	—	—	100.0 (428)
	~49	39.4	36.5	23.3	—	0.5	100.0 (334)
	~59	40.0	36.0	22.4	—	1.6	100.0 (250)
全 国	20~29才	26.1%	49.0%	24.0%	—	0.6%	100.0%(436)
	~39	30.4	42.3	26.9	0.1	0.1	100.0 (598)
	~49	36.9	38.0	22.6	0.4	1.8	100.0 (476)
	~59	39.2	34.0	24.9	—	1.7	100.0 (349)

才73表 家事と仕事のどちらに重点をおくか(学歴別)

	家事に重点	仕事に重点	両方全じように	その他	不明	計
市						
部						
高小卒以下	28.9%	42.6%	25.5%	0.5%	2.2%	1000%(352)
中卒以上	36.5	49.2	12.1	0.5	1.5	1000 (189)
郡						
部						
高小卒以下	32.8%	39.6%	25.9%	—	0.7%	1000%(1134)
中卒以上	36.9	40.2	22.8	—	—	1000 (184)
全						
国						
高小卒以下	31.7%	40.3%	25.6%	0.1%	1.0%	1000%(1486)
中卒以上	36.7	44.7	17.4	0.2	0.8	1000 (373)

才74表 生活程度別

	家事に重点	仕事に重点	両方全じように重点	その他	不明	計
市						
部						
上	25.7%	57.1%	14.2%	—	2.8%	1000%(35)
中上	32.4	47.0	17.4	1.2	1.6	1000 (240)
中下	32.9	40.1	23.8	—	3.0	1000 (197)
下	27.5	44.9	27.5	—	—	1000 (69)
郡						
部						
上	30.4	47.8	19.5	—	2.1	1000 (92)
中上	34.4	37.2	27.6	—	0.6	1000 (586)
中下	32.6	38.5	27.4	—	0.4	1000 (488)
下	28.9	48.6	22.3	—	—	1000 (152)
全						
国						
上	29.1	50.3	18.1	—	2.3	1000 (127)
中上	33.8	40.0	24.6	0.3	0.9	1000 (826)
中下	33.4	38.9	26.4	—	1.1	1000 (688)
下	28.5	47.5	23.9	—	—	1000 (221)

5. 無職の女子(妻)の就業についての意見。

今まで働く婦人の問題について考察を進めてきたのであるが、現在職業についていない所謂家庭婦人といわれる人たちは、職業につくことをどのように考えているか、又、妻が無職である有配偶の男子はそれについてどのようにみているか、をみることにする。

現在職業についていない婦人のうち、何か収入をもたらす仕事をしてよいと考えている者は、その約半数の52.2%で、仕事をもたらせたいという有配偶の男(夫)の34.3%より1.8%上廻っている。(第76表)

しかし職業に対する心構えはまだ消極的で仕事をする気があるという婦人の71.9%は、生活に余裕があれば、婦人は家庭にいた方がよいと考えており(第77表)また4.3%は婦人の職業は、腰かけでもよいといっている。(第78表)

六大都市における現在仕事を持っていない未婚女性のうち仕事をする気があるものは38.4%で、郡部に行くに従つてこの数字は増えてくるが、これは結婚、職場への期待、生活問題、家事担当者としての責任など色々な要素と絡み合せて考えられなければならないが、郡部の方が市部よりも就職の機会について楽観的であるということもあるであろう。(第126、134表参照)。

一般に現在職業についていない女子は仕事をする気のあるものの方が仕事をする気のないものよりも多くなっているが、有配偶の男(夫)の場合はその関係が逆で特に、その他の都市では57.6%もの夫が仕事を妻にもたせる気はないと答えている(第76表)。また女子の場合家事の責任を負っているものとそうでないものとは、家事担当者の方が生活苦を身近に感じるせいか仕事をする気のあるものが多くなっている(第79表)。

年齢別では全国的に若いほど仕事をする(させる)気があり、反対に仕事をする(させる)気はないというものが少くなっている。又、郡部では30~40才台に場合によつて仕事をする(させる)気があるというものが多くなっている(第80表)。

学歴別では市部、郡部とも高小卒のものに仕事をする(させる)気のあるものも多く専大卒にその気のないものが過半数(55.6%)みられる。郡部では学歴の高くなるにつれて場合によつては仕事をする(させる)気があるというものが多くなる(第81表)。

生活程度別ではさすがに市部では生活程度上の28.1%から下の5.4%にいたるまで、郡部では上23.5%から下65.9%まで漸次的に仕事をする(させる)気のあるものの比率が上昇カーブを描き、又郡部では学歴別にみた場合と同じく生活程度上のものは「場合によつてはある」という答が多くなってくる(第82表)。

これらは仕事をするしないということが経済的独立という意識よりむしろ一家の経済状態に關連させられるということをよく示している。

次に仕事をする気のある婦人の職業観については先ほど一寸ふれたが、一般に「仕事をする(させる)気のないもの」は、男女に拘りなくその60%前後が婦人の職業は腰かけでもよいといっているが、仕事をさせる気のある夫でもその54.5%が、腰かけでもよいといひ女子の43%を10%以上も上廻っていることは、やはり仕事をさせる気はあるといつても夫の方が女子よりも就職に対して消極的であることを如実に示している。(第78表)。仕事をする(させる)気があるといつても「家庭外で働くのは困る」というものが総じて多く有配偶の男では70%を超え、女子の場合でも妻は、やはり70%前後であり外で働いてもよいという妻は20%にみえない。たと未婚の女子ではさすがに外で働いてもかまわないという者が多く市部で78.9%郡部で54.5%に達している(第84表)。

女子が就業しようとする場合、世帯のなかに手のやける子供がいる場合といない場合(自分の子供とは限らない)、家事を担当している場合と担当しない場合とではそれぞれ考えが異つてくるが、現在無職の女子は子供がいる場合、或は家事を担当している場合に、「外で働くのは困る」という率がおしなべて高くなつてゐる(第85、86表)。「外で働くのは困る」というのは年令では35-49才(35-39才は78.7%、40-49才は74.2%)学歴では高小卒(73.9%)、生活程度別では中下(74.7%)に多い。逆に外で働いても解わないというものは20-24才(50.6%)、小卒と専大卒(25.9%、27.6%)市部では生活程度中上のもの(28.2%)、郡部では上と下(28.5%、32.3%)に少からず見受けられる(第87-89表)。

〔註〕B1この(5)の調査は職業生活をしていない女子と「妻が無職である家庭の夫」の両者よりみた無職の女性の姿である。対象者は全く無作為に抽出されているから得られた結果を単純に集計すれば目的のデータが得られる。

〔質問〕「職業のないものに何か仕事をしよう(もたせたい)という気はありませんか。」

オ75表 無職の女子と職業意識

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国
仕事をする(もたせる)気がある	42.0%	44.8%	45.8%	44.4%
場合によつてはある(もたせる)	12.4	10.7	12.3	11.8
仕事をする(もたせる)気はない	42.0	44.5	39.5	42.7
不 明	3.4	0.2	2.2	1.9
計	1000 (352)	1000 (419)	1000 (536)	1000 (1307)

オ76表 無職の女子と職業意識 (地域別、男女別)

		仕事をする気がある		仕事をする場合によつてはある		仕事をする気なし		不明	計
六 大 都 市	男(有配偶)	—	37.5%	9.7%	—	52.7	—	—	100.0%(144)
	女(全 体)	45.2%	—	14.4	34.6%	—	5.7%	—	100.0.(208)
	・(未 婚)	38.4	—	—	46.1	—	15.3	—	100.0.(26)
	・(離死別)	50.0	—	—	50.0	—	—	—	100.0.(16)
	・(有配偶)	45.7	—	18.0	31.3	—	4.8	—	100.0 (166)
そ の 他 の 都 市	男(有配偶)	—	31.2	10.9	—	57.6	—	—	100.0 (191)
	女(全 体)	55.6	—	10.5	33.3	—	0.4	—	100.0.(228)
	・(未 婚)	43.8	—	12.4	37.4	—	0.6	—	100.0 (16)
	・(離死別)	66.6	—	8.3	24.9	—	—	—	100.0.(24)
	・(有配偶)	55.3	—	10.6	34.0	—	—	—	100.0 (188)
郡	男(有配偶)	—	34.7	13.5	—	49.1	2.6	—	100.0 (236)
	女(全 体)	54.6	—	11.3	31.9	—	1.9	—	100.0 (300)
	・(未婚)	66.6	—	8.6	26.6	—	—	—	100.0 (30)
	・(離死別)	55.5	—	—	44.4	—	—	—	100.0 (18)
	・(有配偶)	53.1	—	12.6	31.7	—	2.3	—	100.0 (252)
全 国	男(有配偶)	—	34.8%	11.7	—	52.8	1.0	—	100.0 (571)
	女(全 体)	52.2	—	11.9	33.1	—	2.5	—	100.0 (736)
	・(未 婚)	52.0	—	4.2	36.6	—	7.0	—	100.0 (71)
	・(離死別)	58.6	—	3.4	37.9	—	—	—	100.0 (58)
	・(有配偶)	51.7	—	13.6	32.2	—	2.3	—	100.0 (607)

第77表 無職の女子と職業意識 (全国)

	仕事をする 気がある	場合によつては ある	仕事をする 気はない	不明	計
有配偶の男	64.7%	13.7%	20.4%	1.0%	100.0%(196)
女	71.9	11.6	15.5	0.7	100.0 (385)
有配偶の男	68.6	13.4	17.9	-	100.0 (67)
女	61.3	27.2	11.3	-	100.0 (88)
有配偶の男	70.7	12.2	14.2	2.6	100.0 (302)
女	72.1	9.4	15.9	2.4	100.0 (244)
有配偶の男	(2)	-	(2)	(2)	(6)
女	78.9	10.5	-	10.5	100.0 (19)

第78表 無職の女子と職業意識 (全国)

	一で 時よ 的い	一 時 い
--	----------------	--

第79表 無職の女子と職業意識 家事担当別)

	仕事をする 気がある	場合によつては ある	仕事をする 気はない	不明	計
市	50.9%	13.6%	33.2%	2.1%	100.0%(373)
部	49.2	4.7	38.0	7.9	100.0 (63)
郡	55.4	11.7	31.2	1.5	100.0 (266)
部	50.0	9.0	36.3	4.5	100.0 (44)
全	52.7	12.8	32.4	1.9	100.0 (629)
国	40.5	6.5	37.4	6.5	100.0 (107)

第80表 無職の女子と職業意識 (年令別)

	仕事をする 気がある	場合によつては ある	仕事をする 気はない	不明	計
市	47.0%	14.2%	36.2%	2.4%	100.0%(204)
部	48.6	9.6	39.3	2.3	100.0 (259)
郡	35.9	16.9	47.0	-	100.0 (153)
部	37.4	5.8	55.4	1.2	100.0 (155)
全	52.9	7.8	39.2	-	100.0 (102)
国	48.4	15.9	34.7	1.0	100.0 (190)
郡	47.6	14.4	34.7	2.8	100.0 (138)
部	32.0	7.5	54.7	5.6	100.0 (106)
全	49.0	12.0	37.2	1.6	100.0 (306)
国	41.5	12.2	37.4	1.7	100.0 (249)
郡	41.5	15.8	41.2	1.3	100.0 (291)
部	35.2	6.5	55.1	3.0	100.0 (261)

第81表 無職の女子と職業意識 (学歴別)

	仕事をする 気がある	場合によつては ある	仕事をする 気はない	不明	計
小卒	41.1%	12.3%	45.2%	1.3%	100.0%(146)
高小卒	46.0	10.8	42.3	0.7	100.0 (276)
中卒	43.1	12.7	41.0	3.1	100.0 (283)
専大卒	39.3	7.5	53.0	-	100.0 (66)
小卒	42.0	10.1	46.3	1.4	100.0 (138)
高小卒	53.8	9.9	34.6	1.5	100.0 (260)
中卒	44.9	14.2	34.6	6.1	100.0 (98)
専大卒	10.0	30.0	60.0	-	100.0 (40)
小卒	41.5	11.2	45.7	1.4	100.0 (284)
高小卒	49.3	10.4	38.6	1.1	100.0 (536)
中卒	43.5	13.1	39.3	3.9	100.0 (381)
専大卒	28.3	16.0	55.6	-	100.0 (106)

第32表 無職の女子と職業意識（生活程度別）

		仕事をする （させる） 気あり	場合によつ てはある	仕事をする （させる） 気はない	不 明	計
市 部	上	28.1%	4.2%	67.6%	-	100.0% (71)
	中上	40.1	10.5	47.0	2.2%	100.0 (406)
	中下	51.0	15.0	33.0	0.8	100.0 (233)
	下	54.0	13.1	29.5	3.2	100.0 (61)
郡 部	上	23.5	17.6	58.8	-	100.0 (34)
	中上	36.0	12.3	48.4	3.0	100.0 (194)
	中下	50.0	11.8	35.4	2.7	100.0 (220)
	下	65.9	11.3	22.7	-	100.0 (88)
全 国	上	26.6	8.5	64.7	-	100.0 (105)
	中上	38.8	11.1	47.5	2.5	100.0 (600)
	中下	50.5	13.4	34.2	1.7	100.0 (453)
	下	61.0	12.0	25.5	1.3	100.0 (149)

【質問】 【仕事をする（もたせる）気がある。場合によつてはある、のものに】 家の中で働ける仕事が欲しいですか、外で働いてもかまいませんか。

第33表 無職の女子が就業する場合の希望

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国
外で働しのは困る	69.9%	68.1%	67.9%	68.2%
外で働いてもかまわない	23.7	20.2	21.1	21.5
場合による	6.1	11.2	10.8	9.7
不 明	1.0	0.4	-	0.4
計	1000 (192)	1000 (232)	1000 (312)	1000 (736)

第34表 無職の女子が就業する場合の希望（男女未既婚別）

		外で働くの は困る	外で働いても 構わない	場合による	不 明	計
市 部	男（有配偶）	74.5%	15.4%	9.3%	0.6%	100.0% (140)
	女（全 体）	65.8	25.4	8.7	-	100.0 (275)
	〃（未 婚）	15.7	78.9	5.2	-	100.0 (18)
	〃（離死別）	53.8	38.4	7.6	-	100.0 (26)
郡 部	〃（有配偶）	71.2	19.5	9.1	-	100.0 (230)
	男（有配偶）	70.1	17.5	12.2	-	100.0 (114)
	女（全 体）	66.5	23.2	10.1	-	100.0 (198)
	〃（未 婚）	45.4	54.5	-	-	100.0 (22)
全 国	〃（離死別）	80.0	20.0	-	-	100.0 (10)
	〃（有配偶）	68.6	19.2	12.0	-	100.0 (166)
	男（有配偶）	72.6	16.3	10.6	0.3	100.0 (202)
	女（全 体）	66.6	24.5	9.3	-	100.0 (473)
国	〃（未 婚）	30.0	67.5	2.5	-	100.0 (46)
	〃（離死別）	61.1	33.3	5.5	-	100.0 (36)
	〃（有配偶）	70.2	19.4	10.3	-	100.0 (396)

第35表 無職の女子が就業する場合の希望（世帯内に子供がいる場合）（全国）

	外で働くの は困る	外で働いても よい	場合による	不 明	計
子供なし	64.7%	29.4%	5.7%	-	100.0% (156)
あり	69.4	19.4	10.8	0.1%	100.0 (580)

第36表 無職の女子が就業する場合の希望（家事担当者）

市 部	女（家事担当者）	72.2%	19.0%	8.7%	-	100.0% (241)
	〃（それ以外）	20.6	70.5	8.8	-	100.0 (34)
郡 部	女（家事担当者）	70.9	18.6	10.4	-	100.0 (172)
	〃（それ以外）	38.4	53.8	7.6	-	100.0 (26)
全 国	女（家事担当者）	71.6	18.8	9.4	-	100.0 (413)
	〃（それ以外）	28.3	63.3	8.3	-	100.0 (60)

第87表 無職の女子が就業する場合の希望 (年齢別)

		外で働くのは困る	外で働いてもよい	場合による	不明	計
市部	20~29	50.3%	40.8%	8.0%	0.8%	100.0%(125)
	~39	78.1	11.2	10.5	-	100.0 (151)
	~49	76.5	14.8	8.6	-	100.0 (81)
	~59	73.1	19.4	7.4	-	100.0 (67)
郡部	20~29	61.2	32.3	6.4	-	100.0 (62)
	~39	70.4	11.4	18.0	-	100.0 (122)
	~49	72.0	20.9	6.9	-	100.0 (86)
	~59	61.9	33.3	4.7	-	100.0 (42)
全国	20~24	42.4	50.6	5.4	1.3	100.0 (73)
	~29	61.4	29.8	8.7	-	100.0 (114)
	~34	71.2	14.3	14.3	-	100.0 (148)
	~39	78.7	7.8	13.3	-	100.0 (127)
	~49	74.2	17.9	7.7	-	100.0 (167)
	~59	68.8	24.7	6.4	-	100.0 (109)

第88表 無職の女子が就業する場合の希望 (学歴別)

小卒		61.3%	25.9%	11.9%	0.6%
	市部	64.1	21.7	12.8	1.2
	郡部	58.3	30.5	11.1	-
高小卒		73.9	17.0	8.9	-
中卒卒		66.1	24.1	9.7	-
専大卒		63.8	27.6	8.5	-

第89表 無職の女子が就業する場合の希望 (生活程度別)

		外で働くのは困る	外で働いてもかまわない	場合による	不明	計
市部	上	69.6%	21.7%	8.6%	-	100.0%(23)
	中上	65.5	26.2	8.2	-	100.0 (206)
	中下	75.3	16.8	7.1	0.6%	100.0 (154)
郡部	下	80.9	19.5	19.5	-	100.0 (41)
	上	57.1	28.5	14.2	-	100.0 (14)
	中上	65.9	17.0	17.0	-	100.0 (94)
全国	中下	73.5	17.6	8.8	-	100.0 (136)
	下	61.7	32.3	5.8	-	100.0 (68)
	上	64.8	24.3	10.8	-	100.0 (37)
全	中上	65.4	23.2	10.9	0.3	100.0 (301)
	中下	74.7	17.3	7.9	-	100.0 (289)
	下	61.4	27.5	11.0	-	100.0 (109)

6. 職業に対する意識

一般に女子が職業につくことを、女子自身どのように考え、また男子はどのようにみているであろうか。

従来、婦人は結婚して家庭人となるべきだという考え方が支配的であり、そして実際に婦人の多くは家庭人であつた。従つて婦人の仕事といへば殆んどが家事と家族従業であり、婦人は家にたよつていけばよいとされた。

そのため、現在、婦人の自発的な職業活動、就業意欲、社会的進出への努力が低調であり、男子の理解も乏しいという結果をもたらしたと思われる。このことは例えば六大都市の未婚婦人ですら生活に余裕があれば婦人は家庭にいた方がよいというものが51.6%(第94表)。婦人の職業は臨時的・一時的でよいとするものが48.3%(第104表)もいることによつてもうかがわれる。

ではどのような層のものがどのような意味で婦人が職業につくことの可否を判断しているの

であろうか。

まず生活に余裕があれば婦人は家庭にいた方がよいか、それとも積極的に職業をもつ方がよいという点については、一般に家庭にいた方がよいと考えているものが多く、男女合せて全国では67.6%を示している(第93表)。これは特に市部の有配偶の男に高率になつており(六大都市73.9%,その他の都市75.8%)。郡部では一般に市部よりも職をもてという声が高く、20.4%を占め、有配偶の男でも22.5%に達する。(おそらく「余裕」という言葉の受取り方が市部と郡部とでは異つてゐるからだろう。)

女子のなかでは家事担当者の方がそれ以外の婦人よりも家にいた方がよいと考えている率が高い(第95表)。

男女を含めた年齢別では中年層のものに家庭にいた方がよいというものが多く(六大都市40~49才、72.8%,その他の都市35~39才、81.3%,郡部30~34才、69.1%)。青年層に積極的に職業をもつ方がよいと考えるものが比較的多い(六大都市20~24才、16.8%,25~29才、18.3%,その他の都市20~24才、16.5%,郡部20~24才、27.5%)、(第96表)。

学歴別では、一般に小卒(19.3%),中卒(20.1%)に「職をもて」というものが多くなつてゐるが、これは郡部における小卒(24.2%),中卒(28.7%)の比率が特に高くなつてゐるからであり、市部では大体学歴の高いものに職をもてというものが多くなつてゐる(第97表)。

生活程度別では市部、郡部、生活程度上下の別なく、家庭にいた方がよいが60%をとるが、六大都市では生活程度がよくなるにつれて「職をもて」が増加し、その他の都市と郡部では逆に「家庭にいた方がよい」がふえている(第98表)。

次ぎに婦人が職業についた場合には、一時的なものか、それとも男子と同じように、生涯をかけての仕事だという意識をもつべきであるかという点についてみる。

一般に婦人の職業はまだ家計補助的なもの(第90,91表)、一時的なもの(第100,101表)と考えられており、従つて婦人の職業は腰かけでもよいというもの(49.6%)が多く(第103表)、その率は男子では、市部が60%前後、郡部が49.1%であり、女子では六大都市52%,その他の都市50.2%,郡部41.7%でそれぞれ男子の方が女子よりも、市部の方が郡部よりも多くなつてゐる(なお六大都市の有配偶の男(63.4%)に一番多く、郡部の無配偶の既婚婦人(35.7%)に一番少くなつてゐる。女子のなかでも市部では有配偶に、郡部では未婚に、腰かけでもよいという意見が多い)(第104表)。

一時的ではよくない、一生勤けというものは全国には男女ともほぼ同率であるが(男22.7%,女23%),市部では、未婚婦人(六大都市35.4%,その他の都市36.9%)に、郡部では既婚男子(有配偶25.4%,離死別35.6%)に特徴的であり、郡部では一般に男子の方が女子よりも(女子のなかでは既婚者の方が一時的な考えではよくないという率が高い(第104表))。

家事担当の程度別では、家事担当者である女子は、それ以外の女子よりも腰かけでよいという気持が強い(第105表)。

男女を含め、学歴別では、六大都市の専大卒(73.1%),その他の都市の高小卒(59.3%),郡部の中卒(52.2%)に一時的でよいとする傾向が強く、六大都市の中卒(34.4%)その他の都市の専大卒(27.1%),郡部の専大卒(32.4%)に一時的な考えではよくないとする者が多い。学歴の高いものに就して「やむを得ない」「場合による」式の答えが多いこと、とくに六大都市で一時的でよいという考えが増加することは、学歴の高い層に、職場の環境、条件が婦人にとって不利であることを認めるものが多いからであろうか(第106表)。

年齢別では市部、郡部とも年齢の高い層に一時的でよいというものが多く(50才代、市部62.9%,郡部49.6%)。一時的ではよくないとするものは、市部では青年層(20才代、25.5%,30才代23.8%)に、郡部では中年層(30才代22.9%,40才代27.9%)に多くみられ、また郡部の30才代では一概にいえないとする率もめだつてゐる(19.8%)(第108表)。

生活程度別では、学歴別の場合と同じように、一般に生活程度の高いものは一時的でもよいというものが増加し、特に六大都市にその率が高く(上75%,中58.2%)になつてゐる(なお生活程度上のものに「やむを得ない」式の答えが多くみられるのも同様である)。また生活程度の中下、下の層に「不明」のものがかなりの率をしめてゐる(中下13.8%,下23%)(第107表)。

ところで、「一時的ではよくない」とはいつても、「生活に余裕があつた場合には家にいた方がよい」と考えてゐるものが、全国で半数強の75.5%に達し、他方「積極的に職業をもて」というものは29.3%,実数にして161名でこれは全対象者中4.4%である。(「短くなるのもやむを得ない」の29.9%を加算しても実数246名で6.7%にすぎない。)(第110表)。

即ち「家にいた方がよいかどうか」と「一時的でよいかどうか」とを組合せて

■ 「生活に余裕があれば家にいた方がよい」+「婦人の職業は一時的でよい、一時的でよい

がなくなるのはやむを得ない」

b 「積極的に職業についた方がよい」+「婦人の職業は一時的でよい。一時的でよいが、なくなるのはやむを得ない」

c 「家にいた方がよい」+「一時的ではよくない。一時的ではよくないが短くなるのもやむを得ない」

d 「積極的に職業についた方がよい」+「一時的ではよくない。短くなるのはやむを得ない」

e1. 「家にいた方がよい」+「一時的でよいかどうか一概にいけない」

2. 「家にいた方がよいかどうか一概にいけない」+「一時的でよいかどうか一概にいけない」

f その他(不明を含む)

の六グループに分けると、どちらかといえば保守的なaが38.1%で一番多く次が一概にいけない式のeで24%、積極的態度と思われる、dが16.7%である(第112表)。この16.7%の分布をみると都市よりは郡部に(第113表)、離婚別の男子と未婚婦人に(第114表)仕事に重点をおきたい(おかせたい)というものに(第116表)、学歴別では中卒に(第118表)、職業別では事務、農林、漁業に(第120表)、又生活程度が低くなるにつれて多少多くなっている(第121表)。要するにdの大半は社会の下層のものに、一部が社会的に上位のものに意見としてもたれていると考えられる。これに対しaは既婚の男女に、仕事も家事も両方おろそかになる、家事に重点をおきたい(おかせたい)というものに、高小卒、専大卒に、日傭、内職、家事のみ(女子)に、商工業、重役業(自由業)に、又生活程度が高くなるにつれて多くなっている。したがって、aは所謂家庭婦人と経営者、雇主層に多く、一部が半失業の状態にあるものに分布しているものと考えられる(第113~121表)。

【質問】 結は終わりますが、一般的にいつて家庭外で職業についている女の人には生活費の足しにしたいという人と何か社会とのつながりを持ちたいという人と、どちらが多いと思いますか。……どちらかといえば、どちらでしょうか。

第90表 女子が職業につく理由

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
家計の足しが多い	82.2%	87.5%	81.6%	83.2%
一概にいけない	3.0	2.9	1.5	2.1
社会とのつながりが多い	9.6	6.5	5.3	6.4
その他	-	0.9	1.1	0.8
不明	5.1	2.0	10.3	7.3
計	1000 (664)	1000 (885)	1000 (2072)	1000 (3621)

第91表 女子が職業につく理由(地域別、男女未婚婚別)

	家計の足しが多い	一概にいけない	社会とのつながりが多い	その他	平均	計
男(全体)	86.3%	2.4%	9.3%	-	1.8%	1000 (322)
女(全体)	80.9	4.7	9.5	-	4.7	1000 (84)
男(未婚)	(6)	-	(2)	-	-	1000 (8)
女(未婚)	88.6%	1.7	8.6	0.8%	-	1000 (230)
男(有配偶)	78.3	3.5	9.9	-	8.1	1000 (342)
女(有配偶)	64.6	12.9	16.1	-	6.4	1000 (62)
男(離婚別)	77.7	-	5.5	-	16.6	1000 (38)
女(離婚別)	81.9	1.6	9.0	-	7.3	1000 (244)
男(全体)	85.9	3.9	7.6	0.9	1.6	1000 (34)
女(全体)	77.5	4.4	13.4	1.1	3.3	1000 (89)
男(未婚)	(13)	(1)	-	-	-	1000 (14)
女(未婚)	87.9	3.6	6.3	0.9	1.2	1000 (331)
男(有配偶)	80.1	1.9	5.5	0.8	2.4	1000 (451)
女(有配偶)	87.6	-	10.7	1.5	-	1000 (65)
男(離婚別)	80.3	3.2	8.8	-	6.5	1000 (61)
女(離婚別)	91.0	2.1	3.6	0.9	2.1	1000 (325)
男(全体)	83.9	1.4	6.0	0.6	7.9	1000 (884)
女(全体)	83.7	-	10.8	-	5.4	1000 (148)
男(未婚)	73.7	-	14.2	-	7.1	1000 (28)
女(未婚)	84.1	1.7	4.9	0.7	8.4	1000 (808)
男(有配偶)	79.5	1.6	4.5	1.6	12.4	1000 (1088)
女(有配偶)	87.0	-	6.4	-	6.4	1000 (124)
男(離婚別)	71.9	-	8.7	-	19.2	1000 (114)
女(離婚別)	79.5	2.1	3.7	2.1	12.4	1000 (850)
男(全体)	84.8	2.2	7.0	0.5	5.2	1000 (1740)
女(全体)	81.3	2.4	11.2	0.3	4.6	1000 (321)
男(未婚)	82.0	2.0	12.0	-	4.0	1000 (50)
女(未婚)	85.8	2.1	5.9	0.6	5.4	1000 (1369)
男(有配偶)	81.6	2.0	5.7	1.1	9.3	1000 (1881)
女(有配偶)	81.2	3.1	10.3	0.3	4.7	1000 (251)
男(離婚別)	75.3	0.9	8.5	-	8.1	1000 (211)
女(離婚別)	82.6	2.0	4.5	1.4	9.2	1000 (1419)

第92表 女子が職業につく理由（学歴別）

	家計の足し が多い	一概にいえ ない	社会とのつ ながりが多い	その他	不 明	計
六大都市						
小 卒	77.7%	-	9.7%	-	12.4%	100.0% (144)
高小卒	67.2	-	7.7	-	4.8	100.0 (206)
中 卒	63.6	5.1%	9.4	-	1.7	100.0 (232)
専大卒	73.1	9.7	14.6	-	2.4	100.0 (82)
その他の都市						
小 卒	87.2	2.5	5.0	0.6%	4.4	100.0 (157)
高小卒	89.0	2.9	5.9	-	1.9	100.0 (367)
中 卒	86.9	3.4	6.8	1.7	1.0	100.0 (291)
専大卒	82.8	1.4	11.4	2.8	1.4	100.0 (70)
郡 部						
小 卒	72.0	0.6	3.7	1.7	21.8	100.0 (586)
高小卒	83.9	2.1	5.9	0.9	7.0	100.0 (1106)
中 卒	90.1	0.6	5.2	1.3	2.6	100.0 (306)
専大卒	89.1	2.7	8.1	-	-	100.0 (74)
全 国						
小 卒	75.6	0.9	4.9	1.2	17.2	100.0 (887)
高小卒	85.4	2.0	6.1	0.5	5.6	100.0 (1679)
中 卒	87.2	2.8	6.9	1.0	1.0	100.0 (829)
専大卒	81.4	4.8	11.5	0.8	1.3	100.0 (226)

〔質問〕 生活に余裕ができたなら、女の人、家庭にいた方がよいと思いますか。それとも積極的に職業をもつた方がよいと思いますか。

第93表 生活に余裕ある場合、女子が職業につくことについて

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国
家庭にいた方がよい	68.3%	74.9%	64.3%	67.6%
一概にいない	19.0	11.0	10.8	12.2
積極的に職業をもつ	11.7	12.9	20.4	17.0
不 明	1.8	1.0	4.3	3.0
計	1000 (664)	1000 (885)	1000 (2072)	1000 (3621)

第94表 生活に余裕ある場合、女子が職業につくことについて

（地域別、男女未既婚別）

	生活に余裕が あれば家庭に いた方がよい	一概にいえ ない	余裕があつ ても職につ いた方がよい	不 明	計
六大都市					
男(全体)	72.6%	17.3%	9.3%	0.8%	100.0% (322)
〃(未婚)	68.0	19.0	11.9	-	- (84)
〃(既婚)	(9)	(2)	-	-	100.0 (8)
女(全体)	73.9	16.5	7.8	0.8	100.0 (230)
〃(未婚)	64.3	18.7	14.0	2.9	100.0 (342)
〃(既婚)	51.6	12.9	29.0	6.4	100.0 (62)
その他の都市					
男(全体)	68.6	11.1	16.6	5.5	100.0 (36)
〃(未婚)	67.2	21.3	9.8	1.6	100.0 (244)
女(全体)	72.5	12.6	13.5	1.1	100.0 (434)
〃(未婚)	60.6	20.2	15.7	3.3	100.0 (89)
〃(既婚)	(20)	(1)	(3)	-	- (14)
郡 部					
男(全体)	75.5	10.8	12.6	0.6	100.0 (331)
女(全体)	77.1	9.5	12.4	0.8	100.0 (451)
〃(未婚)	64.6	15.3	19.9	-	100.0 (65)
〃(既婚)	72.1	13.1	13.1	1.6	100.0 (61)
全 国					
男(全体)	63.1	10.5	22.9	3.2	100.0 (884)
〃(未婚)	59.4	13.5	25.6	1.3	100.0 (148)
〃(既婚)	(14)	(6)	(6)	(2)	- (28)
女(全体)	64.3	9.6	22.6	3.4	100.0 (808)
〃(未婚)	65.4	11.0	18.1	5.3	100.0 (1088)
〃(既婚)	64.5	8.0	22.6	4.8	100.0 (124)
計	61.4	15.7	17.5	5.2	100.0 (114)
〃(有配偶)	66.1	10.8	17.6	5.4	100.0 (850)
男(全体)	67.2	12.3	18.1	2.2	100.0 (1740)
〃(未婚)	62.3	16.8	19.5	1.6	100.0 (321)
〃(既婚)	60.0	18.0	18.0	4.0	100.0 (50)
女(全体)	68.7	11.1	17.6	2.3	100.0 (1369)
〃(未婚)	68.0	12.0	18.0	3.8	100.0 (1081)
〃(既婚)	61.3	11.1	23.5	3.9	100.0 (251)
〃(有配偶)	65.4	13.2	16.1	5.2	100.0 (211)
計	69.6	12.0	14.7	3.5	100.0 (1419)

第95表 生活に余裕ある場合、女子が職業につくことについて

(家事担当別)					
	家庭にいた 方がよい	一般にいた ない	職業をもつ た方がよい	不 明	計
六市					
女(家事担当者)	68.9%	19.9%	11.5%	1.5%	100.0%(280)
女(それ以外)	56.0	14.6	21.9	7.3	100.0(82)
その他市					
女(家事担当者)	79.2	8.4	11.7	0.6	100.0(357)
女(それ以外)	69.0	13.8	14.8	2.1	100.0(94)
郡					
女(家事担当者)	66.9	10.6	17.7	4.7	100.0(846)
女(それ以外)	60.3	12.3	19.8	7.4	100.0(242)
全					
女(家事担当者)	69.9	11.7	15.1	3.1	100.0(1463)
女(それ以外)	61.4	13.1	19.1	6.2	100.0(418)

第96表 生活に余裕ある場合、女子が職業につくことについて
(年齢別)

	20~24才	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59
六市						
女	68.8%	59.1	70.7	69.3	72.8	68.4
女	10.3%	20.4	24.3	20.4	20.3	17.6
女	16.8%	18.3	4.8	10.2	5.0	12.2
女	3.8%	2.0	-	-	1.6	1.7
計	100.0%(154)	100.0(98)	100.0(82)	100.0(98)	100.0(118)	100.0(114)
その他市						
女	65.3	75.6	79.3	81.3	74.4	73.5
女	16.5	9.2	11.0	9.3	11.4	9.2
女	16.5	12.4	9.6	8.4	13.5	16.5
女	1.5	2.6	-	0.8	0.5	0.6
計	100.0(127)	100.0(152)	100.0(145)	100.0(118)	100.0(192)	100.0(151)
郡						
女	57.2	63.9	69.1	65.7	65.4	62.8
女	11.5	11.3	13.1	9.0	10.8	8.9
女	27.5	19.9	13.7	23.7	19.2	20.9
女	3.6	4.6	3.9	1.3	4.1	7.3
計	100.0(276)	100.0(300)	100.0(350)	100.0(286)	100.0(478)	100.0(382)
全						
女	62.2	66.3	71.9	70.1	68.9	66.3
女	12.3	12.3	14.2	11.3	12.4	10.5
女	22.0	17.6	11.4	17.5	15.7	18.3
女	3.2	3.6	2.4	0.9	2.9	4.7
計	100.0(557)	100.0(550)	100.0(577)	100.0(502)	100.0(788)	100.0(647)

第97表 生活に余裕ある場合、女子が職業につくことについて
(学歴別)

	家庭にいた 方がよい	一般にいた ない	職業をもつ	不 明	計
六市					
小卒	65.2%	20.8%	8.3%	5.5%	100.0%(144)
高小卒	75.7	13.5	9.7	0.9	100.0(206)
中卒	64.6	19.8	14.6	0.8	100.0(232)
専大卒	65.8	19.5	14.6	-	100.0(82)
その他市					
小卒	75.7	10.1	11.4	2.5	100.0(157)
高小卒	79.8	8.1	11.4	0.5	100.0(367)
中卒	70.7	12.7	15.4	1.0	100.0(291)
専大卒	64.2	21.4	14.2	-	100.0(70)
郡					
小卒	53.5	11.2	24.2	10.9	100.0(586)
高小卒	71.6	9.9	16.6	1.8	100.0(1106)
中卒	56.8	12.4	28.7	1.9	100.0(306)
専大卒	72.9	13.5	13.5	-	100.0(74)
全					
小卒	59.4	12.6	19.3	8.5	100.0(887)
高小卒	73.9	10.0	14.6	1.4	100.0(1679)
中卒	63.9	14.5	20.1	1.3	100.0(829)
専大卒	67.6	18.1	14.1	-	100.0(226)

第98表 生活に余裕ある場合、女子が職業につくことについて
(生活圏別)

	上	中上	中下	下	計
六市					
上	60.0%	20.0%	20.0%	-	100.0%(40)
中上	65.4	19.4	15.1	-	100.0(278)
中下	73.6	15.2	9.6	1.6%	100.0(250)
下	66.0	20.8	4.1	8.3	100.0(96)
その他市					
上	77.5	11.2	11.2	-	100.0(89)
中上	78.5	10.4	13.0	-	100.0(460)
中下	72.9	12.2	12.5	2.2	100.0(270)
下	68.1	10.6	16.6	4.5	100.0(66)
郡					
上	68.5	8.5	19.9	2.8	100.0(140)
中上	64.9	12.6	19.9	2.4	100.0(884)
中下	64.1	10.7	19.9	5.1	100.0(780)
下	61.1	8.9	23.8	8.9	100.0(268)
全					
上	70.2	11.1	17.1	1.4	100.0(269)
中上	68.3	13.1	17.1	1.3	100.0(1622)
中下	67.7	11.9	16.4	3.8	100.0(1300)
下	63.4	9.9	18.3	8.1	100.0(430)

第99表 生活に余裕ある場合、女子が職業につくことについて

(職業につく理由別)						
	家庭にいた方がよい	一晩にいたくない	積極的に職業をもて	不明	計	
市	家計の足しが多い	74.1%	13.7%	11.1%	0.9%	100.0%(1321)
	一晩にいたくない	43.4	28.2	28.2	-	100.0(46)
	社会とのつながりが多い	66.3	15.5	18.0	-	100.0(122)
	その他	(5)	(1)	(1)	(1)	(8)
	不明	59.6	5.7	19.2	15.3	100.0(52)
郡	家計の足しが多い	67.8	11.2	19.9	0.9	100.0(1602)
	一晩にいたくない	31.2	18.7	50.0	-	100.0(32)
	社会とのつながりが多い	65.4	3.6	30.9	-	100.0(110)
	その他	68.6	8.3	24.9	-	100.0(24)
	不明	41.1	10.2	14.0	34.5	100.0(214)
全	家計の足しが多い	70.6	12.3	16.0	0.9	100.0(3013)
	一晩にいたくない	38.4	24.3	37.1	-	100.0(76)
	社会とのつながりが多い	65.9	9.9	24.1	-	100.0(232)
	その他	65.6	9.3	21.8	3.1	100.0(32)
	不明	44.7	9.3	15.0	30.8	100.0(266)

〔注〕32 「職業についている婦人には、社会とのつながりをもとめて働いている人が多い」と思っているものでも、必ずしも職業婦人のそういう社会的進出の傾向を是認しているわけではなく、「生活に余裕があれば家にいた方がよい」というものが65.9%にのぼっていることに注意。

〔質問〕家庭外で職業についている女の人では、一生働こうという人が、だんだんふえてきていると思いますが、それほどでもないと思いますか。

第100表 一生働こうという婦人の増減についての考え

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
それほどでもない	48.7%	43.7%	42.3%	43.8%
ふえてきている	37.3	44.6	32.8	36.5
一晩にいたくない	5.7	7.5	7.6	7.2
不明	8.1	4.0	14.1	12.3
計	1000(664)	1000(886)	1000(2072)	1000(3621)

第101表 一生働こうという婦人の増減についての考え

(男女未既婚別)						
	それほどでもない	ふえてきている	一概にいいない	不明	計	
六都市	男(全体)	55.2%	35.4%	4.3%	4.9%	100.0%(322)
	・(未婚)	59.5	33.3	2.3	4.7	100.0(84)
	・(離死別)	(4)	(2)	(2)	-	(8)
	・(有配偶)	53.9	36.5	4.3	5.2	100.0(230)
	女(全体)	42.6	39.1	7.0	11.1	100.0(342)
その他	・(未婚)	38.7	35.4	12.9	12.9	100.0(62)
	・(離死別)	33.3	44.4	5.5	16.6	100.0(36)
	・(有配偶)	45.0	39.3	5.7	9.8	100.0(244)
	男(全体)	50.2	40.3	6.6	2.7	100.0(434)
	・(未婚)	52.8	42.6	2.2	2.2	100.0(89)
郡部	・(離死別)	(6)	(6)	(2)	-	(14)
	・(有配偶)	49.8	39.5	7.5	3.0	100.0(331)
	女(全体)	37.4	48.7	8.4	5.3	100.0(451)
	・(未婚)	43.0	49.2	6.1	1.5	100.0(65)
	・(離死別)	31.1	57.3	9.8	1.6	100.0(61)
都	・(有配偶)	38.5	47.0	8.6	6.7	100.0(325)
	男(全体)	45.3	33.5	8.1	11.9	100.0(984)
	・(未婚)	44.5	40.5	6.7	8.1	100.0(148)
	・(離死別)	49.9	28.5	14.2	7.1	100.0(28)
	・(有配偶)	46.5	32.4	8.1	12.8	100.0(808)
部	女(全体)	38.7	32.1	7.1	21.8	100.0(1088)
	・(未婚)	48.3	27.4	12.9	11.2	100.0(124)
	・(離死別)	38.5	26.3	8.7	26.3	100.0(114)
	・(有配偶)	37.4	33.6	6.1	22.8	100.0(850)
	全	男(全体)	48.9	35.5	7.0	8.3
・(未婚)		50.7	39.2	4.3	5.6	100.0(321)
・(離死別)		48.0	32.0	16.0	4.0	133.0(750)
・(有配偶)		48.5	34.8	7.3	9.2	100.0(1369)
国		女(全体)	39.1	37.4	7.4	15.9
	・(未婚)	45.0	34.6	11.1	9.1	100.0(251)
	・(離死別)	35.5	37.4	8.5	18.4	100.0(211)
	・(有配偶)	38.6	37.9	6.6	16.7	100.0(1410)

第102表 一生働こうという婦人の増減についての考え(学歴別)

	それ程ふえていない	増えてきている	一概にいない	不明	計
六大都市					
小卒	37.4%	37.4%	6.9%	18.0%	100.0%(144)
高小卒	52.4	33.9	3.8	9.7	100.0(206)
中卒	49.1	39.6	7.7	3.4	100.0(232)
専大卒	58.5	39.0	2.4	-	100.0(82)
その他の都市					
小卒	31.8	50.3	11.4	6.3	100.0(157)
高小卒	44.1	42.2	8.4	5.1	100.0(367)
中卒	46.3	45.0	6.1	2.4	100.0(291)
専大卒	57.1	42.8	-	-	100.0(70)
郡部					
小卒	29.3	35.4	6.4	28.6	100.0(586)
高小卒	48.6	28.7	7.8	15.0	100.0(1106)
中卒	43.1	37.9	11.7	7.1	100.0(306)
専大卒	48.6	51.3	-	-	100.0(74)
全国					
小卒	31.1	38.4	7.4	22.9	100.0(887)
高小卒	48.1	32.3	7.3	12.2	100.0(1679)
中卒	45.9	40.8	8.6	4.4	100.0(829)
専大卒	54.8	44.2	0.8	-	100.0(226)

- 〔質問〕 a 女の人が職業につく場合は原則一時的でもよいと思いますか。
b 女の人は一概に一生働こうというところまでやる必要はないと思いますか。

第103表 女子の職業は一時的でよい

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
一時的でもよい	46.0%	39.4%	35.8%	38.5%
一時的の方がよい (長くなるのはやむを得ぬ)	11.1	15.2	9.3	11.1
場合により一概にいない	10.8	18.6	14.2	14.7
一時的ではよくない (短くなるのはやむを得ぬ)	4.5	11.5	7.3	7.8
一時的ではよくない	20.1	10.0	15.4	15.1
不明	7.2	4.5	17.7	12.5
計	100.0(664)	100.0(885)	100.0(2072)	100.0(3621)

〔註〕33 第100表で「それ程でもない」「不明」の初回は質問aを「ふえてきている」「一概にいない」には質問bをきいた。これは同じ問題について更に詳細に質したものであるからa, b両方の回答を合せてコードした。

第104表 女子の職業は一時的でよい(地域別, 男女未既婚別)

	一時的でよい	一時的でよい ながくなるのはやむを得ぬ	場合により一概にいない	一時的ではよくない 短くなるのはやむを得ぬ	一時的ではよくない	不明	計
六大都市							
男(全体)	50.9%	11.8%	13.0%	6.2%	13.0%	4.9%	100.0%(322)
・(未婚)	49.9	11.9	14.6	4.7	11.5	7.1	100.0(84)
・(離死別)	(2)	(2)	(2)	-	(2)	-	(8)
・(有配偶)	52.1	11.3	12.1	6.9	13.0	4.3	100.0(230)
女(全体)	41.5	10.5	8.7	2.9	25.0	9.3	100.0(342)
・(未婚)	38.7	9.6	3.2	6.4	29.0	12.6	100.0(62)
・(離死別)	38.8	5.5	11.1	-	27.7	16.6	100.0(36)
・(有配偶)	42.6	11.4	9.8	2.4	26.2	7.3	100.0(244)
その他の都市							
男(全体)	44.4	14.7	17.2	10.8	9.2	3.4	100.0(434)
・(未婚)	42.6	12.3	21.3	7.8	10.1	5.6	100.0(89)
・(離死別)	(1)	(2)	(2)	(1)	(3)	-	(14)
・(有配偶)	45.0	15.4	16.3	11.7	8.4	3.0	100.0(331)
女(全体)	34.5	15.7	19.9	12.4	11.9	5.6	100.0(451)
・(未婚)	27.6	13.8	18.4	12.3	24.6	3.0	100.0(65)
・(離死別)	26.2	21.3	26.2	8.1	11.4	6.5	100.0(61)
・(有配偶)	37.6	15.0	19.0	12.9	9.5	5.8	100.0(325)
郡部							
男(全体)	38.0	13.1	14.4	9.5	15.6	11.3	100.0(984)
・(未婚)	35.1	12.1	20.2	13.5	8.1	10.8	100.0(148)
・(離死別)	21.4	7.1	28.5	14.2	21.4	7.1	100.0(28)
・(有配偶)	38.1	10.8	12.8	8.6	16.8	11.6	100.0(808)
女(全体)	33.8	7.9	14.1	5.3	15.2	23.5	100.0(1088)
・(未婚)	40.3	8.0	24.1	4.8	11.2	11.2	100.0(124)
・(離死別)	28.0	8.7	7.0	1.7	19.2	35.0	100.0(114)
・(有配偶)	33.6	7.7	13.6	5.8	15.2	23.7	100.0(850)
全国							
男(全体)	42.0	12.0	14.8	9.2	22.7	8.2	100.0(1740)
・(未婚)	41.1	12.1	19.9	9.5	9.6	8.4	100.0(321)
・(離死別)	28.0	12.0	24.0	10.0	22.0	4.0	100.0(50)
・(有配偶)	42.7	12.0	13.5	9.1	14.1	8.3	100.0(1369)
女(全体)	35.4	10.2	14.5	5.5	16.5	16.6	100.0(1881)
・(未婚)	37.0	9.9	17.5	6.7	23.0	9.5	100.0(251)
・(離死別)	28.4	11.8	13.2	3.3	18.4	24.6	100.0(211)
・(有配偶)	36.1	10.0	14.2	6.9	15.8	16.7	100.0(1419)

第105表 女子の職業は一時的でよいか（家事担当別）

	一時的で よい	一時的で よい 長くなる のはやむ を得ぬ	場合に よ い	一時的で はよくない 短くなる のはやむ を得ぬ	一時的で はよくない	不明	計
六市							
大							
都							
家事担当者	43.3%	11.5%	9.9%	1.5%	23.3%	9.2%	1000% (260)
それ以外	39.0	7.3	4.8	7.3	31.7	9.7	1000 (82)
その							
の都							
他市							
家事担当者	36.1	16.6	19.8	11.7	9.5	6.1	1000 (357)
それ以外	28.7	12.7	20.1	13.8	21.2	3.1	1000 (94)
郷							
部							
家事担当者	33.8	7.8	13.9	5.6	15.6	23.1	1000 (846)
それ以外	33.8	8.2	14.8	4.1	14.0	24.7	1000 (242)
全							
国							
家事担当者	35.8	10.5	14.6	6.4	15.8	16.5	1000 (1463)
それ以外	33.7	9.0	14.1	6.9	19.1	16.9	1000 (418)

第106表 女子の職業は一時的でよいか（学歴別）

	小卒	高小卒	中卒	専大卒	小卒	高小卒	中卒	専大卒	小卒	高小卒	中卒	専大卒	小卒	高小卒	中卒	専大卒	計
六市																	
大																	
都																	
小卒	40.2%	12.4%	8.3%	4.1%	20.8%	13.8%	1000% (144)										
高小卒	51.4	7.7	12.6	4.8	14.5	8.7	1000 (206)										
中卒	43.1	9.4	9.4	6.0	28.4	3.4	1000 (232)										
専大卒	51.2	21.9	14.6	—	9.7	2.4	1000 (82)										
その																	
の都																	
他市																	
小卒	36.9	21.0	15.2	8.2	8.9	9.5	1000 (157)										
高小卒	43.8	15.5	13.8	13.0	9.5	4.0	1000 (367)										
中卒	30.4	12.3	25.0	10.3	12.7	3.0	1000 (291)										
専大卒	34.2	12.8	24.2	15.7	14.4	1.4	1000 (70)										
郷																	
部																	
小卒	24.5	7.8	11.6	8.1	13.9	33.7	1000 (586)										
高小卒	39.9	9.7	15.0	7.2	14.8	13.2	1000 (1106)										
中卒	40.5	11.7	15.6	7.1	16.9	7.8	1000 (306)										
専大卒	43.2	5.4	18.9	2.7	29.7	—	1000 (74)										
全																	
国																	
小卒	29.3	10.9	11.7	7.5	14.2	26.2	1000 (887)										
高小卒	42.2	10.7	14.4	8.2	13.6	10.6	1000 (1679)										
中卒	39.8	11.3	17.2	7.9	18.6	4.9	1000 (829)										
専大卒	43.3	13.7	19.0	5.7	16.8	1.3	1000 (226)										

第107表 女子の職業は一時的でよいか（生活程度別）

	一時的で よい	一時的で よい （やむを得ぬ）	場合に よ い	一時的で はよくない （短くなる のはやむ を得ぬ）	一時的で はよくない	不明	計
六市							
大							
都							
上	50.0%	25.0%	—	—	25.0%	—	1000% (40)
中上	49.6	8.6	12.2%	4.3%	20.8	4.3%	1000 (278)
中下	46.4	9.6	12.8	4.0	20.8	6.4	1000 (250)
下	33.3	16.6	6.2	8.3	14.5	20.8	1000 (96)
その							
の都							
他市							
上	39.3	12.3	16.8	21.3	6.7	3.3	1000 (89)
中上	41.5	14.3	18.4	11.3	11.7	2.6	1000 (460)
中下	37.7	18.1	18.1	9.2	9.9	8.6	1000 (270)
下	31.8	13.6	24.2	9.0	10.6	10.6	1000 (766)
郷							
部							
上	47.1	9.9	15.7	5.7	11.4	9.9	1000 (140)
中上	39.1	8.1	12.8	6.3	18.0	15.3	1000 (884)
中下	32.5	10.7	15.3	9.7	12.8	18.7	1000 (780)
下	28.3	8.9	14.9	4.4	16.4	26.8	1000 (288)
全							
国							
上	44.9	13.0	13.7	10.0	11.8	6.3	1000 (269)
中上	41.6	9.9	14.3	7.3	16.7	9.8	1000 (1622)
中下	36.3	12.0	15.4	8.5	13.7	13.8	1000 (1300)
下	29.9	11.3	14.4	6.0	15.1	23.0	1000 (430)

第108表 女子の職業は一時的でよいか（年齢別）

	20~29才	30~39	40~49	50~59	20~29才	30~39	40~49	50~59	計
市									
都									
20~29才	40.2%	10.7%	16.9%	6.7%	18.8%	6.4%	1000% (531)		
30~39	41.0	11.7	18.0	12.6	11.2	5.1	1000 (443)		
40~49	41.9	19.9	15.1	7.4	12.5	2.9	1000 (310)		
50~59	48.6	14.3	7.5	6.4	14.7	8.3	1000 (265)		
郷									
部									
20~29才	35.6	10.7	16.6	8.3	12.4	15.9	1000 (576)		
30~39	33.6	6.9	19.8	5.0	17.9	16.6	1000 (636)		
40~49	36.4	9.6	7.9	10.4	17.5	17.9	1000 (478)		
50~59	38.7	10.9	9.4	5.7	13.0	21.9	1000 (382)		
全									
国									
20~29才	48.6	16.8	23.1	11.3	1000 (1107)				
30~39	45.5	19.0	23.3	11.9	1000 (1079)				
40~49	52.2	10.7	24.8	12.0	1000 (738)				
50~59	55.1	8.6	19.7	16.3	1000 (647)				

第109表 女子の職業は一時的でよいか (質問組合せ1)

	一時的で よい	一時的で よい (長くなる のはやむ を得ぬ)	場合によ り一概に いえぬ	一時的で はよくない (短くなる のはやむ を得ぬ)	一時的で はよくない	不 明	計
市							
それ程でも ない	51.0%	9.2%	11.1%	7.5%	8.0%	2.9%	100.0% (711)
一生働こう とする婦人 がはなえている	25.8	18.8	18.5	9.7	23.6	3.4	100.0 (643)
一概にい えぬ	21.9	16.1	36.1	9.5	13.3	2.8	100.0 (105)
不 明	36.5	5.5	1.1	5.5	5.5	46.6	100.0 (90)
郡							
それ程でも ない	55.3	7.2	14.3	6.6	11.1	5.2	100.0 (878)
一生働こう とする婦人 がはなえている	23.5	16.4	16.4	10.5	26.4	6.4	100.0 (689)
一概にい えぬ	25.3	7.5	31.6	3.7	18.9	12.6	100.0 (158)
不 明	15.7	1.6	2.2	4.4	3.3	72.4	100.0 (359)
全 国							
それ程でも ない	57.8	8.1	12.9	7.0	9.7	4.2	100.0 (1589)
一生働こう とする婦人 がはなえている	24.6	17.6	17.4	10.2	25.0	4.9	100.0 (1323)
一概にい えぬ	23.9	11.0	33.4	3.0	16.7	8.7	100.0 (263)
不 明	19.7	2.4	2.0	4.7	3.8	67.2	100.0 (446)

第110表 女子の職業は一時的でよいか (質問組合せ2)

	家庭にいた 方がよい	一概にい えぬ	積極的に職 業をもて	不 明	計
六 大 都 市					
一時的でよい	78.4%	13.0%	8.4%	-	100.0% (306)
一時的でよい (長くなるのは やむを得ぬ)	67.5	27.0	5.2	-	100.0 (74)
場合により一概 にいえぬ	72.1	13.8	13.8	-	100.0 (72)
一時的ではよくない (一時的になるのも やむを得ぬ)	53.3	33.3	13.3	-	100.0 (30)
一時的ではよくない	53.7	25.3	20.8	-	100.0 (134)
不 明	49.7	12.4	12.4	24.9%	100.0 (48)
そ の 他 の 都 市					
一時的でもよい	83.6	6.5	9.1	0.5	100.0 (349)
一時的でよい (長くなるのも やむを得ぬ)	77.7	9.6	11.1	1.4	100.0 (155)
場合により一概 にいえない	66.0	21.8	12.1	-	100.0 (165)
一時的ではよくない (一時的になるのも やむを得ぬ)	60.6	12.7	20.6	-	100.0 (102)
一時的ではよくない	62.7	9.5	26.5	1.0	100.0 (94)
不 明	75.0	10.0	5.0	10.0	100.0 (40)
郡					
一時的でもよい	76.5	7.0	15.6	0.8	100.0 (742)
一時的でよい (長くなるのも やむを得ぬ)	64.9	10.3	23.7	1.0	100.0 (194)
場合により一概 にいえない	62.8	18.9	17.5	0.6	100.0 (296)
一時的ではよくない (一時的になるのも やむを得ぬ)	40.7	17.1	32.4	2.6	100.0 (152)
一時的ではよくない	57.5	8.1	33.7	0.6	100.0 (320)
不 明	56.5	11.9	11.4	20.1	100.0 (368)
全 国					
一時的でもよい	78.7	8.2	12.4	0.5	100.0 (1397)
一時的でよい (長くなるのも やむを得ぬ)	69.7	13.1	16.1	0.9	100.0 (403)
場合により一概 にいえない	65.0	19.1	15.3	0.3	100.0 (533)
一時的ではよくない (一時的になるのも やむを得ぬ)	61.4	17.2	20.9	1.4	100.0 (284)
一時的ではよくない	57.5	12.6	29.3	0.5	100.0 (548)
不 明	57.4	11.9	10.9	19.7	100.0 (456)

第111表 女子の職業は一時的でよいか (質問組合せ3)

		一時的で よい	一時的で よい (長くなる のはやむ を得ない)	一概にい えない	一時的で よくない (短くなる のはやむ を得ない)	一時的で よくない	不 明	計
六大都市	家庭にいた 方がよい	52.8%	11.0%	11.4%	3.5%	13.8%	5.2%	100.0%(454)
	一概にい えない	33.3	16.6	8.3	8.3	28.3	4.9	100.0(120)
	職業につけ	33.3	5.1	12.8	5.1	35.8	7.6	100.0(78)
	不 明	-	-	-	-	-	(12)	(12)
その他の都市	家庭にいた 方がよい	44.0	15.8	16.4	10.2	8.8	4.5	100.0(863)
	一概にい えない	23.4	13.2	35.7	13.2	9.1	4.0	100.0(98)
	職業につけ	27.8	13.0	17.3	18.2	21.7	1.7	100.0(115)
	不 明	(2)	(2)	-	-	(1)	(4)	(9)
郡 部	家庭にいた 方がよい	42.5	9.4	13.9	4.6	13.7	15.5	100.0(1334)
	一概にい えない	23.2	8.9	24.9	11.6	11.6	19.6	100.0(224)
	職業につけ	27.3	10.8	12.2	14.1	25.4	9.9	100.0(424)
	不 明	6.6	2.2	2.2	4.4	2.2	82.2	100.0(90)
全 国	家庭にいた 方がよい	44.8	11.4	14.1	5.9	12.8	10.6	100.0(2451)
	一概にい えない	26.0	11.9	23.0	11.0	15.6	12.2	100.0(442)
	職業につけ	28.2	10.5	13.2	13.7	26.0	8.1	100.0(617)
	不 明	7.2	3.6	1.8	3.6	2.7	81.0	100.0(111)

第112表 職業意識 (全国)

a	「生活に余裕があれば家にいた方がよい」+「婦人の職業は一時的でよい。一時的でよいが、長くなるのはやむを得ない。」	38.1%
b	「積極的に職業についた方がよい。」+「婦人の職業は一時的でよい。一時的でよいが、長くなるのはやむを得ない。」	66.0%
c	「家にいた方がよい」+「一時的ではよくない。一時的ではよくないが、短くなるのはやむを得ない。」	12.7%
d	「積極的に職業についた方がよい」+「一時的ではよくない。一時的ではよくないが、短くなるのはやむを得ない。」	6.7%
e	①「家にいた方がよい」+「一時的でよいかどうか一概にいえない。」	
	②「家にいた方がよいかどうか一概にいえない」+「一時的でよいかどうか一概にいえない。」	24.0%
f	その他 不明を含む	11.6%
		100.0%(3621)

[註] 34 本表は第93表と第103表との相関により得られる。

第113表 職業意識 (地域別)(全国)

	a	b	c	d	e	f	
六大都市	43.6%	4.5%	13.2%	4.8%	27.4%	8.3%	100.0%(664)
その他の都市	44.8	5.3	14.3	5.1	25.6	4.6	100.0(885)
郡 部	33.4	7.9	11.8	8.1	22.2	16.4	100.0(2072)

第114表 職業意識 (男女未既婚別) (全国)

男(全体)	40.1%	7.8%	13.1%	7.3%	24.4%	7.9%	100.0%(1740)
・(未婚)	36.1	9.3	10.2	7.1	29.9	7.1	100.0(321)
・(既婚別)	36.0	2.0	10.0	10.0	38.0	4.0	100.0(50)
・(有配偶)	41.3	7.5	12.6	7.3	22.7	8.3	100.0(1369)
女(全体)	36.2	5.4	13.2	3.2	23.6	15.0	100.0(1881) 99.6
・(未婚)	34.2	9.1	12.3	9.9	24.7	9.5	100.0(251)
・(既婚別)	30.8	5.2	12.7	8.0	23.2	19.9	100.0(211)
・(有配偶)	37.3	4.8	13.5	5.3	23.6	5.3	100.0(1419)

第115表 職業意識 (家事との関連) (全国)

家事と仕事両方 うまくされる	38.0%	8.6%	13.8%	7.7%	20.7%	10.8%	100.0%(670)
仕事がおろんか になる	29.6	7.1	10.7	7.1	24.5	20.8	100.0(408)
家事がおろんか	39.5	4.4	14.6	5.2	23.7	12.6	100.0(648)
両方おろんか	44.7	2.8	9.5	5.7	25.7	11.4	100.0(165)
そ の 他	(8)	-	(1)	-	-	-	(9)
不 明	(1)	(2)	(2)	-	(8)	(8)	(19)

第116表 職業意識 (家事との関連) (全国)

家事に重点	40.5%	6.2%	14.2%	3.7%	24.3%	10.8%	100.0%(809)
仕事に重点	35.1	7.1	12.7	8.3	20.9	15.5	100.0(767)
両者同じように	35.7	5.6	13.0	7.1	24.0	14.3	100.0(461)
そ の 他	(2)	-	-	-	(1)	-	(3)
不 明	(4)	(2)	-	(1)	(7)	(5)	(19)

第117表 職業意識（就職に心配があるかないかの別）（全国）

	就職に心配 はいらない	心配はある	誤 不	解 明	計
a	36.3%	42.8%	20.8%		100.0%(441)
b	41.0	36.9	21.9		100.0(73)
c	40.3	38.7	20.4		100.0(142)
d	55.9	23.8	20.2		100.0(84)
e	36.7	43.2	20.0		100.0(245)
f	32.2	17.7	50.0		100.0(62)

第118表 職業意識（学歴別）（全国）

	a	b	c	d	e	f	計
小 卒	30.7%	5.2%	9.8%	7.6%	22.0%	24.3%	100.0%(887)
高小卒	41.5	7.3	14.2	5.5	21.5	9.7	100.0(1679)
中 卒	37.5	7.2	13.1	8.5	28.4	5.0	100.0(829)
専大卒	43.8	3.0	11.0	6.1	34.0	0.8	100.0(226)

第119表 職業意識（本人職業形態別）（全国）

勤 務	37.7%	6.0%	14.9%	7.4%	28.7%	4.8%	100.0%(888)
自 営	31.7	8.2	10.9	7.3	21.9	11.0	100.0(843)
日 傭	45.2	4.7	8.7	8.7	19.0	13.4	100.0(126)
内 職	44.0	-	17.4	8.2	19.2	11.0	100.0(109)
家族従業	34.0	6.6	11.4	5.3	22.2	20.1	100.0(857)
家事のみ	39.9	5.9	13.6	6.2	24.0	10.2	100.0(704)
無 職	35.1	9.5	12.7	8.5	25.5	8.3	100.0(94)

第120表 職業意識（本人職業内容別）（全国）

	a	b	c	d	e	f	計
農 林 漁 業	31.7%	7.9%	11.2%	7.7%	23.0%	18.2%	100.0%(1221)
商 工 業	50.9	6.3	10.7	2.7	20.2	8.8	100.0(473)
事 務	35.2	4.2	16.1	8.6	33.7	1.9	100.0(403)
労 務	40.3	6.2	13.1	7.4	22.9	9.7	100.0(182)
自由業（重役）	44.6	17.0	8.5	-	29.7	-	100.0(47)
そ の 他	38.7	6.1	10.2	10.2	16.3	20.4	100.0(49)
な し	39.7	5.6	14.4	5.4	23.9	9.0	100.0(866)

第121表 職業意識（生活態度別）（全国）

上	43.4%	9.6%	14.1%	5.5%	21.5%	5.5%	100.0%(269)
中	39.2	6.7	13.8	6.4	24.7	8.9	100.0(1622)
中	37.6	6.1	11.9	7.0	24.2	12.9	100.0(1300)
下	32.0	5.5	9.7	8.1	22.3	22.0	100.0(430)

7. 就職難に対する意見

最後に就職難の問題についておれてみよう。一般に市部では82~9%, 郡部では72.9%の多数が年々職業につくことを希望する婦人が多くなつてくるとみている(第122表)。このような観測は、男子に若干多い(男子80.9%, 女子74.0%(第123表))。学歴別では、六大都市と郡部においては学歴が高くなるにつれて、又その他の都市では中卒に多くなつていく(124表)。就職を希望する婦人が増加する、或いは一概に言えないというもの1計3008名に女の人の就職口もだんだん多くなつて行くと思うかどうかをしらべると、そのうち就職口も増えると考えているものは94.8%で半数は就職口は増えないと思つていく(125表)。この点については市部の方が郡部よりも、女子の方が男子よりも、やや悲観的である(第126表)。また学歴が高くなるにつれて市部郡部を通じて就職口は増えないという態度を示すものが増える(第127表)就職を希望する婦人は増えて行き、就職口もまた増加すると思つていくもの、1047名についてみると、男子では就職の心配ないというものより就職の困難さをみとめるものが少い(40.1%: 43.4%)、女子ではそれが逆でむしろ心配だというものの方が多くなつていく(37.4%: 33.1%)(第129表)。また女子のなかでは家事担当者の方がそれ以外のものよりも悲観的である(第130表)。学歴別では、市部は高小卒以下のものに、郡部では中卒以上のものに心配なしと言う率が高い。同じ学歴でも市部と郡部とは全く逆で、例えば高小卒以下の場合では市部では「心配ない」が多く、郡部では「心配だ」が多い。中卒以上の場合では市部では「心配だ」が高く郡部では「心配なし」が高くなつていく(第132表)。

就職を希望する婦人も就職口も、ともに増加する(又は就職を希望する婦人が増えるかどうか一概に言えないがとにかく就職口は増加する)などと思つていくものを除外した2574名について、職業につきたくてもつけない婦人が今後多くなつて行くと思うかどうか、みたところ「就職できない婦人が多くなる」が61.8%「一概に言えない」が10.1%で、その両方合せた71.9%のものが何等かの意味で就職難ということを考へている(第133表)それも特に市部に多く(六大都市74.8%)その他の都市(85.4%)(第135表)、又男女別では市部の未婚婦人の83.8%を除けば総じて男の方に就職難を考へているものが高率である(78%)(第134表)学歴別では市部では中卒に郡部では学歴の高くなるにつれて職につけない婦人が多くなると考へ、市部の専大卒はそんなことはないと思ふものが比較的が多くなつていく。婦人の職業については、この「職業につきたくてもつけない婦人が増えていく(一概に言えない)」と思つていくものは果して就職難がとくに婦人に苦しいと思つていくのであらうか。対象者1855名中特に婦人の就職難が深刻であると思つていくものは26.6%であり、61.8%の多数は男子の場合と同じだ

と思つている。不況が婦人に主にシワ寄せされると考えるものゝ割合はやはり郡部より市部に、男子より女子に上廻つている。(市部の未婚婦人では44.2%である)(第137表)。一般に生活程度の高いものに「特に婦人に著しい」とするものが多く(上28.1%中ノ上29.6%)生活程度(中下)に男も同じだとする意見が多くみられる(全国63.3%)。又市部の生活程度下のものに「男も同じだ」とする率が高く66.2%を占めているのは注目値する(第139表)。年齢別では25~29才のものに就職難は特に婦人に著しいとするものが多く92.3%に達している(第140表)。

本項を簡単に纏めてみると、結局、全対象者のうち婦人に就職の心配はないと思つていそうなものゝ18.5%、就職口をさがすのはなかなかむづかしいだらうと考えているものが55.2%、態度の不明なものが26.1%であつて、婦人の就職難を認めているものが多く、「その他の都市」では特に66%にまで上つてゐる(第141表)。

【質問】年々職業につくことを希望する女の人数が増えていくと思ひますか、別にそうは思ひませつか。

第122表 就職希望の女子の増加に対する考え

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
増えてゆく	82.8%	83.4%	72.9%	77.3%
一概に言えない	4.2	7.1	5.5	5.7
増えるとは思はぬ	5.7	6.1	8.6	7.5
不明	7.2	3.2	12.7	9.4
計	100.0%(664)	100.0%(885)	100.0%(2,072)	100.0%(3,621)

第123表 就職希望の女子の増加に対する考え(地域別、男女別)

		就職を希望する女の人 が増えていく	一概に 言えない	増えない	不明	計
六大都市	男	86.2%	3.4%	6.2%	3.7%	100.0%(322)
	女	80.0	4.0	5.2	10.5	100.0(342)
その他の都市	男	82.0	7.8	7.6	2.5	100.0(434)
	女	84.9	6.4	4.6	3.7	100.0(451)
郡部	男	78.8	6.3	6.7	8.1	100.0(984)
	女	67.6	4.9	10.4	16.7	100.0(1,088)
全国	男	80.9	6.3	6.8	5.9	100.0(1,240)
	女	74.0	5.1	8.1	12.6	100.0(1,881)

第124表 就職希望の女子の増加に対する考え(学歴別)

六大都市	小卒	76.9%	2.7%	2.7%	18.0%	100.0%(144)
	高小卒	77.6	7.7	8.7	5.8	100.0(206)
	中卒	87.9	2.5	6.0	3.4	100.0(232)
	専大卒	92.6	2.4	2.4	2.4	100.0(82)
その他の都市	小卒	73.2	10.1	8.2	8.2	100.0(137)
	高小卒	83.1	7.3	5.9	3.5	100.0(367)
	中卒	89.3	4.4	5.1	1.0	100.0(291)
	専卒	84.2	9.9	5.7	—	100.0(70)
郡部	小卒	60.0	6.1	9.8	23.8	100.0(586)
	高小卒	76.1	5.9	8.9	9.5	100.0(1,106)
	中卒	81.6	3.9	8.4	5.8	100.0(306)
	専卒	91.8	2.7	5.4	—	100.0(74)
全国	小卒	65.0	6.3	8.4	20.1	100.0(887)
	高小卒	77.8	6.4	7.8	7.8	100.0(1,679)
	中卒	86.1	3.7	6.6	3.4	100.0(829)
	専卒	89.8	4.8	4.4	0.8	100.0(226)

【質問】[第122表で増えていく、一概に言えないのものに]女の人の就職口もだんだん多くなつていくと思ひますか、それともそう多くはならないと思ひますか。

第125表 女子就職口の増加についての考え

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
多くなつてゆく	28.3%	52.2%	36.3%	34.8%
そう多くはならない	57.4	53.4	44.7	50.0
一概に言えぬ	4.1	8.4	10.4	8.7
不明	10.0	3.7	6.5	6.4
計	100.0(578)	100.0(802)	100.0(1,628)	100.0(3,008)

第126表 女子の就職口の増加についての考え(男女別)

		就職口が増える	増えない	一様でない	不明	計
六大都市	男	33.7%	57.9%	4.8%	3.4%	100.0%(290)
	女	22.9	56.9	3.4	16.6	100.0(288)
その他の都市	男	33.8	56.4	8.2	1.5	100.0(390)
	女	30.8	54.6	8.7	5.8	100.0(412)
郡部	男	39.8	44.3	11.6	4.0	100.0(838)
	女	36.5	45.2	9.1	9.1	100.0(790)
全国	男	37.1	50.0	9.4	3.2	100.0(1,518)
	女	32.4	50.0	7.9	9.6	100.0(1,490)

第127表 女子の就職口の増加についての考え(学歴別)

六大都市	小卒	33.3%	45.6%	1.7%	19.2%	100.0%(114)
	高小卒	30.6	48.8	6.8	13.6	100.0(176)
	中卒	24.7	66.6	2.8	5.7	100.0(210)
	専大卒	25.6	69.2	5.1	—	100.0(78)
その他の都市	小卒	32.0	47.9	15.2	5.9	100.0(191)
	高小卒	33.1	54.5	7.8	4.5	100.0(332)
	中卒	31.5	59.9	6.2	2.9	100.0(273)
	専大卒	31.8	60.6	7.5	—	100.0(66)
郡部	小卒	41.7	34.0	10.8	13.4	100.0(388)
	高小卒	37.2	46.4	11.0	5.2	100.0(908)
	中卒	36.6	51.1	9.9	2.2	100.0(262)
	専大卒	39.9	57.1	2.8	—	100.0(70)
全国	小卒	38.2	38.8	10.1	12.7	100.0(699)
	高小卒	35.4	48.6	9.7	6.1	100.0(1,416)
	中卒	31.4	58.5	6.5	3.4	100.0(745)
	専大卒	32.2	62.6	5.1	—	100.0(214)

〔質問〕〔第125表で多くなつてゆく、のものに〕では女の人の就職については別に心配はい

らないというわけですか。.....

心配というのは一體どういふことですか。(O. A.)

第128表 女子の就職についての心配

		六大都市	その他の都市	郡部	全国
心配はいらない		42.6%	37.4%	38.1%	38.6%
心配あり	適職がないのが心配	20.7	14.2	10.8	13.2
	就職口が狭いつつないのが心配	13.4	28.1	24.0	23.3
	就職条件の低下が心配	7.3	0.7	1.6	2.2
	と特に云つたもの				
同組の趣旨を正当に理解していないもの		7.3	10.8	13.7	12.0
不明		8.5	8.4	11.5	10.9
計		100.0%(164)	100.0%(259)	100.0%(624)	100.0%(1,047)

第129表 女子の就職についての心配(男女別)

		女の人の就職に心配は		不明	計
		ある	ある		
六大都市	男	42.8%	42.8%	14.9%	100.0%(98)
	女	42.4	39.9	18.1	100.0(66)
その他の都市	男	40.1	44.7	15.1	100.0(132)
	女	34.6	41.7	23.6	100.0(127)
郡部	男	44.9	37.5	17.2	100.0(334)
	女	30.9	35.0	34.4	100.0(290)
全国	男	43.4	40.1	16.2	100.0(564)
	女	33.1	37.4	29.3	100.0(489)

第130表 女子の就職についての心配(家事担当別)(全国)

家事担当者	30.7%	32.1%	29.9%	100.0%(993)
それ以外	43.3	30.0	26.6	100.0(90)

第181表 女子の就職についての心配（年齢別）（全国）

	女子の就職に心配は			計
	ない	ある	不明	
20～24才	37.7%	40.7%	21.3%	100.0%(159)
25～29	35.0	37.0	27.6	100.0 (137)
30～34	37.6	44.2	17.9	100.0 (178)
35～39	40.4	30.7	28.6	100.0 (136)
40～49	36.4	41.2	22.4	100.0 (250)
50～59	44.9	36.2	18.6	100.0 (187)

第182表 女子の就職についての心配（学歴別）

		女子の就職に心配は			計
		ない	ある	不明	
市部	高小卒以下	42.2%	36.8%	20.8%	100.0%(244)
	中 卒以上	35.7	50.2	13.9	100.0 (179)
郡部	高小卒以下	34.4	38.8	26.8	100.0 (500)
	中 卒以上	53.1	27.4	19.3	100.0 (124)
全国	高小卒以下	36.9	38.1	24.8	100.0 (744)
	中 卒以上	42.8	40.9	16.1	100.0 (303)

〔質問〕〔第122表で、増えるとは思わぬ、不明のもの、第125表で、そう多くはならない、一概にいえぬ、不明、のものに〕（では）職業につきたくてもつけない婦人が多くなつてくるといわけですか。（と思ひますか。）

第183表 女子は就職難か

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国
多くなつてくる	66.0%	73.5%	54.5%	61.8%
多くなつてくるとは思えない	8.4	8.3	12.0	10.4
一概にいえない	8.8	9.9	10.7	10.1
不 明	16.8	6.2	22.6	17.5
計	100.0%(500)	100.0%(626)	100.0%(1,448)	100.0%(2,574)

第184表 女子は就職難か（男女、未婚別）

		職につけない 多くなると 一概に 婦人が多くなるとは思えない 言えない			不明	計
市	男(全 體)	73.5%	7.9%	10.8%	7.7%	100.0%(526)
	男(未 婚)	69.3	8.0	13.7	8.8	100.0 (124)
	男(離死別) (12)	—	(2)	(2)	(2)	(16)
	男(有配偶)	74.8	8.2	9.5	7.2	100.0 (386)
	女(全 體)	69.3	8.6	8.3	13.6	100.0 (600)
郡	女(未 婚)	77.5	6.3	6.3	9.5	100.0 (94)
	女(離死別)	72.8	1.4	12.8	12.8	100.0 (70)
	女(有配偶)	66.9	10.3	8.0	14.6	100.0 (436)
部	男(全 體)	59.0	13.2	14.1	13.5	100.0 (650)
	男(未 婚)	60.4	13.9	18.6	6.9	100.0 (863)
	男(離死別) (6)	(4)	(2)	(2)	(2)	(14)
	男(有配偶)	59.2	12.7	13.4	14.5	100.0 (550)
	女(全 體)	50.8	11.0	8.0	30.0	100.0 (798)
全 国	女(未 婚)	54.9	13.6	13.7	11.7	100.0 (102)
	女(離死別)	41.8	6.9	6.9	44.1	100.0 (863)
	女(有配偶)	51.4	10.1	7.2	31.1	100.0 (610)
全 国	男(全 體)	63.5	10.8	12.5	10.9	100.0 (1,176)
	男(未 婚)	65.7	10.4	13.7	8.0	100.0 (210)
	男(離死別)	59.9	13.3	13.3	13.3	100.0 (30)
	男(有配偶)	65.7	10.8	11.8	11.5	100.0 (936)
	女(全 體)	58.7	10.0	8.1	23.0	100.0 (1,398)
全 国	女(未 婚)	65.3	13.7	10.2	10.7	100.0 (196)
	女(離死別)	54.4	4.4	9.6	31.4	100.0 (156)
	女(有配偶)	58.2	10.1	7.5	24.0	100.0 (1,046)

第136表 女子は就職難か (学歴別)

		職につけない婦 人が多くなる	多くなると は思えない	一概に いえない	不 明	計
六 大 都 市	小 卒	58.4%	1.8%	2.4%	30.1%	100.0%(106)
	高小卒	63.1	3.9	10.5	22.5	100.0 (152)
	中 卒	73.3	12.2	5.5	8.8	100.0 (180)
	専大卒	64.5	19.3	12.9	3.2	100.0 (62)
そ の 他 の 都 市	小 卒	63.4	9.5	12.1	14.7	100.0 (115)
	高小卒	75.4	8.9	8.9	6.6	100.0 (257)
	中 卒	83.4	5.3	9.2	1.9	100.0 (205)
	専大卒	71.4	14.2	12.2	2.0	100.0 (49)
郡 部	小 卒	36.7	11.2	9.4	42.4	100.0 (424)
	高小卒	59.6	11.4	11.9	16.9	100.0 (768)
	中 卒	66.6	15.2	9.5	8.5	100.0 (210)
	専大卒	78.2	13.0	8.6	—	100.0 (46)
全 国	小 卒	45.1	9.4	9.9	35.5	100.0 (645)
	高小卒	63.5	9.9	11.1	15.3	100.0 (1,177)
	中 卒	74.4	10.9	8.2	6.3	100.0 (595)
	専大卒	70.7	15.9	11.4	1.9	100.0 (157)

[質問] [第133表で多くなってくる、一概に言えない、のものに]そういう傾向は大體男も同じだと思いますか、それとも特に婦人に著しいと思いますか。

第136表 女子の就職難は男子と同様か。

	六大都市	その他の都市	郡 部	全 国
男も同じ	63.6%	58.3%	63.2%	61.8%
婦人に著しい	29.4	32.8	21.9	26.6
一概にいえない	5.3	7.4	10.5	8.6
不 明	1.6	1.3	2.8	—
計	100.0%(974)	100.0%(535)	100.0%(946)	100.0%(1,855)

—100—

第137表 女子の就職難は男子と同様か (地域別、男女未既婚別)

		就職難は 婦人も同じ	特に婦人 に著しい	一概に いえない	不 明	計
市	男(全 体)	61.3%	30.4%	8.1%	—%	100.0%(443)
	男(未 婚)	67.9	21.9	10.6	—	100.0 (103)
	男(離死別)	85.7	14.2	—	—	100.0 (14)
	男(有配偶)	58.2	34.0	7.6	—	100.0 (326)
	女(全 体)	59.6	32.3	5.1	2.7	100.0 (466)
郡 部	女(未 婚)	46.8	44.2	5.0	3.7	100.0 (79)
	女(離死別)	58.3	31.6	8.3	1.6	100.0 (60)
	女(有配偶)	62.9	29.6	4.5	2.7	100.0 (327)
	男(全 体)	67.2	20.1	9.6	2.9	100.0 (476)
	男(未 婚)	67.5	17.6	8.8	5.8	100.0 (68)
全 国	男(離死別)	(6)	(2)	—	—	100.0 (8)
	男(有配偶)	67.0	20.5	10.0	2.5	100.0 (400)
	女(全 体)	59.1	23.8	11.4	5.5	100.0 (470)
	女(未 婚)	62.8	17.1	19.9	—	100.0 (70)
	女(離死別)	47.6	28.5	9.5	14.2	100.0 (42)
郡 部	女(有配偶)	59.6	24.5	10.0	5.5	100.0 (358)
	男(全 体)	64.4	25.1	8.9	1.5	100.0 (919)
	男(未 婚)	67.8	19.8	9.9	2.3	100.0 (171)
	男(離死別)	81.8	18.1	—	—	100.0 (22)
	男(有配偶)	63.0	26.5	8.9	1.3	100.0 (726)
全 国	女(全 体)	59.4	23.0	8.3	4.1	100.0 (936)
	女(未 婚)	54.7	31.7	12.1	1.3	100.0 (148)
	女(離死別)	55.0	29.0	9.0	7.0	100.0 (100)
	女(有配偶)	61.0	27.1	7.4	4.3	100.0 (688)

—101—

第138表 女子の就職難は男子と同様か (家事担当別)

	就職難は 男も同じ	特に婦人 に著しい	一概に いえない	不明	計
市部					
家事担当者	61.5%	29.0%	5.8%	3.5%	100.0%(362)
それ以外	52.8	44.2	2.8	—	100.0 (104)
郡部					
家事担当者	57.7	24.4	10.5	7.2	100.0 (360)
それ以外	63.6	21.8	14.5	—	100.0 (110)
全国					
家事担当者	59.6	26.7	8.1	5.4	100.0 (722)
それ以外	58.4	32.7	8.8	—	100.0 (214)

第139表 女子の就職難は男子と同様か (生活程度別)

	上	中上	中下	下	計
市部					
上	61.0%	28.5%	10.3%	—%	100.0%(77)
中上	57.5	36.2	5.6	0.4	100.0 (441)
中下	63.0	26.6	7.0	3.2	100.0 (311)
下	66.2	26.2	6.2	1.2	100.0 (80)
郡部					
上	55.5	27.7	13.8	2.7	100.0 (72)
中上	66.3	22.5	7.2	3.8	100.0 (416)
中下	63.5	19.0	14.4	2.8	100.0 (346)
下	55.3	24.9	8.9	10.7	100.0 (112)
全国					
上	58.3	28.1	12.0	1.3	100.0 (149)
中上	61.8	29.6	6.4	2.1	100.0 (857)
中下	63.3	22.6	10.9	3.0	100.0 (657)
下	59.8	25.5	7.8	6.7	100.0 (192)

第140表 女子の就職難は男子と同様か (年令別)

	20~24	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59
市部						
20~24	62.0%	30.7%	7.2%	—%	100.0%(166)	
25~29	58.9	33.9	5.9	1.7	100.0 (168)	
30~34	64.1	26.7	7.6	1.5	100.0 (151)	
35~39	65.3	29.9	3.8	0.7	100.0 (130)	
郡部						
40~49	55.2	35.4	7.6	0.5	100.0 (170)	
50~59	59.7	29.1	6.9	4.1	100.0 (144)	

	20~24	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59
市部						
20~24	67.7%	19.3	9.6	3.2	100.0%(124)	
25~29	54.5	30.3	13.6	1.5	100.0 (132)	
30~34	54.6	23.2	12.7	9.2	100.0 (172)	
35~39	68.9	18.9	8.4	4.2	100.0 (142)	
40~49	65.7	18.9	10.8	4.5	100.0 (222)	
50~59	67.5	23.4	7.7	1.2	100.0 (154)	
郡部						
20~24	64.4	25.8	8.2	1.3	100.0 (290)	
25~29	56.6	32.3	9.3	1.6	100.0 (300)	
30~34	58.7	24.7	10.5	5.9	100.0 (303)	
35~39	67.2	23.8	6.2	2.5	100.0 (272)	
40~49	61.2	26.5	9.4	2.8	100.0 (392)	
50~59	63.7	26.1	7.3	2.6	100.0 (298)	
全国						

第141表 女子の就職問題についての全体的傾向

	六大都市	その他の都市	郡部	全国
婦人に就職の心配なし	16.8%	16.8%	19.8%	18.5%
婦人に就職の心配あり	59.9	66.0	49.0	55.2
不明	23.1	17.0	30.9	26.1
計	100.0%(664)	100.0%(885)	100.0%(2,072)	100.0%(3,621)

[注] 35 本表は次の手続きによつて作製される

婦人に就職の心配なし・・・・・・第128表の「心配はいらない」+第133表の「多くなつてくるとは思えない」

婦人に就職の心配あり・・・・・・第128表の「適職がないのが心配」+「就職口が追いつかない」+「就職条件の低下」+第133表の「多くなつてくる」

不明・・・・・・第128表の「問題の誤解」+「不明」+第133表の「一概に言えない」+「不明」

V 附 録

1 対象者の構成

(1) 対象者総数 (満20才以上60才未満の日本人男女)

六大都市 406 その他の都市 989 郡部 1,105 計 2,500

(2) 事故数 転居 55 長期不在 79 一時不在 37 精神欠陥 4 難題 1

病気 24 拒否 10 住所不明 20 調査条件不備 2 その他 15

計 247

(3) 有効枚数 六大都市 992 その他の都市 885 郡部 1,096 計 2,253

(調査票回収率 90.1%)

但し六大都市と郡部とにあつては、豫めサンプル数を $\frac{1}{2}$ にしてとつたので、集計にあつては

有効数を二倍にし、六大都市 664 郡部 2,072 となり、集計上の実数は 3,621 となる

以下は集計上の実数を 100 とした場合の比率である。

(4) 地域別 六大都市 18.3% (664)

その他の都市 24.4% (885)

郡部 57.2% (2,072)

(5) 性別・未婚別

	六大都市	その他の都市	郡部	全 国
男(全 体)	48.4%(922)	48.8%(494)	47.3%(984)	47.8%(1,740)
男(未 婚)	12.6 (84)	10.0 (89)	7.1 (148)	8.8 (321)
男(離死別)	1.2 (8)	1.5 (14)	1.9 (28)	1.9 (50)
男(有配偶)	34.6 (290)	37.3 (391)	38.9 (808)	37.8 (1,369)
女(全 体)	51.4 (942)	50.8 (451)	52.4 (1,088)	51.8 (891)
女(未 婚)	9.9 (62)	7.9 (65)	5.9 (124)	6.9 (251)
女(離死別)	5.4 (36)	6.8 (61)	5.5 (114)	5.8 (211)
女(有配偶)	36.7 (244)	36.7 (325)	41.0 (850)	39.1 (1,419)

(6) 年齢別

	六大都市	その他の都市	郡部	全 国
20~24才	23.1%(154)	14.3%(127)	13.5%(276)	15.3%(557)
25~29才	14.7 (98)	17.1 (152)	14.4 (300)	15.1 (550)
30~34才	12.9 (82)	16.9 (145)	16.8 (350)	15.9 (577)
35~39才	14.7 (98)	13.9 (118)	13.8 (286)	13.8 (502)
40~49才	17.7 (118)	21.6 (192)	23.0 (478)	21.7 (788)
50~59才	17.1 (114)	17.0 (151)	18.4 (382)	17.8 (647)

(7) 学歴別

	六大都市	その他の都市	郡部	全 国
小 卒	21.6%(144)	17.7%(157)	28.2%(586)	24.4%(887)
高小卒	31.0 (206)	41.4 (367)	53.3 (1,106)	46.9 (1,679)
中 卒	34.9 (232)	32.8 (291)	14.7 (306)	22.8 (829)
専大卒	12.9 (82)	7.9 (70)	3.5 (74)	6.2 (226)

(8) 家族数別

	5.			
1 人	5.1%(34)	4.6%(41)	1.2%(26)	2.7%(101)
2 人	9.6 (64)	16.1 (54)	3.2 (68)	5.1 (186)
3 人	15.6 (104)	11.9 (106)	7.2 (150)	9.9 (360)
4~5人	36.1 (240)	35.3 (313)	30.2 (626)	32.5 (1,179)
6~9人	30.4 (202)	38.8 (344)	48.1 (998)	42.6 (1,544)
10人以上	3.0 (20)	3.0 (27)	9.8 (204)	6.9 (251)

(9) 世帯主との続柄別

世 帯 主	43.0%(286)	43.7%(387)	37.1%(770)	39.8%(1,443)
世帯主の妻	34.9 (232)	33.4 (296)	31.7 (720)	34.4 (1,248)
男子卑属	8.7 (58)	9.5 (83)	12.5 (260)	11.1 (403)
女子卑属	9.0 (60)	8.4 (75)	11.6 (242)	10.4 (377)
そ の 他	4.2 (28)	4.1 (42)	3.8 (80)	4.1 (150)

(10) 世帯内の子供の有無

小学生のみあり	15.0%(100)	21.6%(192)	16.0%(332)	17.2%(624)
小学生と乳(幼)児	20.4 (136)	25.3 (224)	34.0 (706)	29.4 (1,066)
乳(幼)児のみあり	25.6 (170)	23.9 (207)	27.8 (578)	26.9 (955)
子供なし	38.8 (258)	29.6 (262)	22.0 (456)	26.9 (976)

(11) 土地、家屋の所有状況 (M.A.)

男名義の土地あり	26.8%(178)	41.9%(371)	74.3%(1,540)	57.6%(2,089)
男名義の家屋あり	43.9 (292)	55.9 (495)	80.7 (1,674)	67.9 (2,461)
女名義の土地あり	2.4 (16)	4.8 (43)	4.0 (84)	3.9 (143)
女名義の家屋あり	4.2 (28)	5.3 (47)	3.3 (70)	4.0 (145)
土地家屋なし	48.4 (322)	35.0 (310)	13.1 (272)	24.9 (904)
不 明	0.9 (6)	0.6 (6)	0.3 (8)	0.5 (20)

(12) 株、債券の所有状況 (M. A.)

	六 大 都 市	その他の都市	郡 部	全 国
男名義の株あり	13.2%(88)	12.8%(1,14)	15.1%(914)	14.2%(516)
男名義の債券あり	3.6 (24)	4.2 (38)	5.4 (112)	4.8 (174)
女名義の株あり	2.7 (18)	2.5 (23)	1.1 (24)	1.7 (65)
女名義の債券あり	1.2 (8)	0.4 (4)	1.1 (24)	0.9 (36)
株、債券なし	80.1 (532)	82.0 (726)	77.7 (1,612)	79.2 (2,870)
不 明	4.5 (30)	2.8 (25)	9.1 (66)	5.9 (121)

(13) 本人職業内容別

	六 大 都 市	その他の都市	郡 部	全 国
農 林 漁 業	3.3%(22)	11.4%(101)	52.9%(1,098)	33.7%(1,221)
商 工 業	12.0 (80)	18.1 (161)	11.1 (232)	13.0 (475)
事 務	15.3 (102)	16.1 (143)	7.6 (158)	11.1 (405)
労 務	27.7 (184)	18.5 (164)	10.3 (214)	15.5 (562)
自 由 業 (重役、高級社員)	3.0 (20)	1.4 (13)	0.6 (14)	1.2 (47)
そ の 他	1.5 (10)	2.3 (21)	0.8 (18)	1.2 (49)
な し	37.6 (246)	31.8 (282)	16.3 (338)	23.9 (866)

(14) 本人職業形態別

	六 大 都 市	その他の都市	郡 部	全 国
勤 務	41.5%(275)	33.0%(310)	14.5%(302)	24.5%(888)
自 営	10.5 (70)	19.0 (169)	29.1 (604)	23.2 (843)
日 傭	2.4 (16)	3.3 (30)	3.8 (80)	3.4 (126)
内 職	5.4 (36)	4.1 (37)	1.7 (36)	3.0 (109)
家 族 従 業	6.0 (40)	9.9 (89)	35.4 (734)	23.6 (857)
家 事 の み	29.5 (196)	24.4 (216)	14.0 (292)	19.4 (704)
な し	4.5 (30)	4.5 (40)	1.1 (24)	2.3 (94)

(15) 地域、男女未既婚、職業形態別

	自 営	勤 務	日 傭	内 職	家族従業	家事のみ	無 職	計
六 大 都 市	男(全 体) 67.0%	20.4%	3.1%	—%	3.7%	—%	5.5%	100.0 (922)
	〃(未 婚) 76.1	2.3	2.3	—	2.3	—	16.6	100.0 (84)
	〃(離死別) (4)	(2)	(2)	—	—	—	—	100.0 (8)
	〃(有配偶) 64.3	26.9	2.2	—	4.2	—	1.7	100.0 (231)
	女(全 体) 17.3	1.1	1.7	10.5	8.7	56.7	3.5	100.0 (342)
	〃(未 婚) 61.2	—	—	—	—	29.0	9.6	100.0 (62)
	〃(離死別) 16.6	5.5	16.6	5.5	—	49.9	5.5	100.0 (36)
	〃(有配偶) 6.5	0.8	—	13.9	12.2	64.7	1.6	100.0 (244)
そ の 他 の 都 市	男(全 体) 53.9	32.0	2.7	—	4.5	—	6.6	100.0 (434)
	〃(未 婚) 64.0	6.7	2.2	—	10.1	—	16.8	100.0 (39)
	〃(離死別) (6)	(6)	(1)	—	—	—	(1)	100.0 (14)
	〃(有配偶) 51.6	38.3	2.7	—	3.3	—	3.9	100.0 (331)
	女(全 体) 16.8	6.6	3.9	8.2	14.1	47.6	2.4	100.0 (451)
	〃(未 婚) 59.9	3.0	3.0	1.5	7.6	19.9	4.6	100.0 (65)
	〃(離死別) 21.3	14.7	9.8	9.8	4.9	34.4	4.9	100.0 (61)
	〃(有配偶) 7.9	5.8	3.0	9.2	17.2	55.6	1.5	100.0 (325)
郡 部	男(全 体) 23.3	54.0	6.7	0.4	14.6	—	0.8	100.0 (984)
	〃(未 婚) 36.4	8.1	9.4	—	43.2	—	2.7	100.0 (148)
	〃(離死別) 28.5	64.2	7.1	—	—	—	—	100.0 (28)
	〃(有配偶) 20.7	62.1	6.1	0.4	9.9	—	0.4	100.0 (808)
	女(全 体) 6.2	6.6	1.2	3.3	54.0	27.0	1.4	100.0 (1,088)
	〃(未 婚) 29.0	3.2	1.6	1.6	40.3	19.3	4.8	100.0 (124)
	〃(離死別) 3.2	36.8	1.7	1.7	40.3	12.2	1.7	100.0 (114)
	〃(有配偶) 3.0	3.0	1.1	3.7	57.8	30.1	0.9	100.0 (850)
全 国	男(全 体) 39.3	42.3	5.0	—	10.0	—	3.1	100.0 (1,740)
	〃(未 婚) 54.5	6.2	3.6	—	23.3	—	10.2	100.0 (321)
	〃(離死別) 36.0	52.0	10.0	—	—	—	2.0	100.0 (50)
	〃(有配偶) 93.8	50.4	4.7	—	7.3	—	1.5	100.0 (1,369)
	女(全 体) 10.8	5.6	2.0	5.7	36.3	37.2	2.0	100.0 (1,881)
	〃(未 婚) 45.0	2.3	1.5	1.5	21.9	21.5	5.9	100.0 (251)
	〃(離死別) 11.8	25.1	6.6	4.7	23.2	25.1	3.3	100.0 (211)
	〃(有配偶) 4.6	3.3	1.4	6.6	40.8	41.8	1.1	100.0 (1,419)

(16) 家事担当女子別 (総数 1,881)

	大大都市	その他の都市	郡	部	全	望
候事担当者	76.0% (260)	72.1% (357)	77.8% (846)		77.7% (1,463)	
候事手伝い	17.5 (60)	15.9 (72)	19.8 (216)		18.4 (348)	
候事やらない	6.4 (22)	4.8 (22)	2.5 (26)		3.7 (70)	

(17) 拍賣相當、職業形態別 (總數 1881)

勤務	自費	日給	内職	家族従業	家持のみ	何もしない	計
家事担当者	5.0%	2.7%	1.1%	1.10%	59.2%	0.8%	100.0% (617)
それ以外	1.7	3.9	2.2	1.47	24.9	10.2	100.0 (176)
家事担当者	8.0	1.4	3.7	5.10	30.7	0.4	100.0 (846)
それ以外	1.6	0.8	1.6	65.2	13.2	4.9	100.0 (242)
家事担当者	6.7	1.9	6.9	34.1	42.7	0.6	100.0 (1,463)
それ以外	1.6	2.1	1.9	44.0	18.1	7.1	100.0 (418)

(18) 家裏担当(附、男子一般)

	燃料産業	商工業	事務	労働	自由業 (農林漁商) その他 (職社員)	なし	計
家事担当者	2.3%	6.9%	3.8%	7.6%	—%	3.0%	100.0% (260)
それ以外	2.4	1.46	2.19	26.8	—	—	100.0 (82)
男	4.3	15.5	22.9	44.0	6.2	0.6	100.0 (522)
家事担当者	9.8%	11.7%	3.9%	8.9%	0.2%	3.6%	100.0% (357)
それ以外	11.7	11.7	24.4	15.9	—	1.0	100.0 (94)
男	12.6	24.8	24.4	26.9	2.7	1.6	100.0 (454)
家事担当者	51.5%	7.5%	1.6%	4.0%	0.2%	1.1%	100.0% (846)
それ以外	58.6	9.9	9.9	2.4	—	0.8	100.0 (242)
男	52.8	14.6	12.1	17.6	1.2	0.6	100.0 (984)
家事担当者	92.6%	8.4%	2.5%	5.8%	0.2%	2.1%	100.0% (1,465)
それ以外	97.0	11.2	15.5	10.2	—	0.7	100.0 (418)
男	93.8	17.9	17.2	24.8	2.5	0.8	100.0 (1,740)

(19) 配偶者の職業内容別 (有配偶者のみ 2,788)

	大都市	その他の都市	郡	全
農 業	4.2% (20)	15.2% (100)	53.3% (884)	36.0% (1,004)
商 工	15.1 (72)	19.6 (129)	10.9 (182)	13.7 (383)
事 務	16.0 (76)	12.0 (79)	5.1 (86)	8.6 (241)
勞 務	22.7 (108)	14.6 (96)	12.6 (210)	14.8 (414)
自 由 業 (重役高級社員)	1.0 (8)	1.3 (9)	0.3 (6)	0.8 (23)
そ の 他	1.6 (8)	2.7 (18)	0.4 (8)	1.2 (34)
な し	38.3 (182)	34.2 (225)	17.0 (282)	24.7 (689)

(20) 配偶者の職業形態別 (2,788)

専 業	55.4% (1,58)	24.2% (159)	12.9% (214)	12.4% (541)
自 営	13.5 (64)	20.8 (137)	30.8 (512)	25.5 (713)
日 雇	2.5 (12)	3.5 (23)	4.5 (76)	3.9 (111)
内 職	8.0 (38)	2.5 (17)	1.2 (20)	2.6 (75)
家族従業	3.8 (42)	15.8 (104)	34.0 (564)	25.4 (710)
家事のみ	29.1 (158)	28.7 (189)	14.1 (234)	20.1 (561)
無 職	2.5 (12)	4.1 (27)	2.2 (38)	2.7 (77)

(21) 農業、非農家別

農 業 家 族	4.2% (28)	9.2% (82)	38.8% (806)	25.2% (916)
主として地主・従として労働者	0.6 (4)	1.8 (16)	12.6 (262)	7.7 (282)
主として労働者	0.3 (2)	0.6 (6)	3.2 (68)	2.0 (76)
主として労働者	—	1.4 (13)	6.2 (130)	3.9 (143)
主として労働者	94.8 (630)	86.7 (768)	38.8 (804)	60.8 (2,202)
不 明	—	—	0 (2)	0 (2)

(22) 生活程度別

上 (3.5以上)	6.0% (40)	10.0% (89)	6.7% (140)	7.4% (269)
中上 (6.0以上)	41.8 (278)	51.9 (460)	42.6 (884)	44.7 (1,622)
中下 (3.5以上)	37.6 (250)	50.5 (270)	37.6 (780)	35.9 (1,300)
下 (3.5未満)	14.4 (96)	7.4 (66)	12.9 (268)	11.8 (430)

[註] 35調査判断により1点から10点までの間で生活程度を評価させた。

2 サンプルデザイン

I 母集団：満20才以上満60才未満（明治27年3月1日以降昭和9年1月31日迄に出生の者）の日本人男女

II サンプル数：2500名

III 層化方法：六大都市（含近郊都市）郡部に於いては層化副次無作為抽出法
その他の都市に於いては層化多段階無作為抽出法

(A) 全協市町村を市部と郡部とに分ける。

イ) 市部は2層に分ける。

- 1) 東京都区並びに近郊都市として、立川、三軒、武蔵野、川口、松戸、市川、船橋の各市を合せて1層とする。
- 2) 大阪市並びに近郊都市として、堺、八尾、布施、守口、寝屋川、吹田、豊中、池田、茨木、枚方の各市を合せて1層とする。
- 3) 京都市、名古屋市は各々単独で1層とする。
- 4) 横浜市、並びに川崎市を1層とする。
- 5) 神戸市並びに近郊都市として尼崎、伊丹、西宮、芦屋の各市を1層とする。
- 6) 人口26万以上製造工業率15%未満の都市を1層とする。
- 7) 北九州鉱工業都市を1層とする。
- 8) 人口16万以上26万未満の都市の中、製造工業率12%以上の都市を1層とし、製造工業率12%未満の都市は県庁所在地、それ以外の都市の2層に分ける。
- 9) 人口7万以上16万未満の都市は（鉱業率+製造工業率）、（農業率+林業率+水産業率）の大小により5層に分ける。
- 10) 人口7万未満の都市は（鉱業率+製造工業率）、（農業率+林業率+水産業率）市制施行年度により7層に分ける。

ロ) 郡部・・・・・・大別してA, B, C, D, Eの5グループに分け92層を得る。

- (A) 鉱業、水産業、林業の中、何れか一つの従事人口率の大きい町村は、農業を中心とする普通の町村と異なっていると見て、鉱業人口率14%以上、水産業人口率1.0%以上、林業人口率5.5%以上の町村をそれぞれ1層とし、3層を得る。
- (B) 商工業の高い町村は、準都市タイプとし、商業人口率、工業人口率の%の組合せに

よつて層化し、第27層より、第34層迄の8層に分けた。（此の際農業率50%以上の町村の中、商工業の高い町村は、Bグループに含めたが商工業の余り高くない町村はD, Eグループに廻すこととした。）

以上A, Bグループを除いた町村は、農業人口率で3大別し、水産業、林業人口率の%の高い町村及び農用地中、樹園地の占める%の高い町村を取り出し、更に商工業の比較的高い町村を取り出し残余を水田率、畑地率等で分類した。

(C) 先ず農業率50%以下の町村から4層をうる。

- i) 水産業人口率5%以上の町村で1層を作る。この層は、第25層よりは、水産業人口率の%の低い町村である。
- ii) (工)+(商) 8%以上の町村を1層とする。
- iii) その他の町村は水田率の大小により2層に分ける。

(D) 農業人口率50%以上40%未満の町村から7層を得る。

- i) 水産業、樹園地（梨園、茶園、果樹園等）林業の何れかが高い町村は夫々1層とし、3層を得る。
- ii) 水田、畑の%の高いグループは夫々1層とし2層を得る。
- iii) その他の町村は、商業、工業人口の比率、人口密度によつて分け2層を得る。

(E) 農業人口率40%以上の町村から10層を得る。

- i) 樹園地、林業の何れかが高い町村を夫々1層とし2層を作る。
- ii) 水田率の高い町村の中、商工業の比較的高い町村で1層を作る。残りを水田の比率により、2層に分け合計3層を得る。
- iii) 畑の多い町村は、その比率により2層を作る。
- iv) その他の町村は水田、畑、共に余り多くない町村であるが、その中では、水田を多少持つて見られる町村を1層とし、その他は人口密度に依つて2つに分けた。

かくして郡部を52層に層化

抽出方法：

- a. 六大都市及び近郊都市に於いては、抽出用、単位区番号簿により、特色別に若干の単位区を抽出し、これを含む町を調査町とした。
- b. その他の都市に於いては、確率比例により一市町村を抽出し、抽出都市に於いては、前と同様に若干の抽出用、単位区を選びそれを含む町を調査町とした。

東京都区	1.138	京都市	1.012	神戸市	1.117
東京近郊都市	1.050	名古屋市	1.092	神戸近郊市	1.095
大阪市	1.145	横浜市	1.078	その他の都市	1.007
大阪近郊都市	1.044	川崎市	1.170	郷 部	0.959

115

No	特 徴	性 質	農の大きさ	20才以上60才未満人口	抽出都市名	人 口	面積	人口密度	農 業	水 産	工 業	商 業
16	人口15万未満	製造工業率+ 鉱業率10%未満	1,186,350	575,380	大分市	94,455	59	16,081	10	0	0	4
17	人	同上	990,795	480,530	日立市	56,066	37	1,501	2	0	9	14
18	口	同上	973,331	472,066	能代市	49,027	70	698	11	0	0	14
19	7	市制施行 昭和7年起	956,575	468,789	秋 市	41,513	79	524	9	0	4	6
20	万	同上	1,140,115	529,556	塩釜市	45,820	12	3,680	3	0	9	4
21	未	市制施行 昭和8年以前	1,136,168	551,041	豊川市	55,178	59	935	18	0	0	3
22	漸	同上	924,155	448,215	笠岡市	30,046	23	1,305	14	1	0	10
23		市制施行 昭和21年以降	1,019,097	424,262	佐原市	34,773	83	482	25	0	0	6
	市 部	計	3,308,1209	16,590,065								

〔註〕 産 業 率：昭和22年国勢調査資料による

その他の数字：昭和25年国勢調査資料による

(郡 部)

昭和25年国勢調査による

No	Characteristic	Size	20才以上60才未満人口	抽出町村名	人口	面積	人口密度	林 地	水 産	工 業	商 業	水 田	畑 田	商 業
24	M $\geq$ 14	1,514,578	674,164	福岡県田川郡	8,387	21	493	17	0	15	4	1	51	15
25	R $\geq$ 10	1,363,459	608,103	北九州市小倉区	4,843	112	43	1	0	24	1	3	2	0
26	R $\geq$ 5.5	1,555,251	693,542	福岡県大牟田郡	1,512	34	44	3	7	0	3	1	0	6
27	C $\geq$ 5, I $\geq$ 10	1,503,131	670,996	福岡県糟屋郡	5,324	14	0	9	2	0	0	12	8	1
28	S $>$ C $>$ 3, I $\geq$ 13 or C $\geq$ 4, I $\geq$ 12	1,606,507	716,502	福岡県糟屋郡	14,614	15	100	16	0	1	0	12	4	5
29	C $\geq$ 4, I $\geq$ 10 or C $\geq$ 3, I $\geq$ 9	1,710,203	762,751	福岡県糟屋郡	19,126	11	166	9	0	0	9	5	1	7
30	A $\geq$ 25, C $\geq$ 5, I $\geq$ 10 or A $\geq$ 25, C $\geq$ 4, I $\geq$ 8	1,454,808	666,684	福岡県糟屋郡	5,519	11	484	1	0	9	0	6	5	6
31	A $\geq$ 25, C $\geq$ 5, I $\geq$ 10 or A $\geq$ 25, C $\geq$ 4, I $\geq$ 8	1,548,965	690,858	福岡県糟屋郡	6,971	17	411	14	0	0	1	6	4	5
32	A $\geq$ 30, C $\geq$ 4, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, C $\geq$ 3, I $\geq$ 12	1,581,526	705,387	福岡県糟屋郡	3,416	11	74	12	0	0	0	3	4	9
33	S $>$ C $\geq$ 1, I $\geq$ 12	1,486,020	662,765	福岡県糟屋郡	3,935	10	396	29	0	0	0	19	2	4
34	S $>$ C $\geq$ 1, I $\geq$ 12 or S $>$ C $\geq$ 1, I $\geq$ 11	1,616,220	741,350	福岡県糟屋郡	4,269	12	346	31	0	0	0	10	1	3
35	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13	1,423,420	666,957	福岡県糟屋郡	4,526	6	808	18	0	9	0	3	3	6
36	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, I $\geq$ 12	1,442,907	645,597	福岡県糟屋郡	8,931	9	543	28	0	0	0	6	2	7
37	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, I $\geq$ 12	1,593,484	710,694	福岡県糟屋郡	4,964	13	397	29	0	1	9	2	8	7
38	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, I $\geq$ 12	1,543,661	689,365	福岡県糟屋郡	15,625	440	95	27	3	0	0	4	2	1
39	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, I $\geq$ 12	1,653,528	728,555	福岡県糟屋郡	5,049	5	110	31	0	3	0	1	0	5
40	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, I $\geq$ 12	1,555,085	693,570	福岡県糟屋郡	4,767	9	599	37	0	0	4	1	2	8
41	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, I $\geq$ 12	1,643,257	728,893	福岡県糟屋郡	5,478	42	191	59	5	0	0	3	2	8
42	A $\geq$ 30, I $\geq$ 13 or A $\geq$ 30, I $\geq$ 12	1,558,601	695,136	福岡県糟屋郡	8,402	11	786	36	0	0	5	1	9	4

A (特殊タイプ)

B (進部タイプ)

C (進部小)

D (進部中)

14

- 119 -

注意

- イ 対象者が男の場合、2から6までの質問は対象者の妻のみについてきく（但し、3はきかない）妻のない場合はすぐ7へ行く
- ロ 対象者が女の場合は、2から6まで「あなたは・・・」できく
- ヘ (イ) (ロ) で規定した女の職業形態により、2から6までの間で、聞く質問と聞かない質問とがあるから、注意すること
- | | | |
|---------|-----|-----------|
| 職業形態 | ① | → 2, 5 |
| " | ② | → 2, 5 |
| " | ③ | → 2, 5 |
| " | ④ | → 2, 3, 5 |
| " | ⑤ | → 4, 5 |
| 職業のない者⑥ | → 6 | |
- を聞き7へ移る
- 職業形態が重複する場合は、「本職」の方を質問する

2. [①勤務 ②自営 ③日傭 ④内職のものに]

それで、月どの位の収入になりますか

本職 _____ 円 内職 _____ 円 計 _____ 円

S Q 1. 今後もその仕事を (M, A, の場合は、本職を) すつと続けて行きたい (続けさせたい)

と思いませんか、それとも、適当なときにやめたい (やめさせたい) と思いませんか

1. 続けたい (続けさせたい) (やむを得ない) 2. やめたい (やめさせたい) (も嫌隙を含む)

3. その他 O, D, K

S Q 2. なぜ続けたい (続けさせたい) のですか
(なぜやむを得ないのですか) (O, A)

S Q 3. なぜやめたい (やめさせたい) のですか、(なぜ転職したい (させたい) のですか) (O, A)

3. [対象者が女で④内職のみしていて、ほかから収入がないものに]

内職仕事とぎれたり、取いはその利益が少くて困ることが多いですか

1. 困らぬ (困ることは少ない) 2. 内職が不定期で (近くて) 困る、3. 利益が少くて困る、4. 困る O, D, K

S Q 1. そのため毎日夜おそくまで仕事をしているわけですか

1. 毎日夜おそくまでする、2. ときにおそくまでする、3. そんなことはしない (できない) O, D, K

S Q 2. 内職に使う時間は、大体平均して1日何時間位ですか

時間 _____ O, D, K

S Q 3. [家で中内で内職をやっているものみで]

-120-

もつとわりのよい仕事があれば家庭外で働きたいと思いませんか

1. 家庭外で働きたいと思う、2. 外で働こうとは思わない、3. 一概に言えない O, D, K

S Q 4. どうしてですか

4. [⑤家族従業員 (機、商等) のものに] 今後もその仕事をすつと続けて行きたい (続けさせたい) と思いませんか、それとも適当なときにやめたい (やめさせたい) と思いませんか

1. 続けたい (させたい) (やむを得ない) 2. やめたい (やめさせたい) 3. その他 O, D, K

S Q 1. 続けたい (させたい) のはなぜですか (やむを得ない)

S Q 2. やめたい (やめさせたい) のはなぜですか (O, A)

5. [①勤務 ②自営 ③日傭 ④内職 ⑤家族従業員のものに] あなたは (奥さんは) 台所仕事や洗濯などの家事をやっておられるのですか (質問1参照)

1. 家事の責任者である、2. 家事もやっている、3. 家事をしない、O, D, K

S Q 1. 家事と仕事と両方うまくやっていますか、それとも、どちらか多少ともオロソカになりますか

1. 両方うまくやれる 2. 仕事がオロソカになる 3. 家事がオロソカ 4. その他 O, D, K

S Q 2. 家事と仕事と、どちらに重点をおいてやっていますか (やらせたい) と思いませんか

どちらかと言えばどちらですか

1. 家事に重点 2. 仕事に重点 3. 両方同じように 4. その他 () O, D, K

6. [職業のないものに] 何か仕事をしよう (もたせたい) という気はありませんか

1. 仕事をする (もたせる) 気がある、2. 場合によつてはある、3. 仕事をする (もたせる) 気はない O, D, K

S Q 1. 家で中中で働ける仕事が欲しいですか、外で働いてもかまいませんか

1. 外で働くのは困る、2. 外で働いてもかまわない、3. 場合による O, D, K

7. 話は変りますが、一般的に言つて家庭外で職業についている女の人には、生活費の足しにしたという入と何か社会とつながりを持ちたいと言ふ人と、どちらが多いと思いませんか、... どちらかと言えばどちらでしょうか

1. 「家計の足し」が多い、2. その他 () 3. 「社会とつながり」が多い O, D, K

8. 生活に余裕が出来たら、女の方は家庭にいた方がよいと思いませんか、それとも積極的に職業をもつた方がよいと思いませんか

1. 家庭にいた方がよい、2. 一概に言えない、3. 積極的に職業をもつ O, D, K

9. 家庭外で職業についている女の人では一生働こうという人が、だんだんふえてきていると思いますか。それ程でもないと思いますか。

1. それ程でもない。O, D, K

2. ふえてきている。 3. 一概に言えない。

S Q 1. 女の人が職業につく場合は腰掛(一時的)
1. 腰かけでもよい。 2. やむを得ない。 3. 場合による。 4. 腰掛ではよくない。 O, D, K

S Q 2. 女の人一般にそこまでやる必要はないと思いますか。
1. そこまでやる必要はない。
2. やむを得ない。
3. 場合による。
4. 必要がないとは思わぬ。
O, D, K

S Q 3. どうしてですか。(O, A)

10. 年々職業につくことを希望する女の人が増えてゆくと考えますか。別にそうは思いませんか。

1. 増えてゆく 2. 一概に言えない 3. 増えるとは思わぬ O, D, K

S Q 1. 女の人就職口もだんだん多くなつてゆくと考えますか。
それともそう多くはならないと思いますか。
1. 多くなつてゆく 2. そう多くはならない 3. 一概に言えない O, D, K

S Q 2. では女の人就職については、別に心配はいらないというわけですか。
1. 心配はいらない。 O, D, K
2. 心配はある

S Q 3. 心配というものは一体どういうことですか。(O, A)

S Q 4. (では)職業につかなくてもつけない婦人が多くなつてきているというわけですか。(と
思いますか)
1. 多くなつて 2. 多くなつて 3. 一概に言えない。
くる くると思 ない。
えぬ O, D, K

S Q 5. そういう傾向は、大体男も同じだと思
いますか、それとも特に婦人に著しいと思
いますか
1. 男も同じ 2. 婦人に著しい 3. 一概にい
えぬ。 O, D, K

4. 統計表目次

第 1 表	世帯内の満14才以上の女子の数
第 2 表	世帯内の満14才以上の女子就業者数
第 3 表	世帯内の満14才以上の女子数と女子就業者数との割合
第 4 表	世帯内女子の職業形態
第 5 表	世帯内満14才以上女子の未婚婚別
第 6 表	世帯内満14才以上女子未婚婚別・職業形態別
第 7 表	世帯内満14才以上女子家事担当別
第 8 表	満14才以上女子家事担当別・職業別
第 9 表	世帯内に母(姑)がいるかどうか
第10表	姑(又は母)と嫁(又は娘)の就業状態
第11表	姑(母)と嫁(娘)の家事に於ける関係
第12表	妻の職業形態
第13表	妻と家事担当の程度
第14表	家事を担当している妻と担当していない妻の職業形態
第15表	妻に中学生以下の子供がある場合
第16表	「妻」の子供の有無と職業形態との関係
第17表	妻の年齢別構成(満年齢)
第18表	妻の年齢別職業形態
第19表	本職収入
第20表	内職収入
第21表	本職・内職・収入の合計
第22表	地域別・生活程度別・本職収入
第23表	生活程度別内職収入
第24表	夫婦の職業形態〔全国〕
第25表	夫婦の職業内容〔全国〕
第26表	共働き職業形態(夫の側)〔全国〕
第27表	共働き職業形態(妻の側)〔全国〕
第28表	共働きの職業内容(夫の側)〔全国〕
第29表	共働きの職業内容(妻の側)〔全国〕
第30表	夫の職業形態と妻の本職収入(実数)〔全国〕

第3 1 表	夫の職業形態と妻の内職収入(実数)〔全国〕
第3 2 表	夫の職業形態と妻の本職、内職、収入の合計(実数)〔全国〕
第3 3 表	仕事の継続について(註 勤務、自営、日雇、内職の女子、並びに夫、 以下 4 4 表 まで同じ。)
第3 4 表	仕事の継続について(男女別、未婚婚別)
第3 5 表	仕事の継続について(家事担当別)
第3 6 表	仕事の継続について(年齢別)
第3 7 表	仕事の継続について(学歴別)
第3 8 表	仕事の継続について(生活程度別)〔全国〕
第3 9 表	仕事を続けたい(続けさせたい)理由
第4 0 表	仕事を続けたい(続けさせたい)理由(男女別)
第4 1 表	仕事をやめたい(やめさせたい)理由
第4 2 表	仕事をやめたい(やめさせたい)理由(男女別)
第4 3 表	仕事の継続について(質問組合せ1)
第4 4 表	仕事の継続について(質問組合せ2)
第4 5 表	内職者の状態 その一
第4 6 表	内職者の状態 その二
第4 7 表	内職の時間
第4 8 表	内職者の希望
第4 9 表	内職の形態
第5 0 表	仕事(家族従業)の継続について(註 家族従業の女子並びに夫、 以下 5 1 表 まで同じ。)
第5 1 表	仕事(家族従業)の継続について(男女別)
第5 2 表	仕事(家族従業)の継続について(年齢別)
第5 3 表	仕事(家族従業)の継続について(農家非農家別)〔全国〕
第5 4 表	仕事(家族従業)を続けたい(続けさせたい)理由
第5 5 表	仕事(家族従業)を続けたい(続けさせたい)理由(男女別)
第5 6 表	仕事(家族従業)を続けたい(続けさせたい)理由(農家非農家別)
第5 7 表	仕事(家族従業)をやめたい(やめさせたい)理由
第5 8 表	仕事(家族従業)をやめたい(やめさせたい)理由(男女別)
第5 9 表	仕事(家族従業)をやめたい(やめさせたい)理由(農家非農家別)

第6 0 表	仕事(家族従業)の継続について(質問組合せ1)
第6 1 表	仕事(家族従業)の継続について(質問組合せ2)
第6 2 表	仕事従事の程度(註 勤務、自営、日雇、内職、家族従事の女子並びに夫、 以下 7 4 表 まで同じ。)
第6 3 表	家事と仕事の関連
第6 4 表	家事と仕事の関連(男女別、未婚婚別)
第6 5 表	家事と仕事の関連(学歴別)
第6 6 表	家事と仕事の関連(生活程度別)〔全国〕
第6 7 表	家事と仕事の関連(年齢別)
第6 8 表	家事と仕事のどちらに重点を置くか
第6 9 表	家事と仕事のどちらに重点を置くか(男女別、未婚婚別)
第7 0 表	家事と仕事のどちらに重点を置くか(家事と仕事の関連別)
第7 1 表	家事と仕事のどちらに重点を置くか(家事と仕事の関連別)
第7 2 表	家事と仕事のどちらに重点を置くか(年齢別)
第7 3 表	家事と仕事のどちらに重点を置くか(学歴別)
第7 4 表	家事と仕事のどちらに重点を置くか(生活程度別)
第7 5 表	無職の女子と就業意欲(註 無職の女子並びに夫、以下 8 9 表 まで同じ。)
第7 6 表	無職の女子と就業意欲(地域別、男女別)
第7 7 表	無職の女子と就業意欲〔全国〕
第7 8 表	無職の女子と就業意欲〔全国〕
第7 9 表	無職の女子の就業への意欲(家事担当別)
第8 0 表	無職の女子と就業意欲(年齢別)
第8 1 表	無職の女子と就業意欲(学歴別)
第8 2 表	無職の女子と就業への意欲(生活程度別)
第8 3 表	無職の女子が就業する場合の希望
第8 4 表	無職の女子が就業する場合の希望(男女未婚婚別)
第8 5 表	無職の女子が就業する場合の希望(世帯内に子供がいる場合)
第8 6 表	無職の女子が就業する場合の希望(家事担当別)
第8 7 表	無職の女子が就業する場合の希望(年齢別)
第8 8 表	無職の女子が就業する場合の希望(学歴別)
第8 9 表	無職の女子が就業する場合の希望(生活程度別)

第90表	女子が職業に就く理由
第91表	女子が職業に就く理由(地域別男女未既婚別)
第92表	女子が職業に就く理由(学歴別)
第93表	生活に余裕ある場合、女子が職業につく事について
第94表	生活に余裕ある場合、女子が職業につく事について(地域別、男女未既婚別)
第95表	生活に余裕ある場合、女子が職業につく事について(家事担当別)
第96表	生活に余裕ある場合、女子が職業につく事について(年齢別)
第97表	生活に余裕ある場合、女子が職業につく事について(学歴別)
第98表	生活に余裕ある場合、女子が職業につく事について(生活程度別)
第99表	生活に余裕ある場合、女子が職業につく事について(職業につく理由別)
第100表	一生働こうという婦人の増減についての考え
第101表	一生働こうという婦人の増減についての考え(男女未既婚別)
第102表	一生働こうという婦人の増減についての考え(学歴別)
第103表	女子の職業は一時的でよいか
第104表	女子の職業は一時的でよいか(地域別、男女未既婚別)
第105表	女子の職業は一時的でよいか(家事担当別)
第106表	女子の職業は一時的でよいか(学歴別)
第107表	女子の職業は一時的でよいか(生活程度別)
第108表	女子の職業は一時的でよいか(年齢別)
第109表	女子の職業は一時的でよいか(質問組合せ1)
第110表	女子の職業は一時的でよいか(質問組合せ2)
第111表	女子の職業は一時的でよいか(質問組合せ3)
第112表	職業意識〔全国〕(註 質問組合せにより、職業に対する態度を6グループに分けて集計した。以下121表まで同じ。)
第113表	職業意識(地域別)
第114表	職業意識(男女未既婚別)〔全国〕
第115表	職業意識(家事との関連)〔全国〕
第116表	職業意識(家事との関連)〔全国〕
第117表	職業意識(就職に心配があるかないか)〔全国〕
第118表	職業意識(学歴別)〔全国〕
第119表	職業意識(本人職業形態別)〔全国〕

121	職業意識(生活程度別)〔全国〕
122	就職希望の女子の増加に対する考え
123	就職希望の女子の増加に対する考え(地域別、男女別)
124	就職希望の女子の増加に対する考え(学歴別)
125	女子就職口の増加についての考え
126	女子就職口の増加についての考え(男女別)
127	女子就職口の増加についての考え(学歴別)
128	女子の就職についての心配
129	女子の就職についての心配(男女別)
130	女子の就職についての心配(家事担当別)〔全国〕
131	女子の就職についての心配(年齢別)〔全国〕
132	女子の就職についての心配(学歴別)
133	女子は就職難か
134	女子は就職難か(男女未既婚別)
135	女子は就職難か(学歴別)
136	女子の就職難は男子と同様か
137	女子の就職難は男子と同様か(地域別、男女未既婚別)
138	女子の就職難は男子と同様か(家事担当別)
139	女子の就職難は男子と同様か(生活程度別)
140	女子の就職難は男子と同様か(年齢別)
141	女子の就職問題についての全体的な傾向

— 以上 —